



Informatica® Multidomain MDM
10.4

プロビジョニングツールガイド

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2020-06-05

目次

序文	10
Informatica のリソース	10
Informatica Network	10
Informatica ナレッジベース	10
Informatica マニュアル	10
Informatica 製品可用性マトリックス	11
Informatica Velocity	11
Informatica Marketplace	11
Informatica グローバルカスタマサポート	11
第 1 章 : 概要	12
プロビジョニングツールの概要	12
アーキテクチャ	13
前提条件	13
主な概念	14
ビジネスエンティティ	14
参照エンティティ	14
ルートノード	14
プロビジョニングツールへのログイン	14
第 2 章 : Data Director アプリケーションの設定	16
Data Director アプリケーションの設定の概要	16
Data Director アプリケーションの作成	17
アプリケーションでのビジネスエンティティの非表示（オプション）	18
検索またはクエリ結果の表示の設定	18
日時形式の設定	19
第 3 章 : ルートノードの確立	20
ルートノードの確立の概要	20
ルートノードの追加例	20
前提条件	21
ルートノードのプロパティ	21
ビジネスエンティティルートノードの作成	22
参照エンティティルートノードの作成	23
状態管理検証の有効化	24
レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定	24
第 4 章 : ビジネスエンティティモデルの定義	26
ビジネスエンティティモデルの定義の概要	26
ビジネスエンティティモデルの設定例	27

前提条件.	27
制約.	27
ノードタイプ.	28
1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成.	29
1 対 1 のリレーションがあるノードの作成.	30
1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードの作成.	31
ビジネスエンティティのコピー.	32
第 5 章 : ビジネスエンティティのプロパティの設定.	33
ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要.	33
フィールドのプロパティ.	33
ノードへのフィールドの追加.	36
カスタムデータ型.	37
定義済みカスタムデータ型.	37
フィールドへのカスタムデータ型の追加.	38
Data Director のノードのラベル.	38
ノードのラベルの設定.	39
第 6 章 : 参照エンティティのプロパティの設定.	41
参照エンティティのプロパティの設定の概要.	41
ルックアップタイプ.	41
フィールドのプロパティ.	42
ノードへのフィールドの追加.	43
参照エンティティへのフィールドフィルタの追加.	44
カスタムデータ型.	45
定義済みカスタムデータ型.	45
フィールドへのカスタムデータ型の追加.	46
ルックアップの設定.	46
依存ルックアップの設定.	47
第 7 章 : ビジネスエンティティとビューの変換.	49
ビジネスエンティティとビューの変換の概要.	49
トランスフォーメーションのソースおよびターゲット.	50
クレンジングトランスフォーメーション.	51
読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション.	51
ビジネスエンティティビューのモデル化.	53
ビジネスエンティティビューのルートノードの作成.	53
ルートノードおよび子ノードへのフィールドの追加.	54
子ノードの追加.	54
ビジネスエンティティビューのコピー.	55
ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定.	55
1 対多の子ノードのトランスフォーメーションの設定.	55
直接トランスフォーメーションの設定.	56

ビューをビジネスエンティティにマッピングするためのトランスフォーメーションの設定.	57
子ノードのトランスフォーメーションの設定.	57
直接トランスフォーメーションの設定.	57
クレンジングトランスフォーメーションの設定.	58
ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定.	59
子ノードのトランスフォーメーションの設定.	59
クレンジングトランスフォーメーションの設定.	60
トランスフォーメーションの削除.	61

第 8 章 : 階層リレーションとネットワークリレーションの設定. 62

階層リレーションとネットワークリレーションの設定の概要.	62
アイコンと色.	63
階層関係.	63
ネットワークリレーション.	64
前提条件.	65
階層リレーションの設定.	66
手順 1. 階層を作成する.	66
手順 2. 階層内のルートノードを設定する.	66
手順 3. ビジネスエンティティを階層に追加する.	67
手順 4. 階層リレーションを設定する.	67
手順 5. 階層設定値を設定する.	68
ステップ 6. 追加のリレーション属性を設定する（オプション）.	69
ネットワークリレーションの設定.	70
手順 1. ビジネスエンティティをネットワークに追加する.	71
手順 2. ネットワークリレーションを設定する.	71
手順 3. ネットワーク設定値を設定する.	72
手順 4. リレーションプロパティを設定する（オプション）.	73
階層タスクの設定.	74
手順 1. 階層タスクタイプの設定.	75
手順 2. 階層タスクテンプレートの設定.	76
手順 3. 階層ワークフロートリガの設定.	77
リレーションを管理するための Data Director インタフェースの設計.	78

第 9 章 : 一致ルールセットの作成. 80

一致ルールセットの作成の概要.	80
Hub サーバーのプロパティの設定.	80
一致ルールセットの作成の前提条件.	81
一致ルールセットの作成.	82
手順 1. 一致ルールセットを定義する.	82
手順 2. サンプルデータセットをインポートする.	83
手順 3. 一致エンジンをトレーニングする.	84
手順 4. 一致ルールセットを確認して保存する.	84

第 10 章 : 検索の設定	85
検索の設定の概要	85
Elasticsearch クラスタの設定	86
エラスティック検索のカスタムインデックス設定の作成 (オプション)	87
エラスティック検索組み込みトークナイザとトークンフィルタ	88
検索可能なフィールドの設定	89
検索可能なフィールドのプロパティ	92
検索またはクエリ結果の表示の設定	93
類似レコードを表示するレイアウトの設定 (オプション)	94
第 11 章 : タスクの設定	96
タスクの設定の概要	96
タスクテンプレートの設定	97
ワークフロートリガの設定	99
手順 1. ワークフロートリガの作成	99
手順 2. ワークフロートリガのイベントの設定	101
手順 3. ワークフロートリガのロールの設定	101
タスクタイプの設定	101
手順 1. タスクの作成タイプ	102
手順 2. タスクタイプのロールの設定	103
手順 3. タスクタイプのタスクアクション設定の作成	104
タスク管理者ロール	106
タスク管理者ロールの設定	107
わかりやすいタスクタイトル	108
わかりやすいタスクタイトルの設定	108
デフォルトのタスク設定	109
タスク承認者の変更	110
第 12 章 : ビジネスエンティティのセキュリティとデータフィルタの設定	112
ビジネスエンティティのセキュリティとデータフィルタの概要	112
GDPR の例	113
エンティティレベルのセキュリティ	113
ビジネスエンティティレコードへのアクセスの管理	113
ビジネスエンティティのロール特権	115
ビジネスエンティティビューのロール特権	117
フィールドレベルのデータフィルタ	117
フィールドフィルタルールとユーザーロール	118
フィールドフィルタの追加	119
フィールドフィルタのロール特権	120
ノードレベルのデータフィルタ	120
ノードフィルタルール	121

ノードフィルタの追加.	122
ノードフィルタのロール特権.	123
セキュリティと Data Director のユーザーインタフェース.	124
第 13 章 : Data as a Service の統合	125
概要.	125
DaaS サービス用の WSDL ファイル.	125
トランスフォーメーション.	126
ビジネスエンティティから XML へのトランスフォーメーション.	126
XML からビジネスエンティティへのトランスフォーメーション.	126
SOAP サービス.	127
DaaS プロバイダ.	127
DaaS プロバイダコンポーネント.	128
DaaS プロバイダの統合.	128
WSDL ファイルのアップロード.	128
ビジネスエンティティの XML 形式への変換.	129
XML データのビジネスエンティティへの変換.	131
SOAP サービスの登録.	134
DaaS プロバイダの設定.	135
DaaS プロバイダコンポーネントの作成.	136
DaaS のレコードビューのレイアウトの設計.	137
トランスフォーメーションの削除.	137
WSDL ファイル、SOAP サービス、および DaaS プロバイダの削除.	137
第 14 章 : 外部呼び出しの設定.	138
概要.	138
外部呼び出しの設定.	139
WSDL ファイルのアップロード.	139
SOAP サービスの登録.	140
外部呼び出しの設定.	140
第 15 章 : Data Director のユーザーインタフェースの設計.	141
Data Director のユーザーインタフェースの設計の概要.	141
ユーザーインタフェース設計例.	142
ユーザーインタフェース設計の前提条件.	142
ユーザーインタフェースのレイアウト.	142
ホームページレイアウト.	143
追加ページのレイアウト.	144
レコードビューのレイアウト.	144
デフォルトのレコードビュー.	149
プライマリユーザーインタフェースコンポーネント.	150
タスクインボックス.	151
ダッシュボードレポート.	152

レコードの詳細.....	153
一致したレコード（詳細）.....	154
一致したレコード.....	155
相互参照レコード.....	156
履歴.....	156
階層マネージャ.....	157
セカンダリユーザーインタフェースコンポーネント.....	157
チャート.....	158
一致レコード.....	163
ソースシステム.....	164
関連レコード.....	164
関連タスク.....	165
類似するレコード.....	165
カスタムユーザーインタフェースコンポーネント.....	168
外部リンク.....	168
Data Director のユーザーインタフェースの設計方法.....	170
Data Director アプリケーションの作成.....	170
タスクインボックスのコンポーネントの設定.....	171
関連レコードのコンポーネントの作成.....	174
類似するレコードのコンポーネントの作成.....	175
外部リンクコンポーネントの作成.....	176
チャートコンポーネントの作成.....	177
ホームページのレイアウトの設計.....	182
追加ページのレイアウトの設計.....	184
ビジネスエンティティビューのレイアウトの設計.....	185
一致したレコードビューのレイアウトの設計.....	189
相互参照レコードビューのレイアウトの設計.....	191
履歴ビューのレイアウトの設計.....	193
確認タスクのレイアウトの設計.....	195
マージタスクのレイアウトの設計.....	197
マージ解除タスクのレイアウトの設計.....	199
階層ビューの [クイックビュー] タブの設計.....	201
ネットワークビューの [クイックビュー] タブの設計.....	202
ホームページのレイアウトの更新.....	204
追加ページのレイアウトの更新.....	205
レコードビューのレイアウトの更新.....	206
タスクマネージャの設定.....	207
デフォルトのレコードビューの非表示.....	208
第 16 章 : Data Director のローカライズ.....	209
Data Director のローカライズの概要.....	209
メタデータのローカライズ.....	209
タスクのアクション、タイプ、およびメッセージのローカライズ.....	210

ルックアップテーブルのローカライズ.....	211
ラベルとエラーメッセージをローカライズ.....	213
付録 A: プロビジョニングツールに関するよくある質問.....	214
プロビジョニングツールに関するよくある質問.....	214
索引.....	216

序文

Informatica^(R) *Multidomain MDM* のプロビジョニングツールガイドを使用して、プロビジョニングツールを使用してビジネスエンティティ、ビジネスエンティティビュー、トランスフォーメーション、Informatica Data Director アプリケーション、タスク、リレーション、および全文検索を設定する方法を学習します。Data Director アプリケーションを作成し、ページとビューを設計してマスターデータを表示できます。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

第 1 章

概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [プロビジョニングツールの概要, 12 ページ](#)
- [アーキテクチャ, 13 ページ](#)
- [前提条件, 13 ページ](#)
- [主な概念, 14 ページ](#)
- [プロビジョニングツールへのログイン, 14 ページ](#)

プロビジョニングツールの概要

プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデル、タスク、トランスフォーメーションを定義し、Data Director のユーザーインターフェースを設計できます。

定義

次の定義を作成および編集できます。

定義	説明
ビジネスエンティティ	ビジネスエンティティモデルを定義します。ビジネスエンティティは、組織にとって重要なエンティティを表します。通常、組織は顧客、サプライヤ、従業員、製品、取引先を表すビジネスエンティティタイプを定義します。
ビジネスエンティティビュー	ビジネスエンティティビューモデルを定義します。ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティの圧縮バージョンです。
参照エンティティ	参照エンティティを定義します。参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。
リレーション	ビジネスエンティティのベースオブジェクト間のリレーションを定義します。
トランスフォーメーション	構造トランスフォーマーとデータトランスフォーマーを定義します。

定義	説明
タスク設定	タスクを引き受けることができるユーザー、ビジネスプロセスを開始できるユーザー、およびデフォルトのタスクプロパティを定義します。
拡張	SOAP サービスと WSDL URL を定義します。

デザイン

次のユーザーインターフェイスアイテムを作成および設計できます。

ユーザーインターフェイスの項目	説明
アプリケーション	Data Director で使用するアプリケーションを作成します。 。
コンポーネント	ビジネスエンティティを管理するユーザーインターフェイスコンポーネントを作成します。
レイアウト	ユーザーインターフェイスレイアウトを設計します。

アーキテクチャ

プロビジョニングツールでは、MDM Hub のオペレーショナル参照ストア（ORS）からスキーマ情報を読み取ります。スキーマ情報に基づいてビジネスエンティティを設定し、その設定をパブリッシュできます。XML 構成ファイルは、C_REPOS_CO_CS_CONFIG リポジトリテーブルに保存されます。

構成ファイルに対する作業を行う場合、変更は一時ワークスペースに保存されます。変更をパブリッシュするまで変更は適用されません。複数のユーザーが ORS のビジネスエンティティ設定を同時に変更する場合、最後にパブリッシュされた設定でリポジトリが更新されます。

プロビジョニングツールは、Hub サーバーと同じアプリケーションサーバーで実行されます。

前提条件

プロビジョニングツールを使用するには、オペレーショナル参照ストア（ORS）に定義済みの MDM スキーマが含まれている必要があります。定義済みのスキーマには、ベースオブジェクトと、ベースオブジェクト間の外部キーリレーションに基づく制約が含まれています。

Web サービスにビジネスエンティティを使用する場合または Data Director を使用する場合の前提条件

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

ビジネスエンティティモデルを設定するには、まずベースオブジェクト間のリレーションの制約を定義します。MDM Hub コンソールを使用して外部キーリレーションの制約を定義します。

主な概念

プロビジョニングツールで効果的に作業するには、ビジネスエンティティと Multidomain MDM の概念についての基本的な理解が必要です。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティは、組織にとって重要なエンティティを表します。通常、組織は顧客、サプライヤ、従業員、製品、取引先を表すビジネスエンティティタイプを定義します。例えば、[Person] というビジネスエンティティタイプがあるとします。顧客 John Smith は、[Person] タイプのビジネスエンティティになります。

組織は、ビジネスに一意のデータのビジネスエンティティタイプを定義することもできます。例えば、慈善団体はビジネスエンティティのタイプとして寄贈者を定義します。医療機器メーカーは、一意のデバイス識別子を定義します。多くの組織は複数のビジネスエンティティタイプを定義します。アプリケーション開発者は、Data Director アプリケーションに存在するビジネスエンティティタイプを制御します。

MDM Hub Store では、ビジネスエンティティはベースオブジェクトテーブルのレコードに対応します。親レコードには、ビジネスエンティティの識別情報が含まれます。親レコードには、ビジネスエンティティに関連するデータ（住所や電話番号など）を格納する子レコードへのリレーションが含まれます。

参照エンティティ

参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。

ルックアップベースオブジェクトは、参照データのリストが含まれるテーブルです。例えば、電話の種類フィールドのルックアップテーブルには、自宅、勤務先、携帯電話の値が含まれている場合があります。参照エンティティデータは、Data Director で値のリストに入力するために使用できます。

ルートノード

ルートノードは、ビジネスエンティティモデルの最上位ノードで、ビジネスエンティティタイプを定義します。

ルートノードとビジネスエンティティは同義です。例えば、Person ルートノードのあるビジネスエンティティモデルは、Person ビジネスエンティティとみなされます。ルートノードを作成した後に、ビジネスエンティティモデルを定義できます。ビジネスエンティティ内のノードには、ルートノードの属性に関する情報が含まれています。

プロビジョニングツールへのログイン

ログインするには、プロビジョニングツールの URL とユーザー資格情報が必要です。URL には MDM Hub サーバーのホスト名とポート番号が含まれています。この情報がない場合は、MDM の管理者に問い合わせます。

1. サポートされているブラウザを開きます。
2. 次のいずれかの形式を使用して、プロビジョニングツールの URL を入力します。
保護されている接続。 `https://<MDM Hub Server host name>:<MDM Server port number>/provisioning/`
保護されていない接続。 `http://<MDM Hub Server host name>:<MDM Server port number>/provisioning/`
[ログイン] ページが開きます。
3. ユーザ名とパスワードを入力します。

4. **【ログイン】** をクリックします。
5. ビジネスエンティティを設定するデータベースを選択します。

プロビジョニングツールが開き、**【ホーム】** ワークスペースが表示されます。

トラブルシューティングのヒント: 問題が発生した場合は、次の解決策を試行します。

- アプリケーションが起動しない場合は、MDM 管理者に問い合わせます。管理者がアプリケーションサーバーを再起動しなければならないことがあります。
- アプリケーションにログインできず、ブラウザで別の MDM アプリケーションをすでに実行中の場合は、新しいブラウザウィンドウを開き、アプリケーションにログインします。MDM Hub を実行するアプリケーションサーバーが両方のアプリケーションに同じセッション ID を使用しているため、問題が発生します。

第 2 章

Data Director アプリケーションの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [Data Director アプリケーションの設定の概要, 16 ページ](#)
- [Data Director アプリケーションの作成, 17 ページ](#)
- [アプリケーションでのビジネスエンティティの非表示（オプション）, 18 ページ](#)
- [検索またはクエリ結果の表示の設定, 18 ページ](#)
- [日時形式の設定, 19 ページ](#)

Data Director アプリケーションの設定の概要

アプリケーションは、Data Director の主要な設定およびデプロイメントユニットです。アプリケーションは、ビジネスユーザーが Data Director を起動してログインするときに表示されます。アプリケーションを追加および変更するには、プロビジョニングツールのアプリケーションエディタを使用します。

アプリケーションは、MDM Hub 環境のデータベースごとに作成できます。各アプリケーションをデータ変更の追跡に使用するソースシステムに関連付けます。ソースシステムを作成するには、Hub コンソールのシステムと信頼ツールを使用します。使用するソースシステムを最も高い信頼レベルを持つように設定します。信頼レベルを最も高くすることで、アプリケーションユーザーが行った変更が他のどの値より優先され、マスタレコードに確実に反映されるようにします。

検索ボックス、クエリフォーム、またはこれら両方があるアプリケーションを設定できます。検索またはクエリの結果を表示する場合に使用するビジネスエンティティビューを設定することもできます。

アプリケーションを追加、変更、削除したときに、Data Director でその変更内容を表示するには、MDM Hub に変更内容をパブリッシュします。

注: 10.2 より前のバージョンからアップグレードした場合、プロビジョニングツールでアプリケーションを作成するときは、アプリケーションに指定する名前が、既存の Data Director アプリケーションの名前と同じであることを確認してください。使用する検索オプションを含む、すべてのアプリケーションのプロパティを設定します。

Data Director アプリケーションの作成

設計するユーザーインターフェースレイアウトを Data Director アプリケーションに関連付ける必要があります。Data Director アプリケーションを作成するには、アプリケーションエディタを使用します。

1. **【データベース】** リストから、設定に関連付けるデータベースを選択します。
2. **【設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックします。
【アプリケーション】 ページが表示されます。
3. **【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[アプリケーション] パネルに表示されるアプリケーションの名前。
表示名	Data Director に表示されるアプリケーションの名前。
ソースシステム	アプリケーションに関連付けるソースシステム。
セッションタイムアウト (分)	アイドル状態の Data Director セッションがタイムアウトするまでに待機する分単位の時間。
デフォルトのレコードビューを表示	Data Director でデフォルトのレコードビューを有効にします。デフォルトのレコードビューは、開いているレコードのタブとして表示されます。
スマート検索	Data Director のナビゲーションバーで 【検索】 メニューオプションを有効にします。
クエリ	Data Director のナビゲーションバーで 【クエリ】 メニューオプションを有効にします。
アプリケーションでのクエリダイアログ	【スマート検索】 および 【クエリ】 オプションの両方を有効にした場合は、このオプションが表示されます。 【一致したレコード】 などのレコードビュー内のレコードを検索する場合や 【関連レコード】 などのコンポーネントを使用する場合に、クエリの使用を許可するには、 【アプリケーションでのクエリダイアログ】 オプションを有効にします。 注: 【クエリ】 と 【検索】 メニューオプションの両方が Data Director のナビゲーションバーに表示されます。

5. **【適用】** をクリックします。
作成したアプリケーションが **【ツリービュー】** パネルと **【アプリケーション】** パネルに表示されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

アプリケーションでのビジネスエンティティの非表示（オプション）

デフォルトでは、オペレーショナルリファレンストア向けに定義されたすべてのビジネスエンティティがアプリケーションに含まれます。アプリケーションでは不要な特定のビジネスエンティティを非表示にできます。ユーザーは、表示されたビジネスエンティティのレコードを追加および検索できます。

1. **【設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックしてから、アプリケーションを選択します。
2. ツリービューパネルで、**【ビジネスエンティティ】** ノードをクリックします。
3. アプリケーション内のビジネスエンティティの設定を作成するには、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビジネスエンティティ	アプリケーションに設定するビジネスエンティティ。 【ビジネスエンティティ】 リストから、ビジネスエンティティを選択します。
表示可能	ビジネスエンティティを 【新規】 タブと 【検索】 ボックスに表示するかどうかを指定します。現在のアプリケーションでビジネスエンティティを非表示にするには、アプリケーションにビジネスエンティティを追加し、 【表示】 チェックボックスをクリアします。

5. **【適用】** をクリックします。
設定は、一時的なワークスペースに保存されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

検索またはクエリ結果の表示の設定

Elasticsearch エンジンを使用する場合、検索またはクエリの結果を表示する場合に使用するビジネスエンティティビューを、アプリケーションごとに設定します。ビジネスエンティティビューを設定しないと、検索またはクエリ結果にはビジネスエンティティ全体が含まれます。

1. **【設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックしてから、アプリケーションを選択します。
2. **【ツリービュー】** パネルで **【検索設定】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルでビジネスエンティティと、検索またはクエリ結果を表示するのに使用するビジネスエンティティビューを選択します。
ビジネスエンティティビューを選択しないと、検索およびクエリ結果にはすべてのビジネスエンティティフィールドが含まれます。

4. 検索を設定した場合、必要に応じて、フィルタを選択し、検索フィルタの表示順序を設定します。
 - a. **【フィルタ表示順序】**の横の**【編集】**アイコンをクリックします。

【フィルタ表示順序の編集】 ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、ビジネスエンティティモデルでフィルタ可能として設定されているフィールドであるフィルタが含まれます。
 - b. **【使用可能なフィルタ】** セクションから**【選択したフィルタ】** セクションへフィルタをドラッグします。
 - c. 順序を設定するには、フィルタをドラッグして上下に移動します。
 - d. **【OK】** をクリックします。
5. **【適用】** をクリックします。

検索設定は、一時的なワークスペースに保存されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

日時形式の設定

Data Director アプリケーションの作成時に、カスタムの日時形式を設定できます。デフォルトの日時形式は、yyyy-MM-dd と yyyy-MM-dd HH:mm:ss です。

1. **【設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックしてから、アプリケーションを選択します。
2. ツリービューパネルで、**【デフォルトの表示形式】** ノードをクリックします。
3. **【デフォルトの表示形式】** パネルで、**【日付形式】** フィールドと **【日時形式】** フィールドにカスタムの形式を入力します。
4. **【適用】** をクリックします。

日時形式が一時ワークスペースに保存されます。
5. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【アプリケーション】 ページで日付と時刻の形式を設定した後、**【モデリング】** ページを使用して、ビジネスエンティティフィールドの表示形式を設定します。日付を表示するフィールドの表示形式を **【日付】** または **【日時】** として設定します。

第 3 章

ルートノードの確立

この章では、以下の項目について説明します。

- [ルートノードの確立の概要, 20 ページ](#)
- [ルートノードのプロパティ, 21 ページ](#)
- [ビジネスエンティティルートノードの作成, 22 ページ](#)
- [参照エンティティルートノードの作成, 23 ページ](#)
- [状態管理検証の有効化, 24 ページ](#)
- [レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定, 24 ページ](#)

ルートノードの確立の概要

ルートノードは、ビジネスエンティティモデルの最上位ノードで、ビジネスエンティティタイプを定義します。ビジネスエンティティモデルを作成する場合、最初にルートノードを作成します。

ルートノードを確立したら、ルートノードのプロパティを設定できます。ルートノードを作成したら、ビジネスエンティティモデルに従ってビジネスエンティティモデルを定義できます。

また、参照エンティティを設定することもできます。参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。ルックアップルートノードを確立したら、ルックアップルートノードのプロパティを設定できます。

Data Director でビジネスエンティティを使用する場合、IDD コンフィギュレーションマネージャのサブジェクト領域でビジネスエンティティを生成します。プロビジョニングツールで直接作成されたビジネスエンティティは Data Director では機能しません。

Data Director は使用しないが、ビジネスエンティティに直接アクセスする Web サービスとしてビジネスエンティティサービスを使用する場合、プロビジョニングツールで作成されたビジネスエンティティを使用できます。また、MDM スキーマですでに定義されているビジネスエンティティを編集することもできます。

ルートノードの追加例

大手多国籍企業の人事部で働いているとします。組織のすべての従業員を追加し、各従業員を「Person」ビジネスエンティティとして追加したいと考えています。

Person ビジネスエンティティのルートノードを追加するには、次の手順を実行します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** を選択してから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルの **【ベースオブジェクト】** フィールドで **【C_PARTY】** を選択します。

4. ルートノードの名前およびラベルとして「Person」と入力します。
5. ビジネスエンティティモデルペインでビジネスエンティティのモデルを定義します。
6. 変更を保存します。

組織の従業員はさまざまな国に住んでいるため、参照エンティティ「LUCountry」を作成することを決定します。このエンティティは、MDM スキーマの Country ルックアップベースオブジェクトに関連付けられます。

LUCountry 参照エンティティのルートノードを追加するには、次の手順を実行します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルの **【ベースオブジェクト】** フィールドで **[C_LU_COUNTRY]** を選択します。
4. ルートノードの名前およびラベルとして「LUCountry」と入力します。
5. 変更を保存します。

前提条件

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

ベースオブジェクトの定義の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

ルートノードのプロパティ

ルートノードのプロパティを定義して、ビジネスエンティティが Data Director にどのように表示されるかを設定します。ビジネスエンティティの状態管理を有効にすることもできます。

名前

ルートノードまたはビジネスエンティティモデルの名前。この名前はプロビジョニングツールのみに表示されます。

ラベル

Data Director のビュー内に表示するビジネスエンティティのラベル。

ビジネスエンティティのラベルまたはラベル形式を指定しないと、名前がビジネスエンティティのラベルとして表示されます。

Data Director のメタデータをローカライズして、メタデータのバンドルファイル `besMetadata.properties` を使用する場合、メタデータバンドルファイルのラベルやラベル形式は、プロパティパネルで設定したラベルやラベル形式よりも優先されます。

説明

オプション。ルートノードの説明。

状態管理が有効

ビジネスエンティティのすべてのノードに状態管理が適用されているかどうかを判断します。

ベースオブジェクト

ルートノードに関連付ける MDM Hub のベースオブジェクト。

ラベル形式

オプション。ハードコーディングされたテキストではなく、フィールド値から構成されるビジネスエンティティのラベル。設定したラベル形式は Data Director のビューに表示されます。

ラベル形式の構文は「{<field name 1>}, {<field name n>}」です。例えば、ラベルに姓と名の値を表示するには、「{lastName}, {firstName}」を使用します。

ラベル形式とハードコーディングされたラベルを指定すると、指定した形式のラベルが Data Director のすべてのビューに表示されます。

ラベルまたはラベル形式を指定しないと、ビジネスエンティティ名が Data Director のビューのビジネスエンティティのラベルとして表示されます。

Data Director のメタデータをローカライズして、メタデータのバンドルファイル `besMetadata.properties` を使用する場合、メタデータバンドルファイルのラベルやラベル形式は、プロパティパネルで設定したラベルやラベル形式よりも優先されます。

色

Data Director のビジネスエンティティを表す色。例えば、この色は、**【新規】** ダイアログボックスのビジネスエンティティアイコンや、ビジネスエンティティビュー、**【階層】** ビュー、**【ネットワーク】** ビューなどのレコードビューの背景色として表示されます。

ビジネスエンティティアイコン

オプション。Data Director のビジネスエンティティを表すアイコン。例えば、このアイコンは、**【新規】** ダイアログボックスや、ビジネスエンティティビュー、**【階層】** ビュー、**【ネットワーク】** ビューなどのレコードビューに表示されます。

ビジネスエンティティレコードアイコン

オプション。Data Director ユーザーがイメージ URL を指定したり、レコードを表すイメージを添付したりできるフィールド。このアイコンは、ビジネスエンティティビュー、**【階層】** ビュー、**【ネットワーク】** ビューなどのレコードビューに表示されます。イメージ URL またはファイル添付のデータ型の詳細については、[「定義済みカスタムデータ型」 \(ページ 37\)](#) を参照してください。

ビジネスエンティティレコードアイコンのフィールドを指定しない場合、Data Director はビジネスエンティティアイコンを使用します。

ビジネスエンティティルートノードの作成

ビジネスエンティティモデルを作成するには、まずビジネスエンティティのルートノードを作成します。例えば、MDM スキーマのベースオブジェクト C_PARTY に関連付けられた **【Person】** ビジネスエンティティを作成できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
ビジネスエンティティ間に新しいルートノードが表示されます。
3. **【名前】** フィールドに、ビジネスエンティティの名前を入力します。
例えば、「Person」と入力します。
4. **【ラベル】** フィールドに、ビジネスエンティティの表示名を入力します。
例えば、「Person」と入力します。
5. 必要に応じて、ビジネスエンティティの説明を入力します。

6. 必要に応じて、**【状態管理が有効】** チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスが有効になっている場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。
7. **【プロパティ】** パネルの **【ベースオブジェクト】** フィールドで、ビジネスエンティティに関連付ける MDM スキーマのベースオブジェクトを選択します。
例えば、ベースオブジェクト C_PARTY を選択します。
注: ベースオブジェクトは、ルートノードをビジネスエンティティに追加する前に MDM Hub で作成されます。
8. 必要に応じて、ビジネスエンティティと個々のレコードの色とアイコンを設定します。
 - a. ビジネスエンティティを表す色を設定するには、**【色】** フィールドで色見本のアイコンをクリックし、色を選択します。
 - b. ビジネスエンティティを表すアイコンを設定するには、**【ビジネスエンティティアイコン】** フィールドでアイコンソースを選択し、アイコンを設定します。
 - c. ユーザーがレコードを表すアイコンを指定できるフィールドを指定するには、**【ビジネスエンティティレコードアイコン】** フィールドでフィールドを選択します。
画像をサポートするデータ型を使用するビジネスエンティティのフィールドが必要です。詳細については、[「定義済みカスタムデータ型」](#) (ページ 37) を参照してください。
9. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティモデルの定義の概要」](#) (ページ 26)

参照エンティティルートノードの作成

参照エンティティは、ルックアップベースオブジェクトに関連付けられたビジネスエンティティです。ビジネスエンティティと同様に、まず参照エンティティのルートノードを作成します。例えば、MDM スキーマのルックアップベースオブジェクト LUCountry に関連付けられた参照エンティティを作成できます。

作業を始める前に、MDM Hub コンソールでルックアップベースオブジェクトを作成します。大文字と小文字の区別の問題を回避するために、ルックアップベースオブジェクトのすべてのコードと値は、一貫した大文字化の方針に従う必要があります。例えば、値はすべて大文字で始まる、またはコードはすべて大文字、などです。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
参照エンティティ間に新しいルートノードが表示されます。
3. **【名前】** フィールドに、参照エンティティの名前を入力します。
例えば、「LUCountry」と入力します。
4. **【ラベル】** フィールドに、参照エンティティの表示名を入力します。
例えば、「LUCountry」と入力します。
5. 必要に応じて、参照エンティティの説明を入力します。
6. 必要に応じて、**【状態管理が有効】** チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスが有効になっている場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、参照エンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。

7. **【ベースオブジェクト】** フィールドで、参照エンティティに関連付ける MDM スキーマのルックアップベースオブジェクトを選択します。
例えば、ベースオブジェクト C_LU_COUNTRY を選択します。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティモデルの定義の概要」 \(ページ 26\)](#)

状態管理検証の有効化

リポジトリマネージャで、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトで状態管理が一貫して有効化されているかをチェックできるようにするには、ルート要素で `stateManagementEnabled` 属性を `true` に設定します。デフォルトでは、`stateManagementEnabled` の値は `false` です。

【状態管理が有効】 チェックボックスを使用して、状態管理を有効にできます。

`stateManagementEnabled` が `true` の場合、リポジトリマネージャの検証で、参照されるルックアップを除き、ビジネスエンティティ内のすべてのベースオブジェクトに対して状態管理が有効化されているかがチェックされます。

`stateManagementEnabled` が `false` の場合、リポジトリマネージャでは、ビジネスエンティティ内のベースオブジェクトで状態管理がすべて有効化されていることは確認されません。ビジネスエンティティには、状態管理が有効化されたベースオブジェクト、および状態管理が有効化されていないベースオブジェクトを含めることができます。

`stateManagementEnabled` の値は、リポジトリマネージャの検証チェックに影響を与えます。

`stateManagementEnabled` の値は、ランタイム操作に影響を与えません。`stateManagementEnabled` を `true` から `false` に変更すると、ベースオブジェクトに対する状態管理は無効化されません。

レコード削除とレコードチェックのストラテジの設定

MDM Hub は、デフォルトでは、常に ROWID_OBJECT 値、プライマリキー、およびソースシステムに基づいて既存のレコードを識別します。ただし、ビジネスエンティティのルート要素の多くのフィールドで、MDM Hub が子ベースオブジェクトレコードを削除および識別する方法を決定する追加のストラテジを設定できます。

削除ストラテジ

子レコードを削除するときの動作を決定します。

【削除ストラテジ】 チェックボックスをオンにして、次の値の 1 つを選択します。

DISASSOCIATE

レコードはアクティブなままですが、外部キーは NULL に設定されます。デフォルトは DISASSOCIATE です。

SOFT_DELETE

レコードの論理削除を行います。MDM Hub は、HUB_STATE_IND を「-1」に設定します。

DELETE_PARENT

リレーションテーブルからレコードを削除します。子レコードは削除されません。

識別ストラテジ

既存の子レコードが存在するかを MDM Hub がどのようにチェックするかを決定します。ユーザーがビジネス エンティティに子レコードを追加するときには、MDM Hub はそのレコードが新規であるかすでに存在するかを判断します。

【識別ストラテジ】 チェックボックスをオンにして、次の属性を設定します。

oneRow

レコードが存在する場合の動作を決定します。

oneRow 属性には以下の値を指定できます。

ACCEPT

MDM Hub は子レコードを作成しません。デフォルトは ACCEPT です。

CREATE

MDM Hub は子レコードを作成します。

エラー

MDM Hub は子レコードを作成しません。エラーが発生する。

noRow

レコードが存在しない場合の動作を決定します。

noRow 属性には以下の値を指定できます。

CREATE

MDM Hub は子レコードを作成します。

エラー

MDM Hub は子レコードを作成しません。エラーが発生する。

第 4 章

ビジネスエンティティモデルの定義

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティモデルの定義の概要, 26 ページ](#)
- [前提条件, 27 ページ](#)
- [制約, 27 ページ](#)
- [ノードタイプ, 28 ページ](#)
- [1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成, 29 ページ](#)
- [1 対 1 のリレーションがあるノードの作成, 30 ページ](#)
- [1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードの作成, 31 ページ](#)
- [ビジネスエンティティのコピー, 32 ページ](#)

ビジネスエンティティモデルの定義の概要

ビジネスエンティティモデルは、ノードのツリーモデルです。各ノードは、MDM Hub のベースオブジェクトテーブルに対応しています。各フィールドは、MDM Hub のベースオブジェクトテーブルのカラムに対応しています。

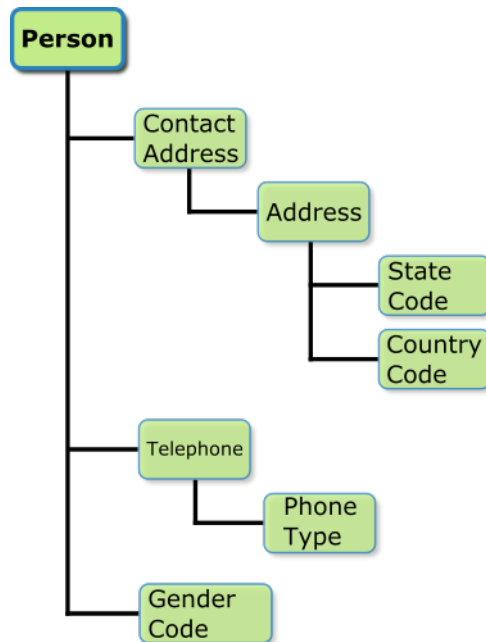
ビジネスエンティティモデルは、ルートノードに基づいています。ルートノードとビジネスエンティティは同義です。例えば、Person ルートノードのあるビジネスエンティティモデルは、Person ビジネスエンティティとみなされます。

ルートノードを確立したら、ツリーパネルを使用して、親ノードと 1 対 1 または 1 対多のリレーションを持つ子ノードを作成します。

ビジネスエンティティモデルの設定例

Person ビジネスエンティティのビジネスエンティティモデルを設定しています。Person ビジネスエンティティには、会社の従業員のデータが含まれます。Person ルートノードの下に、従業員の詳細（gender、address、および phone など）のノードを追加します。

次の図は、ビジネスエンティティモデルの例を示しています。



前提条件

ビジネスエンティティモデルを設定するには、まずベースオブジェクト間のリレーションの制約を定義します。MDM Hub コンソールを使用して外部キーリレーションの制約を定義します。

ビジネスエンティティにノードを追加するには、まずベースオブジェクトを定義する必要があります。MDM Hub コンソールを使用してベースオブジェクトを定義します。

外部キーリレーションの定義とベースオブジェクトの定義の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

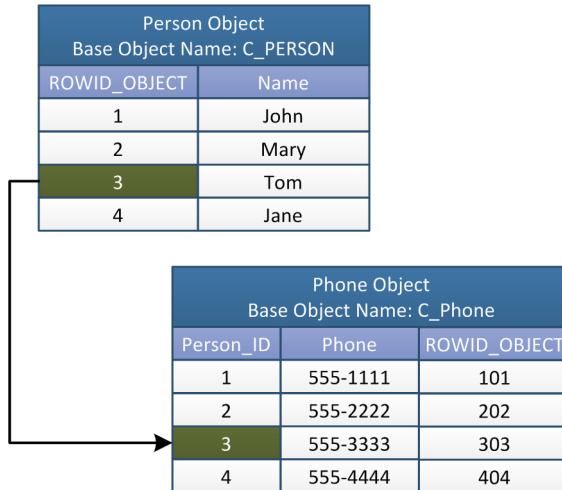
制約

MDM Hub では、外部キー制約を使用して子オブジェクトと親オブジェクト間のリレーションを保持します。ビジネスエンティティモデルでノードを作成する場合、子ノードと親ノード間のリレーションを定義する MDM Hub 制約を指定する必要があります。

外部キーは、別のテーブルのプライマリキーカラムと一致するリレショナルテーブルのフィールドです。外部キーリレーションでは、子オブジェクトは外部キーカラムを持ち、親オブジェクトはプライマリキーカラム

を持ちます。MDM Hub では、キーを使用して親レコードを子レコードと関連付けます。子レコードの外部キーカラムには、関連付けられている親プライマリーキーの値が含まれます。

次の図は、外部キーリレーションによって Person 親オブジェクトにリンクされている Phone 子オブジェクトを示しています。



Person オブジェクトには ROWID_OBJECT というプライマリーキーカラムがあり、Phone オブジェクトには Person_ID という外部キーカラムがあります。プライマリーキー値 3 は、Tom のレコードを電話番号 555-3333 のレコードにリンクします。

制約属性には次の構文が必要です。

<child base object name: 子ベースオブジェクト名>(<foreign key column name: 外部キーカラム名>).<parent base object name: 親ベースオブジェクト名>(<zprimary key column name: プライマリーキーカラム名>)

次のコードは、例の制約属性を示しています。

```
constraint="C_PHONE(PERSON_ID).C_PERSON(ROWID_OBJECT)"
```

ノードタイプ

異なるタイプのノードを追加することによってビジネスエンティティモデルを構築します。各ノードタイプは、親ノードと子ノードのリレーションの性質を定義します。

ビジネスエンティティモデルに含めることができるノードタイプを次に示します。

ビジネスエンティティの名前

ビジネスエンティティに付けた名前が、ビジネスエンティティのルートノードを確立します。

1

親ノードと子ノードに 1 対 1 のリレーションを指定します。

例えば、Contact Address ノードと Address ノードの間の 1 対 1 のリレーションは、各連絡先住所に 1 つの住所のみを関連付けられることを示しています。個人には自宅連絡先住所と勤務先連絡先住所を設定できますが、自宅連絡先住所に関連付けられる住所は 1 つのみで、勤務先連絡先住所に関連付けられる住所も 1 つのみです。

多

親ノードと子ノードに 1 対多のリレーションを指定します。

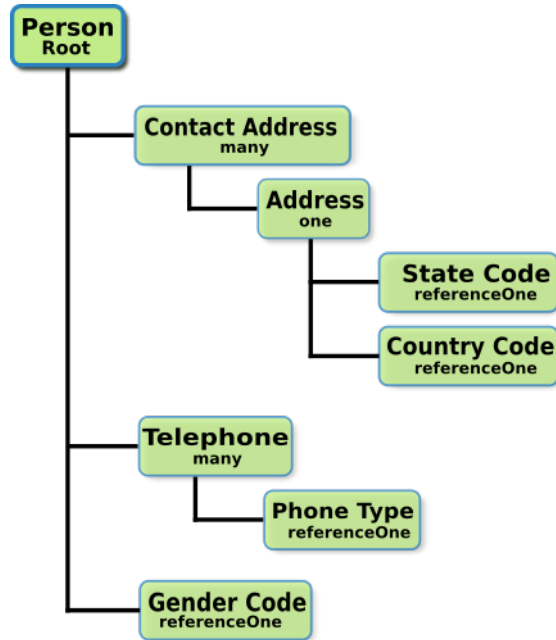
例えば、Person ノードと Telephone ノードの間の 1 対多のリレーションは、個人レコードに複数の電話番号レコードを関連付けられることを示しています。

referenceOne

親ノードと子参照エンティティノードに 1 対 1 のリレーションを指定します。

例えば、Person ノードと Gender ノードの間の referenceOne リレーションは、個人レコードに 1 つの性別値のみを関連付けられることを示しています。性別の値は、ルックアップテーブルに存在します。

次の図は、ビジネスエンティティの例の各ノードのノードタイプを示しています。



1 対多のリレーションがあるルックアップノードの作成

親ノードに複数の子ノードを含めることができる場合は、1 対多のリレーションがあるノードを作成します。1 人の個人には複数の電話番号を割り当てることができるため、個人ノードに対して 1 対多のリレーションがある電話子ノードを作成します。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで親ノードの下の **【1 対多】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで、子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。

例えば、ベースオブジェクト C_PARTY_PHONE を選択します。

注: ベースオブジェクトは、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

5. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。

例えば、制約 C_PARTY_PHONE(PARTY_ID).C_PARTY(ROWID_OBJECT)を選択します。

注: 制約は、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

6. ノード名とノードラベル名を入力します。必要に応じて、ノードの説明を入力します。

例えば、ノード名とノードの表示名に「Telephone」と入力します。

7. **【ルックアップ表示フィールド】** リストで、Data Director のルックアップテーブルに表示するフィールド名を選択します。

例えば、ルックアップテーブルの表示名 **genderDisp** を選択します。

注: ルックアップフィールドとルックアップの表示フィールド名が、プロビジョニングツールで作成されます。

8. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

1 対 1 のリレーションがあるノードの作成

親ノードに 1 つの子ルックアップノードが含まれている場合、1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードを作成します。1 人の個人には 1 つの住所（自宅連絡先住所）のみを割り当てることができるため、連絡先住所ノードに対して 1 対 1 のリレーションがある住所子ノードを作成します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。

2. ビジネスエンティティを選択します。

3. **【ツリービュー】** パネルで **【1 対 1】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

4. **【プロパティ】** パネルで、子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。

例えば、ベースオブジェクト C_ADDRESS を選択します。

注: ベースオブジェクトは、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

5. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。

例えば、制約 C_RL_PARTY_ADDRESS(ADDRESS_ID).C_ADDRESS(ROWID_OBJECT)を選択します。

注: 制約は、ビジネスエンティティモデルを設定する前に MDM Hub で作成されます。

6. ノード名とノードの表示名を入力します。必要に応じて、ノードの説明を入力します。

例えば、ノード名とノードラベル名として「Address」と入力します。

7. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードの作成

親ノードに 1 つの子ルックアップノードが含まれている場合、1 対 1 のリレーションがある子ルックアップノードを作成します。個人に対して 1 対 1 のリレーションがある性別ルックアップの子参照ノードを作成します。

ノードを追加する前に、MDM Hub でルックアップベースオブジェクトおよび親ノードのベースオブジェクトとルックアップベースオブジェクトの間のリレーションを設定したことを確認します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【ルックアップフィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで、ノード名とラベルを入力します。
例えば、名前とラベルに「Gender」と入力します。
5. **【オブジェクト】** リストから、ルックアップ子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。
例えば、ルックアップベースオブジェクト LUGender を選択します。
6. **【制約】** リストから、親ノードのベースオブジェクトとルックアップノードのベースオブジェクトの間のリレーションを選択します。
例えば、制約 C_PARTY(GENDER_CD).C_LU_GENDER(GENDER_CODE)を選択します。
7. 必要に応じて、ユーザーロールのデフォルト値を設定します。
注: Data Director の選択リストのデフォルトは、指定したユーザーロールのこの値になります。
 - a. **【デフォルト値】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. 選択したルックアップベースオブジェクトの値に一致するデフォルト値を入力します。日付を入力する場合は、「2018-06-06T09:34:25.801-04:00」など、GMT 形式を使用します。
注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。Data Director からデフォルト値をテストできます。
 - c. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。すべてのユーザーロールを選択するには、アスタリスク (*) を選択します。
選択したユーザーロールが表示されます。ユーザーロールを削除するには、ロールの横にある **【削除】** アイコンをクリックします。
 - d. 必要に応じて、このフィールドに他のデフォルト値は設定されていないユーザーロールで、このデフォルト値を使用するには、**【この値をデフォルト値が割り当てられていないユーザーロールに適用する】** をオンします。
 - e. デフォルト値を追加して設定するには、これらのサブステップを繰り返します。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

ビジネスエンティティのコピー

ビジネスエンティティを定義したら、ビジネスエンティティをコピーし、類似のビジネスエンティティをすばやく作成するためのテンプレートとして使用できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択して **【コピー】** をクリックします。
【ビジネスエンティティのコピー】 ダイアログボックスが表示されます。
3. 一意の名前を入力してください。
4. コピーするノードを選択し、**【保存してパブリッシュ】** をクリックします。
ビジネスエンティティのコピーが作成され、変更内容が MDM Hub にパブリッシュされます。
5. ビジネスエンティティを変更するには、ツリービューパネルで、必要に応じてフィールドと子ノードを編集します。

第 5 章

ビジネスエンティティのプロパティの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要, 33 ページ](#)
- [フィールドのプロパティ, 33 ページ](#)
- [カスタムデータ型, 37 ページ](#)
- [Data Director のノードのラベル, 38 ページ](#)

ビジネスエンティティのプロパティの設定の概要

プロビジョニングツールの右側のパネルでビジネスエンティティのプロパティを設定します。

ビジネスエンティティのプロパティパネルで、次のタスクを実行できます。

- フィールドにフィルタを追加する。
- ノードのラベルを設定する。
- ベースオブジェクトをノードに関連付ける。ルートノードの作成時にルートノードのプロパティを設定します。詳細については、「ルートノードの確立」の章を参照してください。
- 制約を子ノードに関連付ける。ビジネスエンティティモデルの定義時に子ノードのプロパティを設定します。詳細については、[第 4 章, 「ビジネスエンティティモデルの定義」 \(ページ 26\)](#)を参照してください。
- フィールドを検索可能にし、検索プロパティを設定する。検索可能なフィールドの設定と検索プロパティの設定の詳細については、[第 10 章, 「検索の設定」 \(ページ 85\)](#)を参照してください。
- デフォルト値をフィールドに割り当て、ユーザーロールに関連付けます。

フィールドのプロパティ

フィールドのプロパティを設定することにより、フィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けたり、データ型を指定したり、フィールドを読み取り専用としてマークしたり、フィールドを必須としてマークしたり、フィールドを検索可能にできます。

設定できるフィールドのプロパティを次に示します。

名前

[ツリービュー] パネルに表示するフィールドの名前。

ラベル

Data Director のビュー内に表示するフィールドのラベル。

読み取り専用

フィールドが編集可能かどうかを定義します。このオプションをクリアすると、MDM Hub のベースオブジェクトフィールドに作成特権または更新特権がある場合、エンドユーザーはレコードビューでそのフィールドを編集できます。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がある場合、フィールドは Data Director で編集可能です。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がない場合、ユーザーが Data Director で変更を保存しようとするエラーが発生します。

リソース特権の設定の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

必須

ビジネスエンティティを作成または更新するときに、ユーザーがフィールドにデータを入力する必要があるかどうかを定義します。

URI

データ型を宣言する名前空間を定義します。設定するデータ型は、選択した URI によって異なります。

文字列、整数、ブールなどの基本的なデータ型を設定するには、`commonj.sdo` を選択します。イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付などの Informatica のデータ型を設定するには、`urn:co-types.informatica.mdm` を選択します。

タイプ

フィールドのデータ型。設定できるデータ型は、選択した URI によって異なります。次のデータ型を設定できます。文字列、整数、10 進数、日付、ブール、イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付。

デフォルトでは、ビジネスエンティティフィールドのデータ型は、フィールドが関連付けられているベースオブジェクトカラムのデータ型にできるだけ近いものになります。例えば、ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、ビジネスエンティティフィールドにイメージ URL データ型を設定します。フィールドに Web URL、ファイル URI、FTP リンク、および電子メールアドレスをハイパーリンクとして表示する場合は、フィールドにハイパーリンクデータ型を設定します。

注: セキュリティ上の理由により、Google Chrome および Mozilla Firefox でファイル URI を開くことはできません。

表示形式

日付フィールドの表示形式。日付フィールドの表示形式を指定する前に、URI を指定して [タイプ] プロパティを [日付] に設定します。

日付を表示するビジネスエンティティフィールドには、[日付] または [日時] 形式を選択できます。設定する表示形式は、すべての Data Director ビューの日付フィールドに適用されます。

日付フィールドに表示形式が設定されていない場合、そのフィールドの日付形式は、関連するベースオブジェクトカラムの形式と同じです。

フィルタ

静的フィルタを定義して、ユーザーがフィールドに入力可能または入力不可のデータを規定します。

[フィルタ] プロパティを有効にした場合、以下のフィールドを指定します。

- **演算子:** 指定した値がフィールドで許可されるか拒否されるかを制御します。

オプション	説明
次に含まれる	値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。 注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「 フィールドフィルタルールとユーザーロール 」(ページ 118)を参照してください。
次に含まれない	値はユーザーに表示されません。

- **値:** フィールドのデータ型に一致する値を追加します。複数の値を追加するには、値のカンマ区切りリストを入力します。ユーザーがフィールドを空白にすることを許可するには、空白の引用符 ("") を値として追加します。

注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。誤ったデータ型の値を追加すると、その値は Data Director に表示されません。

検索可能

検索要求では、検索可能なフィールドとして設定したフィールドのみを検索します。検索要求のスコープは、検索可能なフィールドの数が増えると広がります。複数の検索可能なフィールドを設定すると、検索要求のパフォーマンスに影響する場合があるため、重要なフィールドのみを検索可能なフィールドに設定します。例えば、国番号、性別コード、または住所のタイプを含むフィールドよりも、氏名、組織名、または電子メールアドレスを含むフィールドを検索可能なフィールドに設定します。

[検索可能] プロパティを有効にするときは、次に示す検索用のプロパティを追加で 1 つ以上選択します。

- 検索アナライザ
- 提案元
- ソート可能
- フィルタ可能
- ファセット範囲
- ファセット
- 表示可能

必要に応じて、フィールド値の言語を指定します。デフォルトの言語は英語です。検索プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*の検索についての章を参照してください。

カラム

フィールドに関連付けられたベースオブジェクトカラム。フィールドをノードに追加するときにフィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けられます。

関連項目：

- [「カスタムデータ型」 \(ページ 37\)](#)

ノードへのフィールドの追加

ビジネスエンティティモデルでノードを作成したら、フィールドをノードに追加できます。フィールドは、ノードに関連付けられたベースオブジェクトのカラムに対応します。例えば、City フィールドを Address ノードに追加するとします。Address ノードは、CITY_NAME カラムのある C_ADDRESS ベースオブジェクトに関連付けられます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。

例えば、[City_Name] を選択します。

注: MDM Hub にベースオブジェクトのカラムが作成されました。

5. フィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「City」と入力します。
6. 必要に応じて、その他のフィールドプロパティを設定します。詳細については、[「フィールドのプロパティ」 \(ページ 33\)](#)を参照してください。
7. 必要に応じて、ユーザーロールのデフォルト値を設定します。

注: 許容値でフィルタも設定した場合、Data Director の選択リストのデフォルトは指定したユーザーロールのこの値になります。

- a. **【デフォルト値】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
- b. フィールドのデータ型に一致するデフォルト値を入力します。許容値でフィルタを設定した場合、デフォルト値は許容値のいずれかと一致する必要があります。日付を入力する場合は、「2018-06-06T09:34:25.801-04:00」など、GMT 形式を使用します。

注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。Data Director からデフォルト値をテストできます。

- c. **【ユーザーロール】** リストからユーザーロールを選択します。

ユーザーロールを選択するには、ロールを選択して、**【追加】** アイコンをクリックします。

複数のユーザーロールを選択するには、CTRL キーを押しながらロールを選択して、**【追加】** アイコンをクリックします。

すべてのユーザーロールを指定するには、アスタリスク (*) を選択して、**【追加】** アイコンをクリックします。

ユーザーロールを削除するには、ロールの横にある **【削除】** アイコンをクリックします。

- d. 必要に応じて、このフィールドに他のデフォルト値は設定されていないユーザーロールで、このデフォルト値を使用するには、**【この値をデフォルト値が割り当てられていないユーザーロールに適用する】** をオンします。
 - e. デフォルト値を追加して設定するには、これらのサブステップを繰り返します。
8. 必要に応じて、ユーザーロールによるフィールドフィルタを設定します。[「フィールドフィルタの追加」 \(ページ 119\)](#)を参照してください。

9. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

カスタムデータ型

デフォルトでは、フィールドのデータ型は、そのフィールドが関連付けられたベースオブジェクトのカラムのデータ型と同じになります。フィールドにはカスタムデータ型を定義できます。例えば、ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、フィールドにカスタムイメージデータ型を設定します。

プロビジョニングツールの外部の名前空間でカスタムデータ型を定義します。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されている名前空間の場所を入力する必要があります。

定義済みカスタムデータ型

MDM Hub には、定義済みカスタムデータ型の一部があります。urn:co-types.informatica.mdm 名前空間の co-types.xsd スキーマからカスタムデータ型を検索できます。

以下の定義済みカスタムデータ型を使用できます。

イメージ URL

画像にアクセスするための URL を格納します。

ハイパーリンク

テキストをハイパーリンクに変換します。

エンティティフィールド内の次のタイプのテキストは、ハイパーリンクに変換されます。

- Web URL
- ファイル URI
- FTP リンク
- 電子メールアドレス

ファイル添付

レコードに添付するファイルを格納します。ファイル添付データ型に関連付けたフィールドには、ドキュメントを選択するための参照ボタンが表示されます。

cmxserver.properties ファイル内のファイル添付データ型に関連する以下のプロパティを更新できます。

- cmx.file.max_file_size_mb。添付可能なファイルの最大サイズ (MB)。デフォルトは 20 です。
- cmx.file.allowed_file_extensions。格納可能なファイルの拡張子のリスト。デフォルトでは、.pdf および .jpg ファイルを格納できます。

cmx.file.max_file_size_mb および cmx.file.allowed_file_extensions プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

フィールドへのカスタムデータ型の追加

カスタムデータ型をビジネスエンティティフィールドに関連付けることができます。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されているリソースの場所を入力します。例えば、ファイル添付、イメージ URL、またはハイパーリンクのデータ型をフィールドに関連付けることができます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【プロパティ】 パネルに **【新しいフィールド】** フォームが表示されます。
4. **【新しいフィールド】** フォームにフィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として、画像には「Picture」、添付ファイルには「Document」と入力します。
5. カスタムデータ型が定義されている URI を選択します。
6. カスタムデータ型を選択します。
注: データ型をフィールドに追加する前に、名前空間にカスタムデータ型を作成します。
7. フィールドをベースオブジェクトのカラムに関連付けるには、ベースオブジェクトのカラムを選択します。
注: ノードにフィールドを追加する前に、MDM 管理者は MDM Hub にベースオブジェクトのカラムを作成する必要があります。
8. 必要に応じて、**【読み取り専用】**、**【必須】**、**【検索可能】**、および **【フィルタ】** チェックボックスをオンにします。
【検索可能】 をオンにした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティの詳細については、[第 10 章, 「検索の設定」 \(ページ 85\)](#) を参照してください。
9. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

Data Director のノードのラベル

ノードラベルを設定して、Data Director でのビジネスエンティティのタイトルを定義できます。

デフォルトでは、ノード名はノードラベルの値です。ノードラベルを設定しない場合、ノード名がノードラベルとして表示されます。

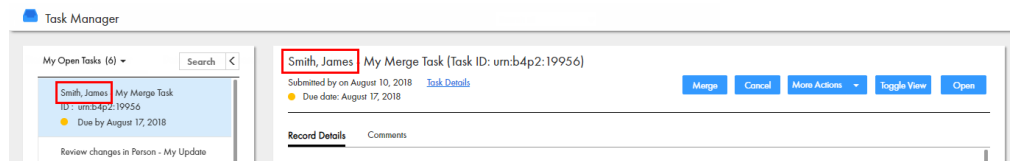
ラベルのテキストをハードコードするか、フィールド値を表示できます。フィールド値を表示するには、かっこ内にフィールド名を入力します。例えば、タイトルに姓と名の値を表示するには、「{lastName},{firstName}」を使用します。

次のノードラベルを設定できます。

タスク形式

タスクのタイトル。

次の図はタスクマネージャを示しています。設定できるタスクのタイトル部分が赤い四角で囲まれています。

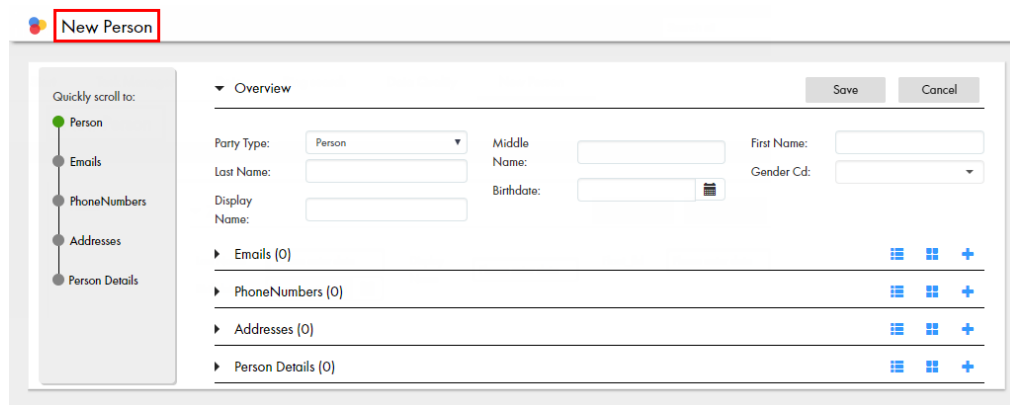


この例のタスク形式値は「{lastName}, {firstName}」です。

フィールド形式なし

Data Director で新しいエンティティを作成した場合に表示されるページのタイトルです。

次の図はエンティティ作成ページを示しています。タイトルは赤い四角で囲まれています。



この例の新しい形式の値は「新規 Person」です。

形式が存在

タイトルに設定したフィールドに値がない場合に表示されるタイトルです。

ノードのラベルの設定

ノードのラベルを設定するには、[プロパティ] パネルでラベル形式を設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. [プロパティ] パネルで、**【ラベル形式】** チェックボックスを選択します。
4. ノードのラベルを入力します。

- a. **【タスク形式】** フィールドに、タスクのタイトルの形式を入力します。

例えば、タスクタイトルで姓の後に名を表示するには、「{lastName}, {firstName}」と入力します。これらのフィールドの値は、カンマ区切りでタスクタイトルに表示されます。

- b. **【形式あり】** フィールドに、タイトル用に設定したフィールドに値が含まれていない場合に表示するタイトルの形式を入力します。

例えば、「Person」と入力します。

- c. **【フィールド形式なし】** フィールドに、新しいビジネスエンティティレコードを作成するときに表示されるタイトルを入力します。

例えば、「新規 Person」と入力します。

- 5. **【適用】** をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

第 6 章

参照エンティティのプロパティの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [参照エンティティのプロパティの設定の概要, 41 ページ](#)
- [ルックアップタイプ, 41 ページ](#)
- [フィールドのプロパティ, 42 ページ](#)
- [カスタムデータ型, 45 ページ](#)
- [ルックアップの設定, 46 ページ](#)

参照エンティティのプロパティの設定の概要

プロビジョニングツールの右側のパネルで参照エンティティのプロパティを設定します。

多くのユーザーの場合、参照エンティティとルックアップは同義です。

参照エンティティの「プロパティ」パネルで、次のタスクを実行できます。

- ルックアップベースオブジェクトをノードに関連付ける。ルートノードの作成時にルートノードのプロパティを設定します。詳細については、[第 3 章, 「ルートノードの確立」 \(ページ 20\)](#)を参照してください。
- フィールドを検索可能にし、検索プロパティを設定する。検索可能なフィールドの設定と検索プロパティの設定の詳細については、[第 10 章, 「検索の設定」 \(ページ 85\)](#)を参照してください。

ルックアップタイプ

ルックアップは、ユーザーインターフェースで選択できる値の事前定義済みのリストです。ビジネスエンティティモデルの場合、通常のルックアップは、参照データのリストを含むルックアップベースオブジェクトにリンクされます。例えば、性別ルックアップは C_LU_GENDER ベースオブジェクトに関連付けられます。

タイプテーブルとサブタイプテーブルの間など、2 つのルックアップテーブル間に依存関係が存在する場合は、依存ルックアップを使用します。サブタイプテーブルに表示される値のリストは、タイプテーブルでの選択によって異なります。依存ルックアップの別の例は、ユーザーが選択した国に基づいて州または県の値のリストを入力する場合です。

フィールドのプロパティ

フィールドのプロパティを設定することにより、フィールドをルックアップベースオブジェクトカラムに関連付けたり、データ型を指定したり、フィールドを読み取り専用としてマークしたり、フィールドを必須としてマークしたり、フィールドを検索可能にしたりできます。

設定できるフィールドのプロパティを次に示します。

名前

参照エンティティ構成ファイル内のフィールド名。

ラベル

プロビジョニングツールの [ツリービュー] パネルに表示されるフィールド名。

読み取り専用

フィールドが編集可能かどうかを定義します。このオプションをクリアすると、MDM Hub のベースオブジェクトフィールドに作成特権または更新特権がある場合、エンドユーザーはレコードビューでそのフィールドを編集できます。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がある場合、フィールドは Data Director で編集可能です。

ユーザーに MDM Hub のベースオブジェクトカラムに対する作成特権または更新特権がない場合、ユーザーが Data Director で変更を保存しようとするエラーが発生します。

リソース特権の設定の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

必須

ビジネスエンティティを作成または更新するときに、ユーザーがフィールドにデータを入力する必要があるかどうかを定義します。

URI

データ型を宣言する名前空間を定義します。設定するデータ型は、選択した URI によって異なります。

文字列、整数、ブールなどの基本的なデータ型を設定するには、`commonj.sdo` を選択します。イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付などの Informatica のデータ型を設定するには、`urn:co-types.informatica.mdm` を選択します。

タイプ

フィールドのデータ型。設定できるデータ型は、選択した URI によって異なります。次のデータ型を設定できます。文字列、整数、10 進数、日付、ブール、イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付。

デフォルトでは、ビジネスエンティティフィールドのデータ型は、フィールドが関連付けられているルックアップベースオブジェクトカラムのデータ型にできるだけ近いものになります。例えば、ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、ビジネスエンティティフィールドにイメージ URL データ型を設定します。フィールドに Web URL、ファイル URI、FTP リンク、および電子メールアドレスをハイパーリンクとして表示する場合は、フィールドにハイパーリンクデータ型を設定します。

注: セキュリティ上の理由により、Google Chrome および Mozilla Firefox でファイル URI を開くことはできません。

表示形式

日付フィールドの表示形式。日付フィールドの表示形式を指定する前に、URI を指定して [タイプ] プロパティを **【日付】** に設定します。

日付を表示する参照エンティティフィールドには、**【日付】** または **【日時】** 形式を選択できます。設定する表示形式は、すべての Data Director ビューの日付フィールドに適用されます。

日付フィールドに表示形式が設定されていない場合、そのフィールドの日付形式は、関連するベースオブジェクトカラムの形式と同じです。

フィルタ

静的フィルタを定義して、ユーザーがフィールドで選択可能または選択不可のデータを規定します。

[フィルタ] プロパティを有効にした場合、以下のフィールドを指定します。

- **演算子:** 指定した値がフィールドで許可されるか拒否されるかを制御します。

オプション	説明
次に含まれる	値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーは選択リストから値を選択できます。
次に含まれない	値はユーザーに表示されません。

- **値:** 選択したルックアップベースオブジェクトに存在する 1 つ以上の値を追加します。複数の値を追加するには、値のカンマ区切りリストを入力します。ユーザーがフィールドを空白にすることを許可するには、空白の引用符 (") を値として追加します。

注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。ルックアップベースオブジェクトに存在しない値を追加すると、値は Data Director に表示されません。

検索可能

検索要求では、検索可能なフィールドとして設定したフィールドのみを検索します。検索要求のスコープは、検索可能なフィールドの数が増えると広がります。複数の検索可能なフィールドを設定すると、検索要求のパフォーマンスに影響する場合があります。重要なフィールドのみを検索可能なフィールドに設定します。例えば、国番号、性別コード、または住所のタイプを含むフィールドよりも、氏名、組織名、または電子メールアドレスを含むフィールドを検索可能なフィールドに設定します。

[検索可能] プロパティを有効にするときは、次に示す検索用のプロパティを追加で 1 つ以上選択します。

- 検索アナライザ
- 提案元
- ソート可能
- フィルタ可能
- ファセット
- 表示可能

必要に応じて、フィールド値の言語を指定します。デフォルトの言語は英語です。検索プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*の検索についての章を参照してください。

カラム

フィールドに関連付けられているルックアップベースオブジェクトカラム。フィールドをノードに追加するときにフィールドをベースオブジェクトカラムに関連付けます。

ノードへのフィールドの追加

参照エンティティ構造でノードを作成したら、フィールドをノードに追加できます。フィールドは、ノードに関連付けられたルックアップベースオブジェクトのカラムに対応します。例えば、Gender Code フィールドを

LU Gender ノードに追加するとします。LU Gender ノードは、Gender_Code カラムのある C_LU_GENDER ルックアップベースオブジェクトに関連付けられます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. 参照エンティティを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
[Gender_Code] を選択します。
注: MDM Hub にベースオブジェクトのカラムが作成されました。
5. フィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、「Gender Code」と入力します。
6. 必要に応じて、その他のフィールドプロパティを設定します。詳細については、[「フィールドのプロパティ」 \(ページ 42\)](#) を参照してください。
7. 必要に応じて、ユーザーロールによるフィールドフィルタを設定します。詳細については、[「参照エンティティへのフィールドフィルタの追加」 \(ページ 44\)](#) を参照してください。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

参照エンティティへのフィールドフィルタの追加

ユーザーロールによってルックアップリストに表示される値を制御するには、参照エンティティにリストを含むフィールドフィルタを作成します。フィールドフィルタは大文字と小文字が区別されます。フィールドフィルタはルックアップには影響しますが、依存ルックアップには影響しません。

注: 参照エンティティにフィールドフィルタを実装した後、ビジネスエンティティでその参照エンティティを使用するフィールドにフィールドフィルタを追加した場合、ビジネスエンティティのフィールドフィルタが優先されます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. 参照エンティティを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで **【フィールドフィルタ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【フィールドフィルタ】 の下に **【新しいフィールドフィルタ】** オプションが表示され、[プロパティ] パネルにフォームが開きます。
4. プロパティパネルで、フィルタの名前を入力します。
5. フィールドを選択します。
 - a. **【フィールド】** フィールドの横にある **【参照】** ボタンをクリックします。
ダイアログボックスにフィールドのリストが表示されます。
 - b. フィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。
選択したフィールドが **【フィールド】** フィールドに表示されます。
6. 値を表示 できないユーザーに関するフィルタを定義するには、拒否ルールを作成します。
 - a. **【拒否】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【値】** フィールドに、ルックアップリストにある値を入力します。
注: 日付を入力する場合は、データベース環境で要求される日付形式を使用します。

- c. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - d. このルールを **【拒否】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【拒否ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** を選択します。
 - e. フィルタルールを追加して設定するには、この手順を繰り返します。
 - f. ユーザーロールを**残りの値**ルールに追加します。
7. 値を表示できるユーザーに関するフィルタを定義するには、許可ルールを作成します。
- a. **【許可】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【値】** フィールドに、フィールドのデータ型に一致する値を入力します。
注: 日付を入力する場合、ご使用のデータベース環境に必須のデータ形式を使用してください。
 - c. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - d. このルールを **【許可】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【許可ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** をクリックします。
 - e. フィルタルールを追加して設定するには、この手順を繰り返します。
 - f. ユーザーロールを**残りの値**ルールに追加します。
8. **【適用】** をクリックします。
- 変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

カスタムデータ型

デフォルトでは、フィールドのデータ型は、そのフィールドが関連付けられたベースオブジェクトのカラムのデータ型と同じになります。フィールドにはカスタムデータ型を定義できます。例えば、ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、フィールドにカスタムイメージデータ型を設定します。

プロビジョニングツールの外部の名前空間でカスタムデータ型を定義します。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されている名前空間の場所を入力する必要があります。

定義済みカスタムデータ型

MDM Hub には、定義済みカスタムデータ型の一部があります。urn:co-types.informatica.mdm 名前空間の co-types.xsd スキーマからカスタムデータ型を検索できます。

以下の定義済みカスタムデータ型を使用できます。

イメージ URL

画像にアクセスするための URL を格納します。

ハイパーリンク

テキストをハイパーリンクに変換します。

エンティティフィールド内の次のタイプのテキストは、ハイパーリンクに変換されます。

- Web URL
- ファイル URI
- FTP リンク
- 電子メールアドレス

ファイル添付

レコードに添付するファイルを格納します。ファイル添付データ型に関連付けたフィールドには、ドキュメントを選択するための参照ボタンが表示されます。

cmxserver.properties ファイル内のファイル添付データ型に関連する以下のプロパティを更新できます。

- cmx.file.max_file_size_mb. 添付可能なファイルの最大サイズ (MB)。デフォルトは 20 です。
- cmx.file.allowed_file_extensions. 格納可能なファイルの拡張子のリスト。デフォルトでは、.pdf および .jpg ファイルを格納できます。

cmx.file.max_file_size_mb および cmx.file.allowed_file_extensions プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

フィールドへのカスタムデータ型の追加

カスタムデータ型を参照エンティティフィールドに関連付けることができます。カスタムデータ型をフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義されているリソースの場所を入力します。例えば、ファイルを添付したり、ハイパーリンクを含めたり、イメージ URL を提供したりできます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. 参照エンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【プロパティ】 パネルに **【新しいフィールド】** フォームが表示されます。
4. **【新しいフィールド】** フォームにフィールド名とフィールドラベル名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として、画像には「Picture」、ハイパーリンクには「Email」、添付ファイルには「Document」と入力します。
5. カスタムデータ型が定義されている URI、urn:co-types.informatica.mdm を選択します。
6. カスタムデータ型を選択します。
注: データ型をフィールドに追加する前に、名前空間にカスタムデータ型を作成します。
7. フィールドをベースオブジェクトのカラムに関連付けるには、ベースオブジェクトのカラムを選択します。
注: ノードにフィールドを追加する前に、MDM 管理者は MDM Hub にベースオブジェクトのカラムを作成する必要があります。
8. 必要に応じて、**【読み取り専用】**、**【必須】**、**【検索可能】**、および **【フィルタ】** チェックボックスをオンにします。
【検索可能】 をオンにした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティの詳細については、[第 10 章、「検索の設定」 \(ページ 85\)](#)を参照してください。
9. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

ルックアップの設定

ルックアップを設定するには、ツリービューのパネルで新しい参照エンティティを作成し、ルートノードをルックアップベースオブジェクトに関連付けます。例えば、C_LU_GENDER ルックアップベースオブジェクトに関連する性別ルックアップ参照エンティティを作成できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。

2. 参照エンティティを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. [プロパティ] パネルの [新しいフィールド] フォームで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるルックアップベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、[カラム] リストから Gender_Code を選択します。
注: ルックアップベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドラベル名として「Gender Code」と入力します。
6. 必要に応じて、作成したフィールドに [読み取り専用]、[必須]、[URI]、[タイプ]、[表示形式]、[フィルタ]、および [検索可能] プロパティを設定します。
[検索可能] プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。
7. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルに作成したフィールドが表示されます。
8. 別のフィールドを作成します。この例では、[カラム] リストから Gender_Disp を選択します。
9. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。この例では、フィールド名とフィールドラベル名に「Gender Disp」と入力します。
10. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

依存ルックアップの設定

依存ルックアップを設定するには、ツリービューのパネルで新しい参照エンティティを作成し、ルートノードをルックアップベースオブジェクトに関連付けます。ルックアップ内に 1 対多のリレーションを作成するには、[ツリービュー] パネルで、親ノードの下で **【1 対多】** を選択し、**【作成】** をクリックします。例えば、C_LU_COUNTRY ルックアップベースオブジェクトに関連する国ルックアップ参照エンティティを作成できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. 参照エンティティを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. [プロパティ] パネルの [新しいフィールド] フォームで、**【カラム】** リストからフィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムを選択します。
例えば、[カラム] リストから Country_Code を選択します。
注: ベースオブジェクトのカラムは、フィールドをノードに追加する前に MDM Hub で作成されます。
5. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。
例えば、フィールド名とフィールドの表示名に「Country Code」と入力します。
6. 必要に応じて、作成したフィールドに [読み取り専用]、[必須]、[URI]、[タイプ]、[表示形式]、[フィルタ]、および [検索可能] プロパティを設定します。
[検索可能] プロパティを有効にした場合、追加の検索プロパティが表示されます。検索プロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。
7. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルに作成したフィールドが表示されます。

8. 別のフィールドを作成します。この例では、**【カラム】** リストから Country_Name_Disp を選択します。
9. フィールド名とフィールドの表示名を入力します。この例では、フィールド名とフィールドラベル名として「Country Name Disp」と入力します。
10. 親ノードの下の **【1 対多】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
11. **【プロパティ】** パネルで、ルックアップ子ノードデータを含むベースオブジェクトを選択します。
例えば、ルックアップベースオブジェクト C_LU_State を選択します。
12. 親ノードのベースオブジェクトと子ノードのベースオブジェクト間の MDM Hub リレーションを定義する制約参照を選択します。
例えば、制約 C_LU_STATE(COUNTRY_CODE).C_LU_COUNTRY(COUNTRY_CODE)を選択します。
注: 制約は、ビジネスエンティティ構造を設定する前に MDM Hub で作成されます。
13. 必要に応じて、ノード名、ノードラベル名、およびノードの説明を入力します。
例えば、ノード名とノードラベル名として「LU State」と入力します。
14. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

第 7 章

ビジネスエンティティとビューの変換

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティとビューの変換の概要, 49 ページ](#)
- [トランスフォーメーションのソースおよびターゲット, 50 ページ](#)
- [クレンジングトランスフォーメーション, 51 ページ](#)
- [読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション, 51 ページ](#)
- [ビジネスエンティティビューのモデル化, 53 ページ](#)
- [ビジネスエンティティビューのコピー, 55 ページ](#)
- [ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定, 55 ページ](#)
- [ビューをビジネスエンティティにマッピングするためのトランスフォーメーションの設定, 57 ページ](#)
- [ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定, 59 ページ](#)
- [トランスフォーメーションの削除, 61 ページ](#)

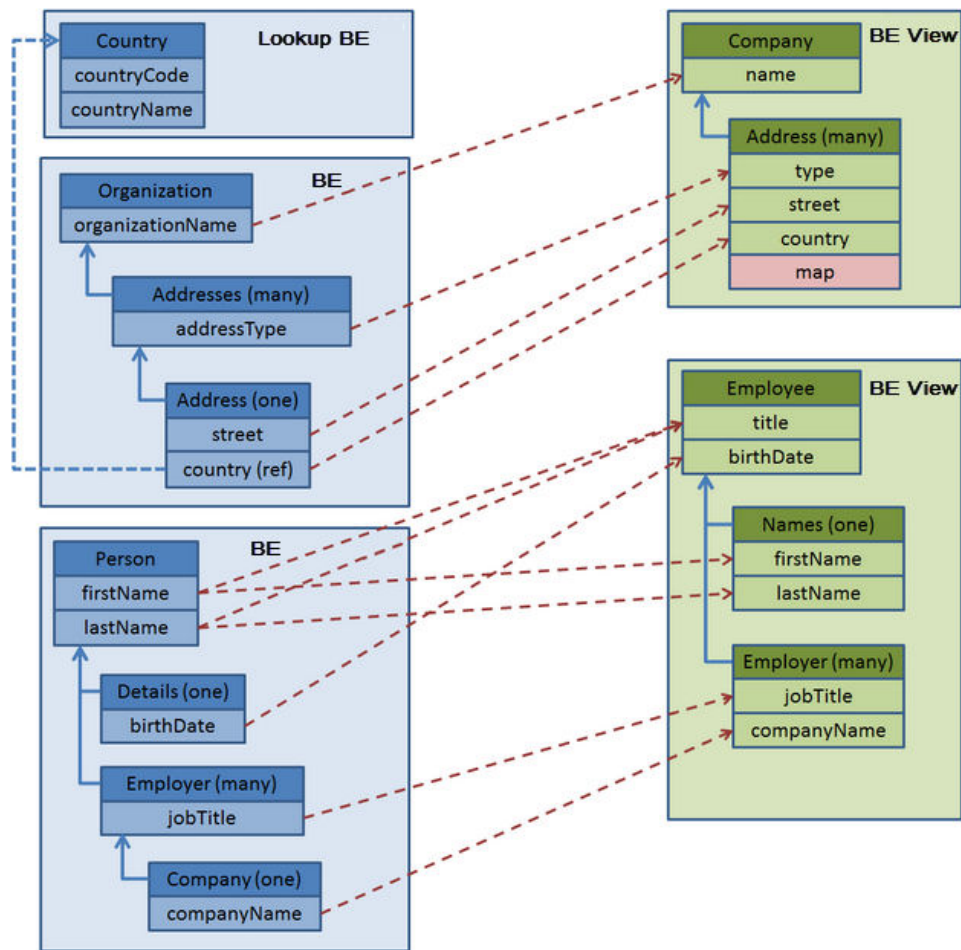
ビジネスエンティティとビューの変換の概要

ビジネスエンティティは、組織の 1 つのエンティティの包括的で全体的な定義を表します。ただし、組織内のユーザーや部署に必要なのは一部のビジネスエンティティのみである場合があります。このような場合、ビジネスエンティティは「ビジネスエンティティビュー」と呼ばれる圧縮バージョンに変換できます。

Data Director または Web アプリケーションがビジネスエンティティビューに対して読み取りまたは書き込みを行う場合、読み取りまたは書き込みサービスでトランスフォーメーションが実行されます。Data Director または Web アプリケーションでビジネスエンティティビューを使用する場合は、読み取り操作のためにビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを設定し、書き込みイベントのためにビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定する必要があります。

クレンジングトランスフォーメーションを設定して、トランスフォーメーション中にデータの検証とクレンジングを行うことができます。また、DaaS を使用するようにトランスフォーメーションを設定して、ビジネスエンティティのデータをエンリッチ化することも可能です。

次の図は、構造が簡素化された2つのビジネスエンティティビューに変換される2つのビジネスエンティティを示しています。



ビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへのトランスフォーメーションを設定するには、まずビジネスエンティティビューを作成し、次にトランスフォーメーションをマッピングします。ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを作成するには、ビューの構造をモデル化します。ビューをモデル化したら、ビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへトランスフォーメーションをマッピングします。

トランスフォーメーションのソースおよびターゲット

次のソースからターゲットの組み合わせのトランスフォーメーションを設定できます。

ビジネスエンティティからビュー

ビジネスエンティティの一部をビジネスエンティティビューとして設定して、簡単にコンシュームできるオブジェクトを作成できるようにします。例えば、ビジネスプロセス、ユーザー、または部門が必要とするフィールドのみが含まれるビューを設定できます。ビジネスエンティティに対して検索やアクセスを行うときは、トランスフォーメーションを表示するビジネスエンティティが必要です。

ビューからビジネスエンティティ

ビジネスエンティティビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定して、ビューに対するデータ更新を行えるようにします。データはビジネスエンティティに格納されているため、ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションによってビューへのデータ変更がプロパゲートされます。ビジネスエンティティを作成するときは、ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションが必要です。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティ

ビジネスエンティティの検証およびデータクレンジングの設定に使用します。ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションでは、フィールドブランチのフィールドのクレンジングトランスフォーメーションが書き込み処理時に適用されます。

注: クレンジングトランスフォーメーションは、ビジネスエンティティの 1 対多ブランチまたはルックアップフィールドブランチのフィールドには適用されません。

ビジネスエンティティから XML

DaaS 設定に使用します。

XML からビジネスエンティティ

DaaS 設定に使用します。

クレンジングトランスフォーメーション

クレンジングタイプのトランスフォーメーションを、クレンジング関数を使用してデータをクレンジング、標準化、検証するように設定できます。

次の例は、クレンジングトランスフォーメーションを使用する方法を示します。

- 指定された名と姓を連結する
- Doctor のすべてのインスタンスを Dr.に標準化する
- 郵便アドレスを検証する

クレンジング関数の詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

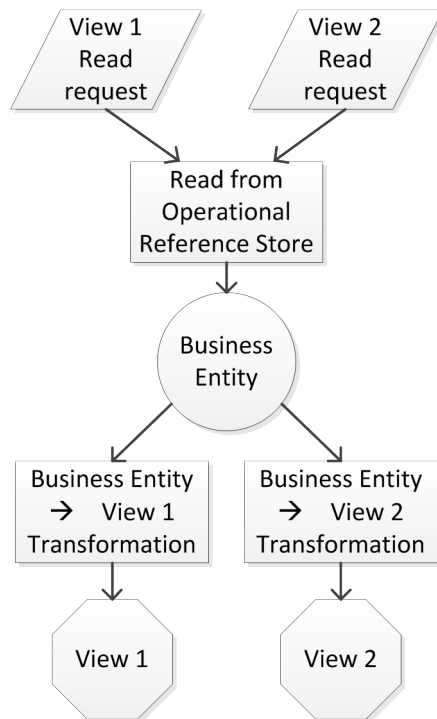
読み取りおよび書き込みプロセスでのトランスフォーメーション

ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションおよびビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションは、ビジネスエンティティの読み取りプロセスに関与します。ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションおよびビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションは、書き込みプロセスに関与します。

ビジネスエンティティビューを開くと、次の読み取りプロセスが発生します。

1. ビジネスエンティティサービス要求は、データベースでデータを読み取ります。
2. ビジネスエンティティがビジネスエンティティビューに変換されます。

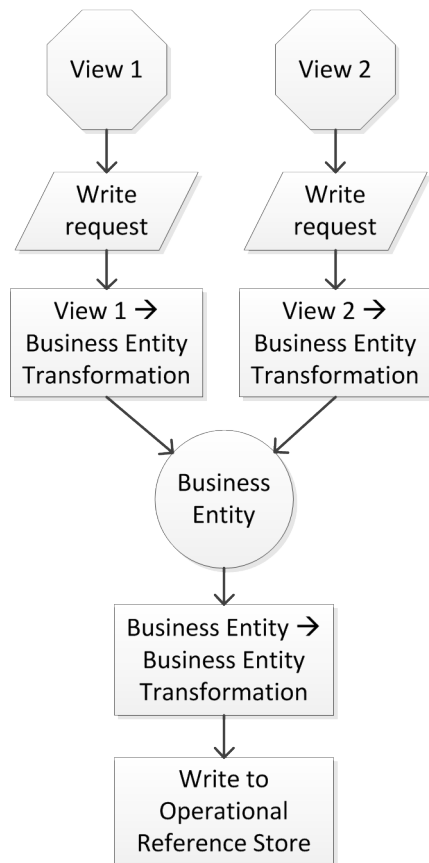
次の図は、ビジネスエンティティの読み取りプロセスにおけるトランスフォーメーションを示しています。



書き込みプロセス中にデータが変更されると、次のプロセスが発生します。

1. ビューがビジネスエンティティに変換されます。
2. ビジネスエンティティは、データからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを検証およびクレンジングします。
3. プロセスはデータをデータベース（オペレーショナル参照ストア）に書き込みます。

次の図は、ビジネスエンティティの書き込みプロセスにおけるトランスフォーメーションを示しています。



ビジネスエンティティビューのモデル化

トランスフォーメーションを設定する前に、ビジネスエンティティビューを作成して設定する必要があります。ビジネスエンティティビューをモデル化するための構造を定義できます。

ビジネスエンティティビューを設定するには、次の手順を実行します。

1. ビジネスエンティティビューのルートノードを作成します。
2. フィールドをルートノードおよび子ノードに追加します。
3. 子ノードを追加します。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティビューのロール特権」 \(ページ 117\)](#)

ビジネスエンティティビューのルートノードの作成

ビジネスエンティティビューを作成するときは、最初にルートノードを確立します。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティビュー】** を選択します。

2. **【作成】** をクリックします。
ビジネスエンティティビューのルートノードが表示されます。
3. **【プロパティ】** パネルで、ビューの名前とラベルを入力して、ビューに関連付けるビジネスエンティティを選択します。
選択したビジネスエンティティが、ビューに変換するエンティティです。
4. **【適用】** をクリックします。

ルートノードおよび子ノードへのフィールドの追加

ルートノードを確立したら、ビューに変換するビジネスエンティティからルートノードフィールドを追加します。

1. フィールドをルートノードに追加します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルでルートノードの下の **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルでフィールドのプロパティを入力します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
2. フィールドを子ノードに追加します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで子ノードの下の **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルでフィールドのプロパティを入力します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルでフィールド名を入力します。
その他のすべてのフィールドおよび選択項目は省略可能です。詳細については、[「フィールドのプロパティ」 \(ページ 33\)](#) を参照してください。
4. **【適用】** をクリックします。
子ノードが作成されます。

子ノードの追加

親と 1 対 1 または 1 対多のリレーションを持つ子ノードを追加できます。

1. 子ノードが親ノードとの間に持つリレーションのタイプを選択します。
 - 1 対 1 のリレーションを持つ子を追加するには、**【1 対 1】** を展開し、**【作成】** をクリックします。
 - 1 対多のリレーションを持つ子を追加するには、**【1 対多】** を展開し、**【作成】** をクリックします。
2. 子ノードの名前を入力し、必要に応じてラベルを入力します。
3. **【適用】** をクリックします。
子ノードが作成されます。

ビジネスエンティティビューのコピー

ビジネスエンティティビューを定義したら、ビジネスエンティティビューをコピーし、類似のビジネスエンティティビューをすばやく作成するためのテンプレートとして使用できます。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティビュー】** を選択します。
2. ビジネスエンティティビューを選択して **【コピー】** をクリックします。
【ビジネスエンティティビューのコピー】 ダイアログボックスが表示されます。
3. 一意の名前を入力してください。
4. コピーするノードを選択し、**【保存してパブリッシュ】** をクリックします。
ビジネスエンティティビューのコピーが作成され、変更内容が MDM Hub にパブリッシュされます。
5. ビジネスエンティティビューを変更するには、ツリービューパネルで、必要に応じてフィールドと子ノードを編集します。

ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティビューフィールドにマッピングするためのトランスフォーメーションを設定します。

このトランスフォーメーションをマッピングするには、次の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1 対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- 直接トランスフォーメーションを追加して、ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティビューフィールドにマッピングします。

1 対多の子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【トランスフォーメーション】** をクリックします。
2. ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを作成します。
 - a. **【トランスフォーメーション】** リストから、**【ビジネスエンティティからビュー】** を選択します。
 - b. **【作成】** をクリックします。
 - c. **【プロパティ】** パネルでトランスフォーメーションのプロパティを入力します。
 - d. **【適用】** をクリックします。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【グループ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	ノードの一意の名前。
ソース	ビジネスエンティティの子ノードを指定します。
ターゲット	ビューの子ノードを指定します。

5. それぞれの子ノードについてステップ [1](#)~[4](#) を繰り返します。
6. [適用] をクリックします。
- これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

直接トランスフォーメーションの設定

データを変更せずに、ビジネスエンティティフィールドからビューフィールドにデータを直接マッピングできます。

1. [ビジネスエンティティ] > [トランスフォーメーション] をクリックしてから、[ビジネスエンティティからビュー] を選択します。
2. ビジネスエンティティからビューへのトランスフォーメーションを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで [トランスフォーメーション] を選択し、[作成] をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの一意の名前。
ステータスの出力	直接トランスフォーメーションには適用されません。クレンジング関数がビジネスエンティティからのデータを検証したかどうかを示すクレンジング関数の出力カラム。クレンジング関数の出力を検証するために使用します。
ステータス - 成功	直接トランスフォーメーションには適用されません。ステータスの出力カラムのデータが正常に検証されたときにクレンジング関数が返す値を指定します。ステータスの出力とステータス - 成功の値が指定されている場合、ステータス - 成功の値以外のステータスの出力カラムの値は、エラーメッセージとしてエンドユーザーに表示されます。このプロパティはクレンジング関数の出力を検証するために使用します。
タイプ	トランスフォーメーションのタイプ。[直接] を選択します。
入力フィールド	ビューにマッピングするビジネスエンティティフィールドを指定します。
出力フィールド	ビジネスエンティティフィールドをマッピングするビューフィールドを指定します。
値	オプション。入力フィールドまたは出力フィールドが定義されていない場合に、入力定数を入力するために使用されます。

5. [適用] をクリックします。

ビューをビジネスエンティティにマッピングするためのトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティビューをビジネスエンティティにマッピングするためのトランスフォーメーションを設定します。

データを変更せずにビューにマッピングするようにトランスフォーメーションを設定できます。ビジネスエンティティビューに入力されたデータをビジネスエンティティに移動する前にクレンジングして検証できるように、クレンジング関数でデータを変換することもできます。

このトランスフォーメーションをマッピングするには、次の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1 対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- トランスフォーメーションを追加し、ビューフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。次のタイプのトランスフォーメーションを設定できます。
 - データを変更せずに移動するための直接トランスフォーメーション。
 - データがビジネスエンティティに入力される前に変換するためのクレンジングトランスフォーメーション。

子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックしてから、**【ビューからビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【グループ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	ノードの一意の名前。
ソース	ビューの子ノードを指定します。
ターゲット	ビジネスエンティティの子ノードを指定します。

5. それぞれの子ノードについてステップ [3](#)~[4](#) を繰り返します。
6. **【適用】** をクリックします。
これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

直接トランスフォーメーションの設定

データを変換せずに、ビューフィールドからビジネスエンティティフィールドにデータを直接マッピングできます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックしてから、**【ビューからビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを選択します。

3. [ツリービュー] パネルで [トランスフォーメーション] を選択し、[作成] をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの一意の名前。
ステータスの出力	直接トランスフォーメーションには適用されません。クレンジング関数がビジネスエンティティからのデータを検証したかどうかを示すクレンジング関数の出力カラム。クレンジング関数の出力を検証するために使用します。
ステータス - 成功	直接トランスフォーメーションには適用されません。ステータスの出力カラムのデータが正常に検証されたときにクレンジング関数が返す値を指定します。ステータスの出力とステータス - 成功の値が指定されている場合、ステータス - 成功の値以外のステータスの出力カラムの値は、エラーメッセージとしてエンドユーザーに表示されます。このプロパティはクレンジング関数の出力を検証するために使用します。
タイプ	トランスフォーメーションのタイプ。[直接] を選択します。
入力フィールド	ビューにマッピングするビジネスエンティティフィールドを指定します。
出力フィールド	ビジネスエンティティフィールドをマッピングするビューフィールドを指定します。
値	オプション。入力フィールドまたは出力フィールドが定義されていない場合に、入力定数を入力するために使用されます。

5. [適用] をクリックします。

クレンジングトランスフォーメーションの設定

ビジネスエンティティフィールドをビューフィールドにマッピングするときに、クレンジングトランスフォーメーションでデータをクレンジングすることを選択できます。このクレンジングトランスフォーメーションは、その特定のビジネスエンティティビューに対する書き込み操作のためにデータをクレンジングします。

1. [ビジネスエンティティ] > [トランスフォーメーション] をクリックしてから、[ビューからビジネスエンティティ] を選択します。
2. ビューからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで [トランスフォーメーション] を選択し、[作成] をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの一意の名前。
ステータスの出力	クレンジング関数がビジネスエンティティからのデータを検証したかどうかを示すクレンジング関数の出力カラム。クレンジング関数の出力を検証するために使用します。

プロパティ	説明
ステータス - 成功	ステータスの出力カラムのデータが正常に検証されたときにクレンジング関数が返す値を指定します。ステータスの出力とステータス - 成功の値が指定されている場合、ステータス - 成功の値以外のステータスの出力カラムの値は、エラーメッセージとしてエンドユーザーに表示されます。このプロパティはクレンジング関数の出力を検証するために使用します。
タイプ	トランスフォーメーションのタイプ。 【クレンジング】 を選択します。
クレンジングライブラリ	データの変換に使用するクレンジング関数を含むクレンジングライブラリを指定します。
関数	データの変換に使用するクレンジング関数を指定します。
入力パラメータ	ビジネスエンティティフィールドへの入力として使用するビューフィールドを指定します。ビューフィールドを指定するには、 【入力】 フィールドの横にある 【参照】 ボタンをクリックします。
出力パラメータ	変換されたデータを受け取るビジネスエンティティフィールドを指定します。ビジネスエンティティフィールドを指定するには、 【出力】 フィールドの横にある 【参照】 ボタンをクリックします。
値	オプション。 【連結】 などの関数を使用するときに、値区切り記号として使用する入力定数を入力するために使用できます。

5. **【適用】** をクリックします。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの設定

エンティティデータをクレンジングするために、ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定します。

ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定するには、次の手順を実行します。

- トランスフォーメーショングループを作成して、1 対多の子トランスフォーメーションを含めます。
- クレンジングトランスフォーメーションを追加し、ビジネスエンティティフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。

子ノードのトランスフォーメーションの設定

子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティからビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【グループ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	ノードの一意の名前。
ソース	ビジネスエンティティの子ノードを指定します。
ターゲット	【ソース】 フィールドで選択したビジネスエンティティの同じ子ノードを指定します。

5. **【適用】** をクリックします。

これで、子ノードのトランスフォーメーションを設定できるようになりました。

クレンジングトランスフォーメーションの設定

クレンジングトランスフォーメーションは、それ自体にマッピングするビジネスエンティティフィールドに適用できます。このクレンジングトランスフォーメーションは、すべてのビジネスエンティティビューに対する書き込み操作のためにデータをクレンジングします。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティからビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを選択します。
3. [ツリービュー] パネルで **【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの一意の名前。
ステータスの出力	クレンジング関数がビジネスエンティティからのデータを検証したかどうかを示すクレンジング関数の出力カラム。クレンジング関数の出力を検証するために使用します。
ステータス - 成功	ステータスの出力カラムのデータが正常に検証されたときにクレンジング関数が返す値を指定します。ステータスの出力とステータス - 成功の値が指定されている場合、ステータス - 成功の値以外のステータスの出力カラムの値は、エラーメッセージとしてエンドユーザーに表示されます。このプロパティはクレンジング関数の出力を検証するために使用します。
タイプ	トランスフォーメーションのタイプ。 【クレンジング】 を選択します。
クレンジングライブラリ	データの変換に使用するクレンジング関数を含むクレンジングライブラリを指定します。
関数	データの変換に使用するクレンジング関数を指定します。
入力パラメータ	ビジネスエンティティフィールドへの入力として使用するビューフィールドを指定します。ビューフィールドを指定するには、 【入力】 フィールドの横にある 【参照】 ボタンをクリックします。

プロパティ	説明
出力パラメータ	変換されたデータを受け取るビジネスエンティティフィールドを指定します。ビジネスエンティティフィールドを指定するには、 【出力】 フィールドの横にある 【参照】 ボタンをクリックします。
値	オプション。 【連結】 などの関数を使用するときに、値区切り記号として使用する入力定数を入力するために使用できます。

5. **【適用】** をクリックします。

トランスフォーメーションの削除

トランスフォーメーションを削除できます。トランスフォーメーションを削除すると、トランスフォーメーションに依存するコンポーネントまたは拡張も削除されます。

第 8 章

階層リレーションとネットワークリレーションの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [階層リレーションとネットワークリレーションの設定の概要, 62 ページ](#)
- [階層関係, 63 ページ](#)
- [ネットワークリレーション, 64 ページ](#)
- [前提条件, 65 ページ](#)
- [階層リレーションの設定, 66 ページ](#)
- [ネットワークリレーションの設定, 70 ページ](#)
- [階層タスクの設定, 74 ページ](#)
- [リレーションを管理するための Data Director インタフェースの設計, 78 ページ](#)

階層リレーションとネットワークリレーションの設定の概要

リレーションは、2 つのビジネスエンティティ間の接続です。プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティ間の階層リレーションおよびネットワークリレーションを設定します。その後、Data Director ユーザーはビジネスエンティティ間のリレーションを使用して、レコード間のリレーションを作成できます。

以下のリレーションを作成できます。

階層リレーション

階層的な 2 つのビジネスエンティティ間の接続。例えば、Organization ビジネスエンティティは、Person ビジネスエンティティの親です。

ネットワークリレーション

2 つの関連したビジネスエンティティ間の接続。例えば、Person ビジネスエンティティは Credit Card ビジネスエンティティに関連しています。

重要: 階層マネージャに引き続き使用するリレーションがある場合は、リレーションをアップグレードして、階層リレーションまたはネットワークリレーションとして作成する必要があります。階層のアップグレード手順については、*Multidomain MDM のアップグレードガイド*を参照してください。

アイコンと色

ビジネスエンティティを表す色とアイコン、およびレコード Data Director を表すアイコンを定義できます。また、Data Director でネットワークリレーションの線の色を設定することもできます。

ルートビジネスエンティティノードを確立する場合、Data Director でビジネスエンティティを表すために使用される色とアイコンを定義します。Data Director ユーザーがレコードのアイコンを指定できるフィールドも指定します。Data Director でレコードを作成および管理すると、色とアイコンが表示されます。詳細については、「[ビジネスエンティティルートノードの作成](#)」(ページ 22)を参照してください。

ネットワークリレーションの線の色を定義できます。ネットワークリレーションを表示すると、[ネットワーク] ビューに色が表示されます。

階層関係

階層は、ルートビジネスエンティティノードと、ビジネスエンティティ間の親-子リレーションを定義する階層リレーションで構成されます。階層を作成するときは、ビジネスエンティティをルートノードとして指定する必要があります。次に、ビジネスエンティティを階層に追加し、ルートビジネスエンティティからビジネスエンティティへの階層リレーションを設定します。

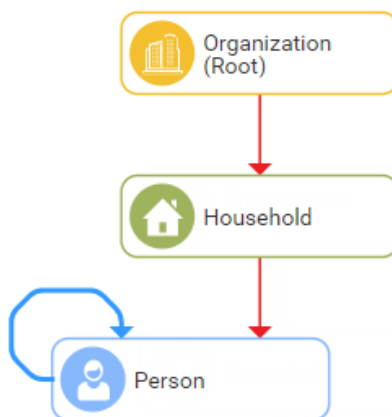
追加のビジネスエンティティを追加し、ビジネスエンティティ間の階層リレーションを設定できます。階層内の各階層リレーションには、ルートビジネスエンティティへの直接的または間接的なリレーションが必要です。階層モデルを表すのに必要な数の階層リレーションを作成できます。

例えば、組織で顧客を世帯別に追跡する必要があるとします。次の階層と階層リレーションを作成できます。

1. Organization 階層を作成します。
2. Organization ビジネスエンティティをルートビジネスエンティティとして追加します。
3. Organization ビジネスエンティティから Household ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。
4. Household ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。

次に、Data Director で、ユーザーは Informatica レコードから Smith レコードへの階層リレーションを作成できます。Smith レコードから John Smith レコードへのリレーションを作成してから、Smith レコードから Jane Smith レコードへのリレーションを作成します。

次の図に、階層デザイナのサンプル階層を示します。



ネットワークリレーション

ネットワークはビジネスエンティティ間のネットワークリレーションの集合です。ネットワークリレーションは、関連ビジネスエンティティ間の接続です。

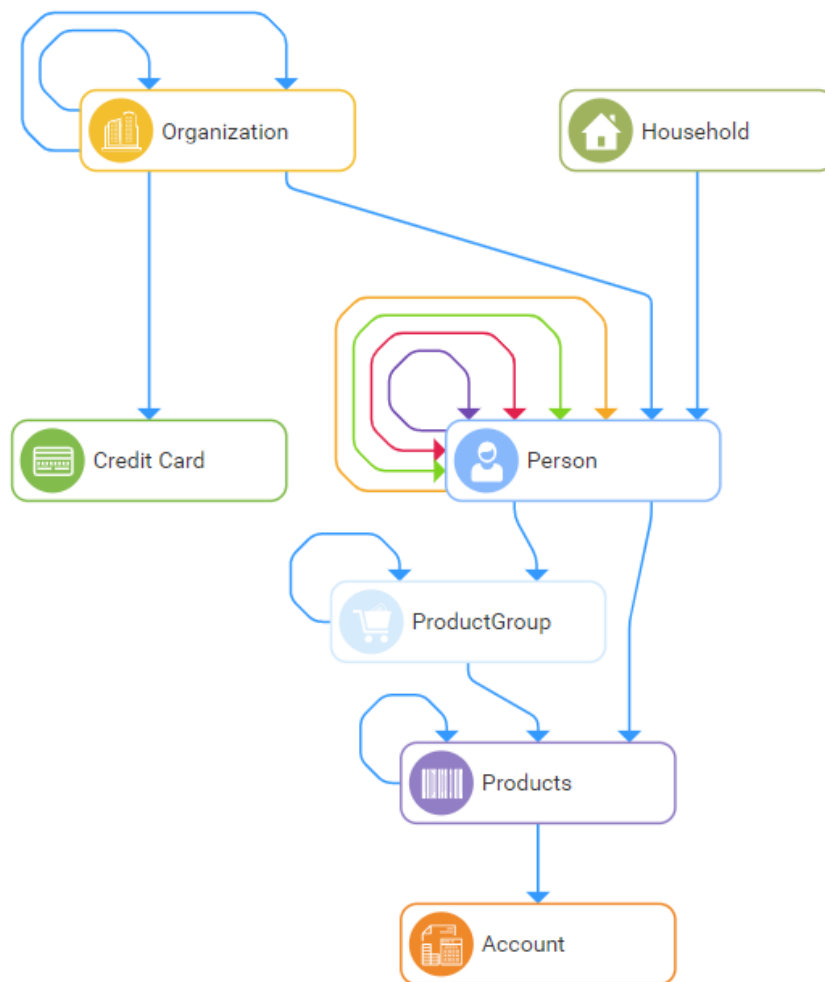
ネットワークを編集するときは、ビジネスエンティティを追加し、ビジネスエンティティ間のネットワークリレーションを設定します。各ネットワークリレーションは、リレーションのネットワークの一部になります。ネットワークにはルートノードは含まれません。

例えば、組織で関連ビジネスエンティティを追跡する必要があるとします。以下のネットワークリレーションを作成できます。

1. Person ビジネスエンティティから Products ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。
2. Organization ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。
3. Organization ビジネスエンティティから Credit Card ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。
4. Household ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。

次に、Data Director で、John Smith レコードと X100 Keyboard レコードの間にネットワークリレーションを作成できます。また、ユーザーは、Smiths レコードから John Smith レコードへのネットワークリレーションも作成できます。

次の図に、ネットワークデザイナーのサンプルネットワークを示します。



前提条件

リレーションを設定する前に、次の前提条件タスクを実行します。

1. MDM Hub のベースオブジェクトを作成します。
2. ビジネスエンティティ構造を定義します。
3. リレーションの属性をさらに追加する場合は、リレーションを保持するベースオブジェクトに、必要なカラムが存在していることを確認します。

階層リレーションの設定

ルートビジネスエンティティノードを追加し、ビジネスエンティティを追加して、ビジネスエンティティ間の階層リレーションを設定することにより、階層を設定します。

階層リレーションを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 階層を作成します。
2. 階層内のルートノードを設定します。
3. ビジネスエンティティを階層に追加します。
4. 階層リレーションを設定します。
5. 階層設定を設定します。
6. 必要に応じて、追加のリレーション属性を設定します。

ヒント: Data Director でビジネスエンティティとビジネスエンティティのレコードを表すアイコンを設定できます。Data Director ユーザーが【階層】ビューでビジネスエンティティを表示すると、各レコードのアイコンが表示されます。アイコンの設定の詳細については、[「ビジネスエンティティルートノードの作成」 \(ページ 22\)](#)を参照してください。

手順 1.階層を作成する

階層リレーションのコレクションを含む階層を作成します。例えば、ビジネスの組織階層を設定するとします。

1. 【ビジネスエンティティ】 > 【モデリング】 をクリックしてから、【階層】 を選択します。
2. 【作成】 > 【新しい階層】 をクリックします。
3. [プロパティ] パネルで以下の階層プロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	階層の一意の名前。
ラベル	階層のラベル。
説明	階層のわかりやすい説明。

4. 【適用】 をクリックします。

階層名が【モデリング】 パネルに表示され、階層構造が【ツリービュー】 パネルに表示されます。

手順 2.階層内のルートノードを設定する

階層内のルートノードを設定します。例えば、Organization Structure の階層があるとします。Organization ビジネスエンティティをルートノードとして定義するとします。

1. 【階層の編集】 をクリックします。
階層デザイナーが開き、キャンバスに未定義のルートノードが表示されます。
2. 【ルートビジネスエンティティ (未定義)】 ノードを選択します。
3. [プロパティ] パネルで、階層のルートノードとして指定するビジネスエンティティを選択します。
例えば、[Organization] を選択します。
4. 【適用】 をクリックします。

手順 3.ビジネスエンティティを階層に追加する

ビジネスエンティティを階層に追加します。例えば、Organization Structure の階層があるとします。Organization ビジネスエンティティをルートノードとして設定しています。Person ビジネスエンティティを追加して、Organization ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成できるようにします。

1. [追加] アイコンをクリックします。
定義されていないノードがキャンバスに表示されます。
2. プロパティパネルで、ビジネスエンティティを選択します。
例えば、[個人] を選択します。
3. [適用] をクリックします。

手順 4.階層リレーションを設定する

階層内の 2 つのビジネスエンティティ間のリレーションを設定します。例えば、Organization ビジネスエンティティをルートノード、Person ビジネスエンティティをノードとする Organization Structure 階層があります。Organization ビジネスエンティティと Person ビジネスエンティティ間のリレーションを設定するとします。Organization が Person を雇用しているリレーションとします。

1. リレーションを作成するビジネスエンティティにマウスポインタを合わせます。
追加アイコンと矢印アイコンが表示されます。
2. 矢印アイコンをクリックし、リレーションを作成するノードの上で矢印を離します。
例えば、Organization ビジネスエンティティで矢印アイコンをクリックしてから、Person ビジネスエンティティの上で矢印を離します。
3. ノード間のリレーションを定義するには、次のアクションを実行します。
 - a. 2 つのビジネスエンティティノード間の赤い矢印を選択します。
リレーションのプロパティが [プロパティ] パネルに表示されます。
 - b. [プロパティ] パネルで以下のリレーションのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	リレーションの一意の名前。
説明	リレーションのわかりやすい説明。
元となるデータ駆動型のリレーション	レコード間のリレーションを動的に定義するルックアップフィールド データドリブンリレーションでは、ルックアップテーブルのデータを使用して、Data Director のレコード間のリレーションを定義します。 例えば、Organization ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。リレーションは、relName フィールドに基づくデータドリブンです。次に、Data Director でユーザーが Informatica レコードから John Smith レコードへのリレーションを作成すると、そのリレーションは Employee として定義されます。または、ユーザーが Informatica レコードから Jane Smith レコードへのリレーションを作成すると、そのリレーションは CEO として定義されます。
ラベル	Data Director のユーザーインターフェースに表示されるリレーションのラベル。

プロパティ	説明
ラベル形式	ユーザーインターフェースにラベルを表示するかどうかを示します。
形式あり	リレーションを表示した場合に表示されるタイトル。
フィールド形式なし	[形式が存在] のすべてのフィールドに NULL 値がある場合に表示されるタイトル。
親制約	外部キーが指すカラム。
子制約	外部キーが指すカラム。

- c. **【適用】** をクリックします。
4. システムが提案する類似リレーションからリレーションのプロパティをコピーするには、次のアクションを実行します。
 - a. 2つのビジネスエンティティノード間の赤い矢印を選択します。
リレーションのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、電球アイコンにマウスを合わせて **【識別された類似リレーション】** リンクを選択します。
【プロパティのコピー】 ウィンドウが表示されます。
 - c. **【類似リレーション】** パネルで、コピーするプロパティを含むリレーションを選択します。
 - d. **【コピーするプロパティを選択】** パネルで、コピーするリレーションプロパティを選択します。
 - e. **【OK】** をクリックします。
 - f. **【適用】** をクリックします。

手順 5.階層設定値を設定する

階層の表示とエクスポートの設定値を設定します。例えば、ユーザーが Data Director で階層を表示するときに、デフォルトで 10 個の子リレーションを表示できます。または、ユーザーが階層をエクスポートするときに、ビジネスエンティティビューに同じフィールドを含めることができます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【階層】** を選択します。
2. 設定する階層を選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで、設定アイコンをクリックします。
【階層設定】 ダイアログボックスが表示されます。
4. 必要に応じて、**【表示】** タブで、デフォルトで表示する階層内の展開された子リレーションの数を入力します。
5. **【エクスポート】** をクリックします。
【エクスポート】 タブが開きます。
6. 必要に応じて、エクスポートに含めるフィールドを含むビジネスエンティティビューを選択します。
7. **【OK】** をクリックします。
8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

ステップ 6.追加のリレーション属性を設定する（オプション）

リレーションの追加のリレーション属性を設定できます。例えば、組織と個人の間のリレーションには、従業員の給与や役職などの追加属性がある場合があります。個人と自動車の間のリレーションには、購入日、燃費、価格などの追加の属性がある場合があります。リレーションを作成または表示すると、Data Director のユーザーインターフェイスにフィールドが表示されます。

開始する前に、階層リレーションを設定する必要があります。また、リレーションを保持するベースオブジェクトには、追加する属性に対応するカラムが必要です。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【階層】** を選択します。
2. 設定する階層を選択します。
3. ツリービューのパネルで、リレーション属性を設定するリレーションを展開します。
4. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
5. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	フィールドの名前。
ラベル	ユーザーインターフェイスのフィールドの表示名。
読み取り専用	フィールドが読み取り専用かどうかを示す。
必須	リレーションの作成時にフィールドを指定する必要があるかどうかを示す。
URI	カスタムデータ型をビジネスエンティティフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義される URI。
タイプ	URI で定義するカスタムデータ型の名前。URI プロパティとともに使用。
表示形式	日付フィールドの表示形式。

プロパティ	説明						
フィルタ	<p>ユーザーがフィールドに入力できるデータを指定する。【フィルタ】プロパティを有効にした場合、次のプロパティが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 演算子: 指定した値がフィールドで許可されるか拒否されるかを制御します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次に含まれる</td><td> <p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」(ページ 118)を参照してください。</p> </td></tr> <tr> <td>次に含まれない</td><td>値はユーザーに表示されません。</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> - 値: フィールドのデータ型に一致する値を追加します。複数の値を追加するには、値のカンマ区切りリストを入力します。ユーザーがフィールドを空白にすることを許可するには、空白の引用符 (") を値として追加します。 注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。誤ったデータ型の値を追加すると、その値は Data Director に表示されません。 	オプション	説明	次に含まれる	<p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」(ページ 118)を参照してください。</p>	次に含まれない	値はユーザーに表示されません。
オプション	説明						
次に含まれる	<p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」(ページ 118)を参照してください。</p>						
次に含まれない	値はユーザーに表示されません。						
カラム	ビジネスエンティティフィールド。						

6. 【適用】をクリックします。
7. 設定する追加のリレーション属性ごとに、手順 4 から 6 を繰り返します。

ネットワークリレーションの設定

ビジネスエンティティをネットワークに追加し、ビジネスエンティティ間のネットワークリレーションを設定することにより、ネットワークを設定します。

ネットワークを設定するには、以下の手順を実行します。

1. ビジネスエンティティをネットワークに追加します。
2. ネットワークリレーションを設定します。
3. ネットワーク設定値を設定します。
4. 必要に応じて、追加のリレーションプロパティを設定します。

ヒント: Data Director でビジネスエンティティとビジネスエンティティのレコードを表すアイコンを設定できます。Data Director ユーザーが【ネットワーク】ビューでビジネスエンティティを表示すると、各レコードのアイコンが表示されます。アイコンの設定の詳細については、「[ビジネスエンティティルートノードの作成](#)」(ページ 22)を参照してください。

手順 1.ビジネスエンティティをネットワークに追加する

ビジネスエンティティをネットワークに追加します。例えば、Person ビジネスエンティティと Product ビジネスエンティティの間のネットワークリレーションを定義するとします。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ネットワーク】** を選択します。
2. **【ネットワークの編集】** をクリックします。
ネットワークデザイナーが開きます。
3. **【追加】** アイコンをクリックします。
定義されていないノードがキャンバスに表示されます。
4. プロパティパネルで、ビジネスエンティティを選択します。
例えば、**【個人】** を選択します。
5. **【適用】** をクリックします。
6. さらにビジネスエンティティを追加するには、手順 3 から 5 を繰り返します。

手順 2.ネットワークリレーションを設定する

ネットワーク内の 2 つのビジネスエンティティ間のリレーションを設定します。例えば、Person ビジネスエンティティと Product ビジネスエンティティの間のリレーションを定義するとします。そのリレーションでは Person が Product を所有しているとします。

1. リレーションを作成するビジネスエンティティにマウスポインタを合わせます。
追加アイコンと矢印アイコンが表示されます。
2. 矢印アイコンをクリックし、リレーションを作成するノードの上で矢印を離します。
例えば、Person ビジネスエンティティで矢印アイコンをクリックしてから、Product ビジネスエンティティの上で矢印を離します。
3. ノード間のリレーションを定義するには、次のアクションを実行します。
 - a. 2 つのビジネスエンティティノード間の赤い矢印を選択します。
リレーションのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
 - b. **【プロパティ】** パネルで以下のリレーションのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	リレーションの一意の名前。
説明	リレーションのわかりやすい説明。

プロパティ	説明
元となるデータ駆動型のリレーション	レコード間のリレーションを動的に定義するルックアップフィールド データドリブンリレーションでは、ルックアップテーブルのデータを使用して、Data Director のレコード間のリレーションを定義します。 例えば、Organization ビジネスエンティティから Person ビジネスエンティティへのリレーションを作成します。リレーションは、relName フィールドに基づくデータドリブンです。次に、Data Director でユーザーが Informatica レコードから John Smith レコードへのリレーションを作成すると、そのリレーションは Employee として定義されます。または、ユーザーが Informatica レコードから Jane Smith レコードへのリレーションを作成すると、そのリレーションは CEO として定義されます。
ラベル	Data Director のユーザーインターフェースに表示されるリレーションのラベル。
ラベル形式	ユーザーインターフェースにラベルを表示するかどうかを示します。
形式あり	リレーションを表示した場合に表示されるタイトル。
フィールド形式なし	[形式が存在] のすべてのフィールドに NULL 値がある場合に表示されるタイトル。
親制約	外部キーが指すカラム。
子制約	外部キーが指すカラム。

- c. **【適用】** をクリックします。
4. システムが提案する類似リレーションからリレーションのプロパティをコピーするには、次のアクションを実行します。
 - a. 2つのビジネスエンティティノード間の赤い矢印を選択します。
リレーションのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、電球アイコンにマウスを合わせて **【識別された類似リレーション】** リンクを選択します。
【プロパティのコピー】 ウィンドウが表示されます。
 - c. **【類似リレーション】** パネルで、コピーするプロパティを含むリレーションを選択します。
 - d. **【コピーするプロパティを選択】** パネルで、コピーするリレーションプロパティを選択します。
 - e. **【OK】** をクリックします。
 - f. **【適用】** をクリックします。

2つのビジネスエンティティ間のネットワークリレーションを設定しました。追加のビジネスエンティティを追加し、ビジネスエンティティ間のネットワークリレーションを設定できます。

手順 3. ネットワーク設定値を設定する

ネットワークの表示とエクスポートの設定値を設定します。例えば、ユーザーが Data Director でネットワークを表示すると、最初に 10 個のリレーションが表示され、ノードを展開すると 3 個のリレーションが表示されるようにすることができます。または、ユーザーがネットワークをエクスポートするときに、ビジネスエンティティビューに同じフィールドを含めることができます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ネットワーク】** を選択します。
2. 設定するネットワークリレーションを選択します。

3. [ツリービュー] パネルで、設定アイコンをクリックします。
[ネットワーク設定] ダイアログボックスが表示されます。
4. [表示] タブで、次の表示設定を指定します。

設定	説明
初期リレーションの数	ネットワークに表示されるリレーションの初期数。
展開されたリレーションの数	ネットワーク内のノードを展開するときに表示されるリレーションの数。

5. [エクスポート] をクリックします。
[エクスポート] タブが開きます。
6. 必要に応じて、エクスポートに含めるフィールドを含むビジネスエンティティビューを選択します。
7. [OK] をクリックします。
8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. [パブリッシュ] をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、[パブリッシュ] をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、[変更の確認] をクリックし、画面に表示される指示に従います。

手順 4. リレーションプロパティを設定する（オプション）

リレーションの線の色やリレーションの追加リレーション属性などのリレーションプロパティを設定できます。リレーションの線の色は、ネットワーク内のリレーションを表します。リレーション属性は、リレーションを作成または表示するときに Data Director のユーザーインターフェースに表示されるフィールドです。

開始する前に、ビジネスエンティティ間のネットワークリレーションを使用してネットワークを設定する必要があります。

1. [ビジネスエンティティ] > [モデリング] をクリックしてから、[ネットワーク] を選択します。
2. 設定するネットワークリレーションを選択します。
3. [プロパティ] パネルの [線の色] フィールドからアイコンを選択し、色を選択します。
アイコンに色のプレビューが表示されます。
4. [ツリービュー] パネルで [フィールド] を選択し、[作成] をクリックします。
5. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	フィールドの名前。
ラベル	ユーザーインターフェースのフィールドの表示名。

プロパティ	説明						
読み取り専用	フィールドが読み取り専用かどうかを示す。						
必須	リレーションの作成時にフィールドを指定する必要があるかどうかを示す。						
URI	カスタムデータ型をビジネスエンティティフィールドに関連付ける場合、カスタムデータ型が定義される URI。						
タイプ	URI で定義するカスタムデータ型の名前。URI プロパティとともに使用。						
表示形式	日付フィールドの表示形式。						
フィルタ	<p>ユーザーがフィールドに入力できるデータを指定する。【フィルタ】 プロパティを有効にした場合、次のプロパティが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 演算子: 指定した値がフィールドで許可されるか拒否されるかを制御します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次に含まれる</td><td> <p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」 (ページ 118) を参照してください。</p> </td></tr> <tr> <td>次に含まれない</td><td>値はユーザーに表示されません。</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> - 値: フィールドのデータ型に一致する値を追加します。複数の値を追加するには、値のカンマ区切りリストを入力します。ユーザーがフィールドを空白にすることを許可するには、空白の引用符 (") を値として追加します。 注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。誤ったデータ型の値を追加すると、その値は Data Director に表示されません。 	オプション	説明	次に含まれる	<p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」 (ページ 118) を参照してください。</p>	次に含まれない	値はユーザーに表示されません。
オプション	説明						
次に含まれる	<p>値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。</p> <p>注: 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「フィールドフィルタルールとユーザーロール」 (ページ 118) を参照してください。</p>						
次に含まれない	値はユーザーに表示されません。						
カラム	ビジネスエンティティフィールド。						

6. **【適用】** をクリックします。
7. 設定する追加のリレーション属性ごとに、手順 3 から 6 を繰り返します。

階層タスクの設定

階層タスクにより、階層への変更が承認ワークフローを通過するようになります。階層タスクを使用するには、タスクタイプ、ワークフロートリガ、およびタスクテンプレートを設定します。次に、Data Director ユーザーが階層を編集または作成すると、ActiveVOS は特定のプロパティを持つ階層タスクを作成します。

階層タスクはタスクの一種です。一般的なタスクの詳細については、[「タスクの設定の概要」](#) (ページ 96) を参照してください。

階層タスクを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 階層タスクタイプを設定します。
2. 階層タスクテンプレートを設定します。
3. 階層ワークフロートリガを設定します。

手順 1.階層タスクタイプの設定

階層タスクタイプを作成し、タスクを要求または割り当てることができるユーザーを設定します。例えば、上級マネージャが階層タスクを確認することができます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【タスクタイプ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルの **【名前】** フィールドに、「**HierarchyFinalReview**」と入力します。
4. 必要に応じて、**【ラベル】** フィールドにタスクのタイプのラベルを入力します。
5. タスクの詳細を編集するときに添付ファイルをサポートするには、**【タスクの詳細でファイル添付を有効にする】** チェックボックスをオンにします。
6. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルに **【ロール】** と **【タスクアクション設定】** フォルダが表示されます。
7. タスクを要求または割り当て可能なロールを選択します。
 - a. [ツリービュー] パネルで **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、**【ロール】** リストから MDM Hub ユーザーロールを選択します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルにロールが表示されます。
 - d. 必要に応じて、追加のロールを作成します。
8. 必要に応じて、ロールがアクセスできる階層を設定します。

ヒント: 階層を設定しない場合、選択したロールを割り当てられたユーザーは、すべての階層のタスクを管理できます。

- a. [ツリービュー] パネルでロールを選択します。
 - b. **【階層】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - c. [プロパティ] パネルで、**【階層】** リストから階層を選択します。
 - d. **【適用】** をクリックします。
 - e. 必要に応じて、追加の階層を設定します。
9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

手順 2.階層タスクテンプレートの設定

階層タスクのタスクテンプレートを設定するには、タスクのタイトル、期限、優先度などのデフォルトのタスクプロパティを設定します。ActiveVOS が階層タスクを作成すると、指定したプロパティでタスクが作成されます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【テンプレート】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルでテンプレートのプロパティを入力します。
 - a. **【名前】** フィールドに、「**HierarchyApprovalTemplate**」と入力します。
 - b. **【タイトル】** フィールドにタスクタイトルのタイトル形式を入力します。

タイトル例

タスクのタイトルを「Review hierarchy changes in <record label>」にするとします。

タイトルに次の値を入力します: Review hierarchy changes in {taskRecord[0].label}。

ここで、

- taskRecord[0] はターゲットレコードです。
- label は、ビジネスエンティティラベル形式設定のタスク形式の値です。

- c. タスクのプロパティを選択します。

次の表に、可能なタスクの優先度を示します。

優先度	説明
HIGH	タスクに高い優先度があります。
NORMAL	タスクに中程度の優先度があります。デフォルトは NORMAL です。
LOW	タスクに低い優先度があります。

- d. **【期限】** フィールドに、タスクが作成された日付からタスクが期限を迎える日付までの日数を入力します。

次の表は、期限の構文を示しています。

パラメータ のタイプ	説明	値
sign	タスクの作成前と作成後のどちらの日付に期限が設定されるかを決定します。	+の場合は、タスクがトリガされる日付に時間が追加されて、期限が決まります。 -の場合は、タスクがトリガされる日付から時間が減算されて、期限が決まります。
number	期限を設定するときに、現在の日付を増やすまたは減らす際の単位数。	整数値。
unit	タスクがトリガされた日付から期限までの日数、週数、または月数。	d の場合は、指定された日数で期限が決まります。 w の場合は、指定された週数で期限が決まります。 m の場合は、指定された月数で期限が決まります。

- e. 必要に応じて、**【コメント】** フィールドに、タスクのコメントフィールドに表示するテキストを入力します。
- f. 必要に応じて、**【ステータス】** フィールドで、タスクのステータスを選択します。

次の表に、可能なタスクのステータスを示します。

ステータス	説明
OPEN	タスクのステータスは「オープン」です。デフォルトは OPEN です。

- 4. **【適用】** をクリックします。

手順 3.階層ワークフロートリガの設定

階層ワークフローを起動し、階層タスクを作成するトリガを作成します。例えば、データスチュワードによって階層に加えられた変更によって階層タスクをトリガできます。

- 1. ワークフロートリガを設定します。
 - a. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【トリガ】** を選択します。
 - b. **【作成】** をクリックします。
 - c. **【プロパティ】** パネルで「**HierarchyOneStepApproval**」と入力します。
Repository Manager は、トリガ検証エラーの報告時にこの名前を参照します。
 - d. **【ワークフローの開始】** を有効にすると、イベントトリガにより、ワークフローが起動します。

- e. 次のパラメータを設定します。

パラメータ	インプット
テンプレート	HierarchyApprovalTemplate
タスクタイプ	HierarchyFinalReview
タスクの種類	階層
プロセス	HierarchyOneStepApprovalTask

- f. **【適用】** をクリックします。
2. ワークフロートリガのイベントを設定します。
- a. [ツリービュー] パネルで **【イベント】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、**【イベント】** リストから **【ModifyHierarchy】** を選択します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
3. ワークフロートリガのルールを設定します。
- a. [ツリービュー] パネルで **【ルール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、**【ルール】** リストから MDM Hub ルールを選択します。
例えば、データスチュワードによって階層に加えられた変更によって階層タスクをトリガする場合は、データスチュワードを選択します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
 - d. 必要に応じて、追加のルールを設定します。
4. 必要に応じて、階層タスクをトリガする階層を設定します。
- ヒント:** 階層を設定しない場合、階層タスクはすべての階層に対してトリガされます。
- a. [ツリービュー] パネルでルールを選択します。
 - b. **【階層】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - c. [プロパティ] パネルで、**【階層】** リストから階層を選択します。
 - d. **【適用】** をクリックします。
 - e. 必要に応じて、追加の階層を設定します。

リレーションを管理するための Data Director インタフェースの設計

デフォルトでは、すべての Data Director ユーザーが **【階層】** ビューと **【ネットワーク】** ビューを使用できます。Data Director ユーザーは、**【階層】** ビューを使用して、階層リレーションを表示、作成、および管理できます。Data Director ユーザーは、**【ネットワーク】** ビューを使用して、ネットワークリレーションを表示、作成、管理したり、階層リレーションを表示したりできます。

【階層】 ビューの **【クイックビュー】** タブを設計して、階層内の選択したレコードのレコード詳細のサマリを提供できます。また、**【ネットワーク】** ビューの **【クイックビュー】** タブを設計して、ネットワーク内の選択したレコードのレコード詳細のサマリも提供できます。

Data Director の設計の詳細については、[「階層ビューの \[クイックビュー\] タブの設計」 \(ページ 201\)](#)および
[「ネットワークビューの \[クイックビュー\] タブの設計」 \(ページ 202\)](#)を参照してください。

第 9 章

一致ルールセットの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [一致ルールセットの作成の概要, 80 ページ](#)
- [Hub サーバーのプロパティの設定, 80 ページ](#)
- [一致ルールセットの作成の前提条件, 81 ページ](#)
- [一致ルールセットの作成, 82 ページ](#)

一致ルールセットの作成の概要

一致ルールセットは、一致ルールの論理的なコレクションです。一致ルールは、レコードが別のレコードと一致するかどうかを決定します。

プロビジョニングツールを使用して、サンプルデータと一致トレーニングに基づいて一致ルールセットを作成できます。一致エンジンは、サンプルデータセットのレコードを照合し、レビューするために 10 組のレコードを識別します。レビューに基づいて、一致エンジンは一致ルールを作成し、一致ルールの信頼度スコアを提供します。信頼度スコアが低い場合は、一致信頼度スコアが高くなるまで一致エンジンを再トレーニングします。一致ルールを使用して、一致プロセスを実行します。

一致ルールの品質は、使用するデータセットによって異なります。正確な一致ルールを作成するには、一致するレコード、部分的に一致するレコード、一意のレコードの組み合わせがデータセットに含まれていることを確認してください。

注: 非本番環境でのみ一致ルールセットを作成することをお勧めします。

Hub サーバーのプロパティの設定

一致ルールセットを作成する前に、`cmxserver.properties` ファイルで一致トレーニングに関連する Hub サーバーのプロパティを設定してください。

一致トレーニングの次のプロパティを設定します。

`cmx.match.training.confidence.threshold`

オプション。プロビジョニングツールで一致ルールセットを作成するために必要な最小の一致信頼度スコア。デフォルトは 85 です。

cmx.match.training.data.encoding

オプション。プロビジョニングツールでの一致トレーニングのエンコーディングを設定します。一致トレーニングに使用するエンコードを有効にする場合は、1 に設定します。デフォルトは 0 です。

cmx.server.match.server_encoding プロパティが使用するのと同じ値を使用していることを確認します。

Hub サーバープロパティの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

一致ルールセットの作成の前提条件

サンプルデータセットに基づいて、ビジネスエンティティの一致ルールセットを作成できます。

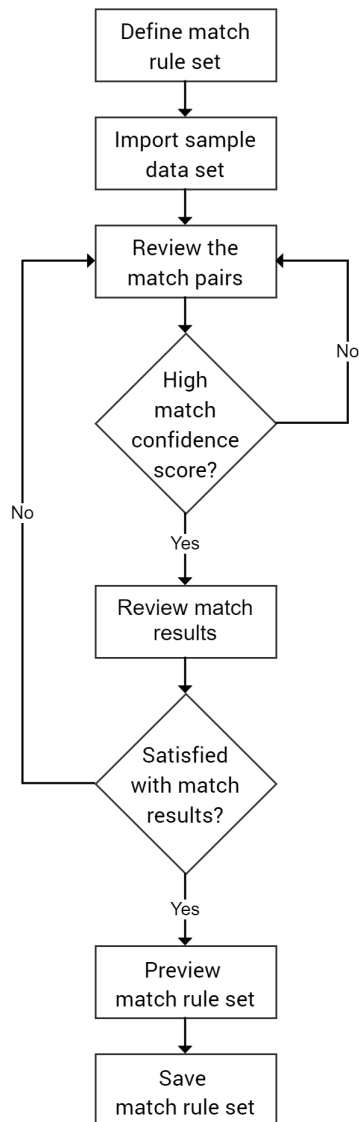
ビジネスエンティティの一致ルールセットを作成する前に、環境が次の前提条件を満たしていることを確認してください。

- ビジネスエンティティの一致ルールセットはありません。
- ビジネスエンティティのルートベースオブジェクトの一致ルールセットはありません。
- ビジネスエンティティのルートベースオブジェクトのレコードはありません。
- データセットに最小 1000 レコード、最大 10,000 レコードが含まれています。
- ユーザーロールにバルクデータをインポートする権限があります。権限の割り当ての詳細については、*Multidomain MDM のセキュリティガイド*を参照してください。

一致ルールセットの作成

プロビジョニングツールを使用した一致ルールセットの作成は、より簡単で高速です。ルールセットを作成する前に、最適なデータセットが作成されていることを確認してください。

次のフローチャートは、一致ルールセットを作成するプロセスを示しています。



手順 1.一致ルールセットを定義する

データセットを定義するときは、データポピュレーションを指定する必要があります。データポピュレーションには、名前、住所、および特定のポピュレーションで一般的なその他の識別情報に関する情報が含まれます。適切なデータポピュレーションを使用して、一致の精度を向上させます。

1. プロビジョニングツールで、**【設定】** > **【一致ルールセット】** をクリックします。
2. **【新規の一致ルールセット】** をクリックします。
【新規の一致ルールセット】 ページが表示されます。

3. 一致ルールセットの名前を入力します。
4. 必要に応じて、一致ルールセットの説明を入力します。
5. 一致ルールセットが存在しないビジネスエンティティを選択します。
6. データポピュレーションを選択します。

手順 2. サンプルデータセットをインポートする

最小 1000 レコード、最大 10,000 レコードが含まれるデータセットをアップロードします。一致エンジンは、サンプルデータのフィールドを既存のビジネスエンティティフィールドに自動的にマッピングします。

1. **【一致トレーニングデータセット】** で、**【アップロード】** をクリックします。
【一致トレーニングデータセットのインポート】 ダイアログボックスが表示されます。
2. ファイルをアップロードするには、CSV または Excel ファイルを **【ファイルのアップロード】** ボックスにドラッグするか、**【参照】** をクリックしてファイルを選択します。
一致トレーニングデータセットのプレビューとファイルプロパティが表示されます。
注: サンプルデータセットを変更する場合は、**【ファイルの変更】** をクリックします。
3. **【ファイルプロパティ】** パネルで以下のファイルプロパティを指定します。

プロパティ	説明
区切り文字	インポートファイル内でデータ値の区切りに使用されている文字。
テキスト修飾子	文字列を囲むためにファイルで使用される記号。
コードページ	ファイルで使用される文字エンコード。文字エンコードは、言語または言語グループから 16 進コードへの文字のマッピングです。
行からデータをインポート	データのインポート元の行。
カラムヘッダーがあります	アップロードされたファイルにカラムヘッダーが含まれているかどうかを示します。
ローのカラムヘッダー	ファイルのカラムヘッダーとして機能する行の番号。
地域設定	次の設定を更新するには、チェックボックスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - 日付パターン: インポートファイルの日付フィールドの日付形式。 - 小数点記号: 数値の小数部を区切るために使用される記号。 - 桁区切り記号: 数千のグループを区切るために使用される記号。

4. **【次へ】** をクリックします。
一致エンジンは、アップロードされたファイルのカラムヘッダーをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。
5. 自動生成されたフィールドマッピングを更新するには、ソースカラムヘッダーを関連するターゲットビジネスエンティティフィールドにドラッグします。
6. **【保存】** をクリックします。
選択したビジネスエンティティが使用するルートベースオブジェクトの既存のレコードを削除することを確認するメッセージが表示されます。
7. 続行するには、**【はい】** をクリックします。

削除操作を確認するメッセージが表示されます。

8. **【はい】** をクリックして、一致トレーニングを続行します。
【一致トレーニング】 ページが表示されます。

手順 3. 一致エンジンをトレーニングする

データペアを確認します。すべてのデータペアを確認した後、一致エンジンは、一致ペアを識別した一致ルールセットに基づいて一致結果を表示します。一致エンジンは、一致結果を表示するために少なくとも 8 つの確認済みレビュー入力が必要とします。

1. **【一致トレーニング】** ページで、キーの生成に使用するキータイプを選択し、**【続行】** をクリックします。
最初のデータペアが確認のために表示されます。
2. データペアを確認し、次のオプションのいずれかをクリックします。
 - **【一致】**。レコードが同じ場合。
 - **【分からない】**。レコードが同じかどうかわからない場合。
 - **【一致しない】**。レコードが同じではない場合。
3. 10 個のデータペアの確認が完了したら、**【一致結果を表示】** をクリックします。
一致信頼度メーターと一致結果が表示されます。

手順 4. 一致ルールセットを確認して保存する

一致結果と一致信頼度スコアを確認し、トレーニングを続行するか、または一致ルールセットを保存するかを決定します。

一致信頼度スコアが低い場合、一致エンジンの予測が一致ペアの入力と一致しなかったことを示します。高い信頼度スコアが得られるまで、一致トレーニングを続行する必要があります。

一致信頼度スコアが高い場合、一致エンジンの予測が一致ペアの入力とほぼ一致したことを示します。確認するには、一致結果をチェックします。一致結果に問題がなければ、一致ルールセットの確認と保存に進みます。

1. 一致信頼度スコアが低い場合は、**【トレーニングを続行】** をクリックします。
2. 一致信頼度スコアが高い場合は、次のタスクを実行します。
 - a. 一致結果を確認するには、一致トレーニングのリストからトレーニングセッションを選択します。
 - b. 一致ペアの詳細を表示するには、一致スコアをクリックします。
 - c. 最適なトレーニングセッションを選択し、**【次へ】** をクリックします。
 - d. 一致ルールを確認し、**【保存】** をクリックします。
一致ルールセットが **【一致ルールセット】** ページに表示されます。

第 10 章

検索の設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [検索の設定の概要, 85 ページ](#)
- [Elasticsearch クラスタの設定, 86 ページ](#)
- [エラスティック検索のカスタムインデックス設定の作成（オプション）, 87 ページ](#)
- [検索可能なフィールドの設定, 89 ページ](#)
- [検索またはクエリ結果の表示の設定, 93 ページ](#)
- [類似レコードを表示するレイアウトの設定（オプション）, 94 ページ](#)

検索の設定の概要

Data Director アプリケーションまたはカスタムアプリケーションを使用して、特定のビジネスエンティティ内のデータを検索できます。MDM Hub インストーラに付属している Elasticsearch を使用した検索を設定します。

Elasticsearch は、オープンソースの全文検索エンジンです。Elasticsearch を単一ノードクラスタまたはマルチノードクラスタとして設定して、分散インデックス処理および検索を可能にすることができます。プロビジョニングツールで検索を設定する前に、Elasticsearch を設定し、検索用の MDM Hub プロパティを設定します。

検索を設定するには、次のタスクを実行します。

1. Elasticsearch クラスタを設定します。
2. 必要に応じて、Elasticsearch のカスタムインデックス設定を作成します。
3. 検索可能なフィールドを設定します。
4. 検索およびクエリ結果の表示を設定します。
5. 必要に応じて、類似レコードが表示されるようにレイアウトを設定します。

検索の設定後、オペレーショナルリファレンスストア（ORS）を検証して、検索データをインデックス処理する必要があります。

プロビジョニングツールで検索を設定する前および設定した後に実行すべきタスクについては、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

Elasticsearch クラスタの設定

プロビジョニングツールを使用して、MDM アプリケーション向けに Elasticsearch クラスタを設定します。検索 API でこの設定が使用されます。Data Director アプリケーションと任意のカスタムアプリケーションが、この検索 API を使用します。

注: Elasticsearch クラスタを設定するときは、クラスタのマスタノードのみを指定する必要があります。

1. サポートされているブラウザを開いて、次の URL を入力します。
`https://<MDM Hub Server host name>:<MDM Hub Server port number>/provisioning/`
[ログイン] ページが表示されます。
2. ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
3. [データベース] リストから、Elasticsearch クラスタを設定するデータベースを選択します。
4. [設定] > [インフラストラクチャの設定] をクリックします。
[インフラストラクチャの設定] ページが表示されます。
5. リストから [Elasticsearch クラスタ] を選択してから [ESCluster] をクリックします。
ツリービューのパネルに [ESCluster] が表示されます。
6. Elasticsearch クラスタノードを設定するには、ツリービューのパネルで [esNode] を選択してから [作成] をクリックします。
7. 設定した Elasticsearch クラスタの次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	Elasticsearch クラスタ内のマスタノードの名前を指定します。
URL	Elasticsearch クラスタ内のマスタノードの URL を指定します。URL の形式は <code>https://<host name>:<port></code> です。

8. [適用] をクリックします。
9. 追加のマスタノードを作成する場合、手順 6 から 8 を繰り返します。
10. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. [パブリッシュ] をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、[パブリッシュ] をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、[変更の確認] をクリックし、画面に表示される指示に従います。

エラスティック検索のカスタムインデックス設定の作成（オプション）

Informatica が提供するエラスティック検索インデックスの設定が要件を満たしていない場合は、カスタムインデックス設定を作成できます。カスタムインデックス設定には、アナライザを含める必要があります。アナライザは、テキストをトークンまたは用語に変換して、検索用に転置インデックスに追加します。

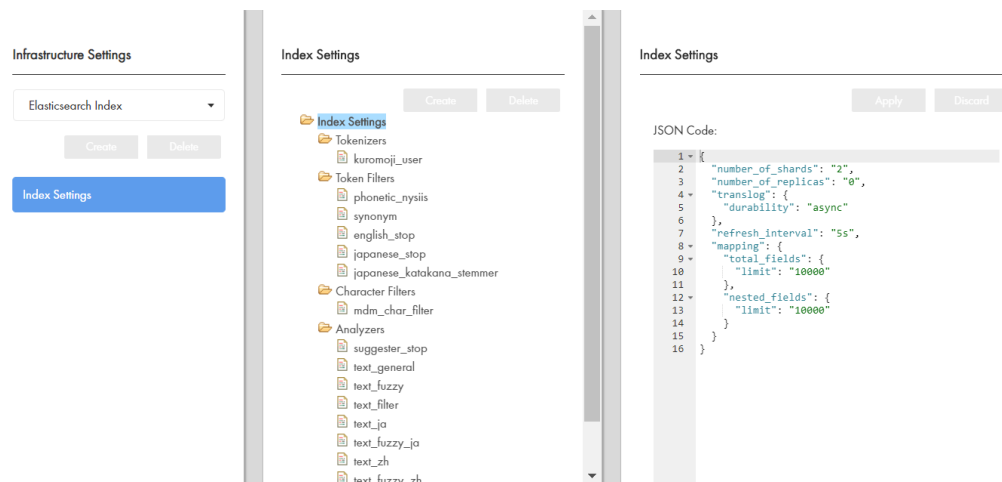
アナライザはトークナイザを 1 つだけ持つ必要があり、かつ 0 個以上の文字フィルタとトークンフィルタを持つことができます。トークナイザは、トークンに変換される文字のストリームを受け取ります。トークンフィルタは、トークナイザによって生成されたトークンのストリームを受け取り、トークンを追加、削除、または変更する場合があります。文字フィルタは文字のストリームを受け取り、ストリーム内の文字を追加、削除、または変更できます。

カスタムアナライザで使用するトークナイザ、トークンフィルタ、および文字フィルタは、Informatica のデフォルト、カスタム、またはエラスティック検索の組み込みコンポーネントにすることができます。デフォルト設定は編集できません。アナライザを設定すると、エラスティック検索の組み込みトークナイザとトークンフィルタを選択できます。

エラスティック検索インデックスの設定の詳細については、エラスティック検索のドキュメントを参照してください。

1. プロビジョニングツールにログインします。
2. **[データベース]** リストから、エラスティック検索インデックス設定を設定するデータベースを選択します。
3. **[設定]** > **[インフラストラクチャの設定]** をクリックします。
[インフラストラクチャの設定] ページが表示されます。
4. インフラストラクチャの設定リストから、**[エラスティック検索インデックス]** を選択し、**[インデックスの設定]** をクリックします。

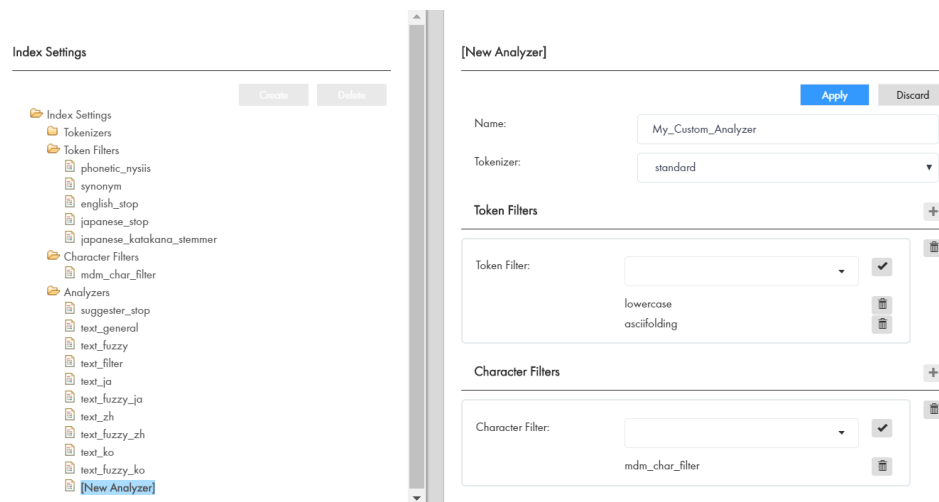
[インデックスの設定] が **[ツリービュー]** パネルに表示され、インデックス設定の **[JSON コード]** ボックスが **[プロパティ]** パネルに表示されます。インデックス設定が変更されていない場合、ページにはデフォルト設定が表示されます。



5. **[JSON コード]** ボックスに、[分析] モジュール以外のモジュールのインデックス設定を入力します。また、シャードの数、レプリカの数、更新間隔など、特定のインデックスモジュールに関連付けられていないインデックス設定を入力します。

6. トークナイザ、トークンフィルタ、文字フィルタなどのアナライザコンポーネントを設定します。
 - a. [ツリービュー] パネルで、設定するコンポーネントを選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、コンポーネントの名前と JSON コードを入力します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
7. アナライザを設定します。
 - a. [ツリービュー] パネルで **【アナライザ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、アナライザの名前、トークナイザ、トークンフィルタ、文字フィルタを指定します。
 トークンフィルタは、アナライザで使用する順序で指定します。

次の図は、カスタムアナライザの設定例です。



- c. **【適用】** をクリックします。
8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
 確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。
9. アプリケーションサーバーのログで、インデックス設定に関連する検証エラーを確認し、変更を加えます。

エラスティック検索組み込みトークナイザとトークンフィルタ

カスタムアナライザで使用可能なエラスティック検索組み込みトークナイザとトークンフィルタを選択できます。

次のエラスティック検索組み込みトークナイザは、カスタムアナライザで使用できます。

- standard
- letter
- lowercase

- whitespace
- uax_url_email
- classic
- thai
- keyword

次のエラスティック検索組み込みトークンフィルタは、カスタムアナライザで使用できます。

- asciifolding
- standard
- lowercase
- uppercase
- porter_stem
- trim
- cjk_width
- cjk_bigram
- classic
- apostrophe
- kuromoji_baseform

カスタムおよび組み込みのエラスティック検索アナライザのコンポーネントの詳細については、エラスティック検索のドキュメントを参照してください。

検索可能なフィールドの設定

プロビジョニングツールを使用して、フィールドを検索可能なフィールドとして設定し、フィールドのプロパティを設定できます。検索要求では、検索可能なフィールドとして設定したフィールドのみを検索します。

複数の検索可能なフィールドを設定すると、検索要求のパフォーマンスに影響する場合があります。重要なフィールドのみを検索可能なフィールドに設定します。例えば、国番号、性別コード、または住所のタイプを含むフィールドよりも、氏名、組織名、または電子メールアドレスを含むフィールドを検索可能なフィールドに設定します。

1. プロビジョニングツールにログインします。
2. **【データベース】** リストから、フィールドを設定するデータベースを選択します。
3. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックします。
【モデリング】 ページが表示されます。
4. リストから **【ビジネスエンティティ】** を選択し、検索可能なフィールドを設定するビジネスエンティティを選択します。
5. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
6. 要件に基づいて、次のプロパティを設定します。

名前

「ツリービュー」パネルに表示するフィールドの名前。

ラベル

Data Director のビュー内に表示するフィールドのラベル。

読み取り専用

オプション。エンティティビューでフィールドを編集できるかどうかを示します。フィールドを編集不可フィールドとして設定するには、プロパティを選択します。

必須

オプション。フィールドが必須かどうかを示します。フィールドを必須フィールドとして設定するには、**【必須】**を選択します。デフォルトは、必須フィールドではありません。

URI

データ型を宣言する名前空間を定義します。設定するデータ型は、選択した URI によって異なります。

文字列、整数、ブールなどの基本的なデータ型を設定するには、commonj.sdo を選択します。イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付などの Informatica のデータ型を設定するには、urn:co-types.informatica.mdm を選択します。

タイプ

フィールドのデータ型。設定できるデータ型は、選択した URI によって異なります。次のデータ型を設定できます。文字列、整数、10 進数、日付、ブール、イメージ URL、ハイパーリンク、ファイル添付。

デフォルトでは、ビジネスエンティティフィールドのデータ型は、フィールドが関連付けられているベースオブジェクトカラムのデータ型にできるだけ近いものになります。例えば、ベースオブジェクトの文字列カラムにイメージの情報が含まれている場合、ビジネスエンティティフィールドにイメージ URL データ型を設定します。フィールドに Web URL、ファイル URI、FTP リンク、および電子メールアドレスをハイパーリンクとして表示する場合は、フィールドにハイパーリンクデータ型を設定します。

注: セキュリティ上の理由により、Google Chrome および Mozilla Firefox でファイル URI を開くことはできません。

表示形式

日付フィールドの表示形式。日付フィールドの表示形式を指定する前に、URI を指定して **【タイプ】** プロパティを **【日付】** に設定します。

日付を表示するビジネスエンティティフィールドには、**【日付】** または **【日時】** 形式を選択できます。設定する表示形式は、すべての Data Director ビューの日付フィールドに適用されます。

日付フィールドに表示形式が設定されていない場合、そのフィールドの日付形式は、関連するベースオブジェクトカラムの形式と同じです。

フィルタ

静的フィルタを定義して、ユーザーがフィールドに入力可能または入力不可のデータを規定します。

〔フィルタ〕プロパティを有効にした場合、以下のフィールドを指定します。

- **演算子**: 指定した値がフィールドで許可されるか拒否されるかを制御します。

オプション	説明
次に含まれる	値はユーザーに表示されます。カンマ区切りの値リストを許可された値として追加すると、Data Director ユーザーはルックアップリストから値を選択できます。 注 : 同じフィールドにフィールドフィルタも設定されている場合、静的フィルタとフィールドフィルタの論理積に従って値が表示されます。フィールドフィルタの詳細については、「 フィールドフィルタルールとユーザーロール 」(ページ 118)を参照してください。
次に含まれない	値はユーザーに表示されません。

- **値**: フィールドのデータ型に一致する値を追加します。複数の値を追加するには、値のカンマ区切りリストを入力します。ユーザーがフィールドを空白にすることを許可するには、空白の引用符("")を値として追加します。

注: プロビジョニングツールでは、値は検証されません。誤ったデータ型の値を追加すると、その値は Data Director に表示されません。

カラム

フィールドに関連付けるベースオブジェクトのカラムの名前。

7. **〔検索可能〕** を選択します。

追加のフィールドプロパティが表示されます。

8. 要件に基づいて、次のプロパティを 1 つ以上選択します。

- 検索アナライザ
- 提案元
- ソート可能
- フィルタ可能
- ファセット範囲
- ファセット
- 表示可能

9. **〔ファセット〕** を選択した場合、必要に応じて、**〔ファセット範囲〕** フィールドで、ファセットとして設定する数値または日付フィールドの範囲を次の形式で指定します。

<Start Value>,<End Value>,<Frequency>

例: 1000,2000,50

注: Data Director アプリケーションにはファセットの範囲が表示されません。REST Web サービスを使用して検索を実行すると、応答でファセットの範囲が返されます。

10. **〔適用〕** をクリックします。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **〔パブリッシュ〕** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

検索可能なフィールドのプロパティ

検索可能なフィールドのプロパティを設定するには、プロビジョニングツールを使用するか、変更リストをリポジトリに適用します。

検索可能な参照エンティティフィールドをフィルタ可能なファセットとして有効にすると、Data Director レコードビューに次の形式でフィルタフィールドラベルが表示されます。

<ビジネスエンティティのルックアップフィールドラベル> - <参照エンティティのルックアップフィールドラベル>

フィルタ可能なプロパティを参照エンティティに設定した場合、フィルタが機能するために、すべての依存リファレンスエンティティにフィルタ可能のプロパティを確実に設定します。

次の表に、検索可能なフィールドのプロパティを示します。

プロパティ	説明
検索可能	<p>検索要求により、検索文字列をフィールドで検索できるかどうかを示します。フィールドを検索要求に含めるには、このプロパティを有効にします。フィールドを検索要求に含めない場合は、このプロパティを無効にします。</p> <p>〔検索可能〕プロパティを有効にする場合は、検索用の追加のプロパティを設定できます。</p> <p>設定できる追加のプロパティは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 検索アナライザ - 提案元 - ソート可能 - フィルタ可能 - ファセット範囲 - ファセット - 表示可能
検索アナライザ	<p>フィールドに使用するカスタム検索アナライザを指定します。フィールドに含まれるデータのタイプに基づいて、適切な検索アナライザを決定します。</p>
提案元	<p>Data Director アプリケーションにフィールドの値を検索文字列として提案するかどうかを示します。フィールドの値を検索文字列として提案するには、このプロパティを有効にします。フィールドの値を検索文字列として提案しない場合は、このプロパティを無効にします。</p> <p>重要: データセキュリティを確保するために、機密データを含むフィールドの〔提案元〕プロパティは有効にしないでください。</p>
ソート可能	<p>このプロパティは使用しないでください。</p>
フィルタ可能	<p>フィールドでフィルタを有効にするかどうかを示します。Data Director アプリケーションは、〔検索〕ワークスペースでフィルタ可能なフィールドをフィルタとして表示します。フィールドをフィルタとして設定するには、このプロパティを有効にします。フィールドをフィルタとして設定しない場合は、このプロパティを無効にします。</p>

プロパティ	説明
ファセット範囲	<p>ファセットとして設定する数値または日付フィールドの範囲を示します。範囲は次の形式で指定します。</p> <p><Start Value>,<End Value>,<Frequency></p> <p>範囲に開始値は含まれますが、終了値は含まれません。例えば、整数フィールドのファセット範囲を 1000,2000,500 と設定すると、検索要求は次の範囲を返します。</p> <p>[1000 to 1500] [1500 to 2000]</p> <p>1000 to 1500 の範囲には 1000～1499 の値が含まれ、1500 to 2000 の範囲には 1500～1999 の値が含まれます。</p> <p>範囲の有効な最小値と最大値、および範囲の数を 10 に制限するオフセットが設定されていることを確認します。</p> <p>ファセットは負の数値で設定できませんが、検索要求には引き続き負の値が表示されます。</p> <p>日付フィールドの場合は、頻度に Y M D のサフィックスを追加します。この Y は年、M は月、D は日を示します。例えば、2M は 2 か月を示します。</p>
ファセット	<p>フィールドをファセットとして設定するかどうかを示します。ファセットフィールドは検索結果の値をグループ化し、各グループの数を表示します。</p> <p>Data Director アプリケーションは、ファセットフィールド、検索結果に基づいてグループ化されたフィールド値、および各グループの数を [検索] ワークスペースに表示します。</p> <p>子レコードフィールドがファセットフィールドとして設定されている場合、Data Director アプリケーションはファセットフィールドのツールチップを表示します。ツールチップテキストの形式は<子レコード名>/<子レコードフィールド名>です。</p> <p>[ファセット] プロパティは [フィルタ可能] プロパティと連携して機能するため、フィールドをファセットとして設定する場合は、[フィルタ可能] プロパティを有効にします。フィールドをファセットとして設定しない場合は、[ファセット] プロパティを無効にします。</p> <p>注: データセキュリティフィルタがファセットフィールドに設定されている場合、機密データを保護するために、フィールドのファセットは無効になります。</p>
表示可能	このプロパティは使用しないでください。

検索またはクエリ結果の表示の設定

プロビジョニングツールを使用して、検索に使用するビジネスエンティティビューを設定します。検索結果には、検索結果用に設定するビジネスエンティティビューに属するフィールドのみが含まれます。また、検索フィルタの表示順序を変えることもできます。

検索可能なビューを設定する前に、検索結果に使用するビジネスエンティティビューを作成します。

注: 検索結果にビジネスエンティティの子レコードフィールドを表示するには、ビジネスエンティティから変換したビジネスエンティティビューを使用します。ビューのルートレコードレベルに、子レコードのフィールドが含まれていることを確認します。

1. プロビジョニングツールにログインします。
2. [データベース] リストから、アプリケーションが関連付けられているデータベースを選択します。
3. [設定] > [アプリケーションエディタ] をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。

4. **【アプリケーション】** リストから、検索を設定するアプリケーションを選択します。
アプリケーションがない場合、検索を設定する前に、アプリケーションを作成します。
5. **【ツリービュー】** パネルで **【検索設定】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
6. **【プロパティ】** パネルでビジネスエンティティと、検索またはクエリ結果を表示するのに使用するビジネスエンティティビューを選択します。
ビジネスエンティティビューを選択しないと、検索およびクエリ結果にはすべてのビジネスエンティティフィールドが含まれます。
7. 検索を設定した場合、必要に応じて、フィルタを選択し、検索フィルタの表示順序を設定します。
 - a. **【フィルタ表示順序】** の横の **【編集】** アイコンをクリックします。
【フィルタ表示順序の編集】 ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、ビジネスエンティティモデルでフィルタ可能として設定されているフィールドであるフィルタが含まれます。
 - b. **【使用可能なフィルタ】** セクションから **【選択したフィルタ】** セクションへフィルタをドラッグします。
 - c. 順序を設定するには、フィルタをドラッグして上下に移動します。
 - d. **【OK】** をクリックします。
8. **【適用】** をクリックします。
検索設定は、一時的なワークスペースに保存されます。
9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

類似レコードを表示するレイアウトの設定（オプション）

Data Director アプリケーションにデータを入力してレコードを作成する場合、入力したデータに基づいて取得された類似レコードを表示できます。類似レコードを表示するには、類似レコードの検索の基準となるフィールドを定義するようにレイアウトを設定する必要があります。

1. プロビジョニングツールにログインします。
2. **【データベース】** リストから、アプリケーションを設定するデータベースを選択します。
3. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
4. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【類似するレコード】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
5. **【プロパティ】** パネルに、類似するレコードのコンポーネントの名前を入力します。
6. **【XML】** フィールドに、類似するレコードを検索するフィールドのリストが含まれる XML 設定を入力します。

次の表で、類似するレコードコンポーネントの設定に使用できる XML 要素について説明します。

要素	説明
searchableFields	検索の基準となるフィールドを 1 つ以上指定します。searchableFields 要素は、field name 要素の一部です。
field name	類似するレコードの検索の基準となるフィールドの名前を指定します。field name 要素は searchableFields 要素の子です。複数の field name 要素を設定できます。
searchType	実行する検索のタイプを指定します。 searchType 要素には、次の子要素を含めることができます。 - smartSearch - searchMatch
smartSearch	検索を使用して類似するレコードを検索することを指定します。
searchMatch	クエリを使用して類似するレコードを検索することを指定します。 searchMatch 要素には、次の子要素を含めることができます。 - fuzzy - matchRuleSet
fuzzy	あいまい検索を実行するかどうかを指定します。あいまい検索を実行するには、true に設定します。 fuzzy 要素は searchMatch 要素の子です。この要素を追加しないと、完全一致検索が実行されます。
matchRuleSet	類似するレコードの検索に使用する一致ルールセットの名前を指定します。 matchRuleSet 要素は searchMatch 要素の子です。
label	検索フィールドの値のラベル形式を指定します。ラベル形式を設定するには、existsFormat 属性を使用します。
column	ラベル形式で使用する単一のカラムを指定します。ラベルのカラムを設定するには、columnUid 属性を使用します。これは、カラムの一意の ID です。column 要素は label 要素の子です。ラベルには、複数のカラムを指定できます。

構成サンプルについては、*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*を参照してください。

7. **【適用】** をクリックします。

作成した類似するレコードのコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。

8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

第 11 章

タスクの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [タスクの設定の概要, 96 ページ](#)
- [タスクテンプレートの設定, 97 ページ](#)
- [ワークフロートリガの設定, 99 ページ](#)
- [タスクタイプの設定, 101 ページ](#)
- [タスク管理者ロール, 106 ページ](#)
- [わかりやすいタスクタイトル, 108 ページ](#)
- [デフォルトのタスク設定, 109 ページ](#)
- [タスク承認者の変更, 110 ページ](#)

タスクの設定の概要

レコードと階層への変更が承認ワークフローを通過するようにタスクを設定できます。ビジネス要件に合わせて、タスクテンプレート、ワークフロートリガ、タスクタイプを設定できます。例えば、データスチュワードによる変更でワークフローをトリガしたり、新しいレコードや編集済みレコードを確認するタスクを作成したりできます。また、タスクのデフォルトのタイトルまたは優先度を指定することもできます。

以下のタスク設定を実行できます。

タスクテンプレート

特定のプロパティを使用してタスクが作成されるように、タスクテンプレートを設定できます。例えば、トリガがワークフローを起動したときに、タスクに特定のタイトル、優先度、期限、およびタスクステータスが設定されるように指定できます。

ワークフロートリガ

Data Director の特定のイベント後に適切な ActiveVOS^(R)ワークフローが起動されるように、ワークフロートリガを設定します。ワークフローがトリガされるときに、ユーザーによるコメントまたは添付ファイルの追加を必須とするかどうかを設定できます。

タスクタイプ

特定のユーザーロールがタスクを引き受けることができる、つまりタスクの割り当て対象となるように、タスクタイプを設定できます。タスクタイプごとに、タスクアクション設定を作成できます。タスクアクションを実行する際に、コメントの追加、ファイルの添付、またはタスクの再割り当てを行う必要があるかどうかを設定できます。

タスク管理者ロール

タスク管理者ロールを設定し、すべてのタスクを管理する特権のある MDM Hub ロールをタスク管理者ロールにマッピングできます。例えば、デフォルトの ActiveVOS ワークフローを使用する場合は、abAdmin MDM Hub ロールをタスク管理者ロールにマッピングします。

タスクテンプレートの設定

タスクテンプレートを設定するには、タスクのタイトル、期限、優先度などのデフォルトのタスクプロパティを設定します。ActiveVOS がタスクを作成すると、指定したプロパティでタスクが作成されます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【テンプレート】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルでテンプレートのプロパティを入力します。
 - a. **【名前】** フィールドにテンプレート名を入力します。
 - b. **【タイトル】** フィールドにタスクタイトルのタイトル形式を入力します。

タイトル例 1

タスクのタイトルを「<business entity name>: <source record display name><source record row ID> merges to <target record display name><target record row ID>」にします。

タイトルに次の値を入力します: Merge {taskRecord[1].label} into {taskRecord[0].label}。

ここで、

- taskRecord[N]は、TaskData.getTaskRecords()リスト内の (N+1) 番目のビジネスエンティティノードです。
- taskRecord[1]はソースレコードです。
- taskRecord[0]はターゲットレコードです。
- label は、ビジネスエンティティラベル形式設定のタスク形式の値です。

タイトル例 2

タスクのタイトルを「Review changes in <record label>」にします。

タイトルに次の値を入力します: Review changes in {taskRecord[0].label}。

ここで、

- taskRecord[0]はターゲットレコードです。
- label は、ビジネスエンティティラベル形式設定のタスク形式の値です。

- c. タスクのプロパティを選択します。

次の表に、可能なタスクの優先度を示します。

優先度	説明
HIGH	タスクに高い優先度があります。
NORMAL	タスクに中程度の優先度があります。デフォルトは NORMAL です。
LOW	タスクに低い優先度があります。

- d. **【期限】** フィールドに、タスクが作成された日付からタスクが期限を迎える日付までの日数を入力します。

次の表は、期限の構文を示しています。

パラメータ のタイプ	説明	値
sign	タスクの作成前と作成後のどちらの日付に期限が設定されるかを決定します。	+の場合は、タスクがトリガされる日付に時間が追加されて、期限が決まります。 -の場合は、タスクがトリガされる日付から時間が減算されて、期限が決まります。
number	期限を設定するときに、現在の日付を増やすまたは減らす際の単位数。	整数値。
unit	タスクがトリガされた日付から期限までの日数、週数、または月数。	d の場合は、指定された日数で期限が決まります。 w の場合は、指定された週数で期限が決まります。 m の場合は、指定された月数で期限が決まります。

- e. 必要に応じて、**【コメント】** フィールドに、タスクのコメントフィールドに表示するテキストを入力します。
- f. 必要に応じて、**【ステータス】** フィールドで、タスクのステータスを選択します。

次の表に、可能なタスクのステータスを示します。

ステータス	説明
OPEN	タスクのステータスは「オープン」です。デフォルトは OPEN です。

4. **【適用】** をクリックします。

ワークフロートリガの設定

イベントの作成、更新、またはマージ後に起動されるタスクワークフローは、ワークフロートリガによって決定されます。

注: ロールがマージ解除タスクをトリガするように設定する場合、レビューアと同じユーザーロールを割り当てないでください。

ワークフロートリガを設定するには、以下の手順を実行します。

1. ワークフロートリガを作成し、トリガされたタスクへのコメントまたは添付ファイルの追加を必須とすることがを設定します。
2. ワークフロートリガにイベントを設定します。
3. ワークフローをトリガするロールおよびビジネスエンティティを設定します。

手順 1.ワークフロートリガの作成

ワークフローを起動するトリガを作成するには、トリガの名前、開始するワークフロー、およびトリガのプロパティを指定します。ビジネスエンティティで Data Director を使用する場合、ユーザーにコメントの入力または添付ファイルの指定を求めるかどうかも指定できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【トリガ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. プロパティパネルでトリガ名を入力します。
リポジットリマネージャは、トリガ検証エラーの報告時にこの名前を参照します。
4. **【ワークフローの開始】** を有効にすると、イベントトリガにより、ワークフローが起動します。**【ワークフローの開始】** を選択しない場合は、最初のレビュープロセスを省略して、直接データが変更されます。
5. 次のパラメータを設定します。

パラメータ	説明
テンプレート	タスクの作成時に使用するタスクテンプレートの名前。
タスクタイプ	ワークフロー内の最初のユーザーアクティビティ。

パラメータ	説明														
タスクの種類	マージ、マージ解除、階層、または確認を指定できます。														
プロセス	<p>ActiveVOS サービスの名前。ActiveVOS PDD ファイルの [パートナーリンクサービス] プロパティに対応します。</p> <p>次の表に、デフォルトのビジネスエンティティワークフローのサービス名を示します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビジネスエンティティワークフロー</th><th>サービス</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BeMergeWorkflow</td><td>BeMergeTask</td></tr> <tr> <td>BeUnmerge</td><td>BeUnmergeTask</td></tr> <tr> <td>BeOneStepApproval</td><td>BeOneStepApprovalTask</td></tr> <tr> <td>BeTwoStepApproval</td><td>BeTwoStepApprovalTask</td></tr> <tr> <td>BeUpdateWithApproval</td><td>BeUpdateWithApprovalTask</td></tr> <tr> <td>HierarchyOneStepApproval</td><td>HierarchyOneStepApprovalTask</td></tr> </tbody> </table>	ビジネスエンティティワークフロー	サービス	BeMergeWorkflow	BeMergeTask	BeUnmerge	BeUnmergeTask	BeOneStepApproval	BeOneStepApprovalTask	BeTwoStepApproval	BeTwoStepApprovalTask	BeUpdateWithApproval	BeUpdateWithApprovalTask	HierarchyOneStepApproval	HierarchyOneStepApprovalTask
ビジネスエンティティワークフロー	サービス														
BeMergeWorkflow	BeMergeTask														
BeUnmerge	BeUnmergeTask														
BeOneStepApproval	BeOneStepApprovalTask														
BeTwoStepApproval	BeTwoStepApprovalTask														
BeUpdateWithApproval	BeUpdateWithApprovalTask														
HierarchyOneStepApproval	HierarchyOneStepApprovalTask														

6. ユーザーによるファイル添付を必須にするのか、ユーザーに促すのかを制御するには、**【添付】** フィールドから以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
無効 - ユーザーに促さない（デフォルト）	ユーザーにファイル添付を促しません。添付ファイルは無効になります。
オプション - ユーザーに促す	ユーザーに添付ファイルを促しますが、添付するかどうかを選択できます。
必須 - ユーザーに促す	ユーザーに添付ファイルを促し、添付は必須です。

注: サブジェクト領域で Data Director を使用すると、ユーザーは添付ファイルを求められません。

7. ユーザーによるコメント追加を必須にするのか、ユーザーに促すのかを制御するには、**【コメント】** フィールドから以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
オプション - ユーザーに促さない（デフォルト）	ユーザーにコメント入力を促しません。コメントを追加するには、ユーザーは 【タスクの詳細】 ダイアログボックスを開きます。
オプション - ユーザーに促す	ユーザーにコメント入力を促しますが、入力するかどうかを選択できます。
必須 - ユーザーに促す	ユーザーにコメント入力を促し、入力は必須です。

注: サブジェクト領域で Data Director を使用すると、ユーザーはコメント入力を求められません。

8. **【適用】** をクリックします。

手順 2.ワークフロートリガのイベントの設定

Data Director のイベントとワークフロートリガを関連付けます。1 つのトリガに複数のイベントを設定できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【トリガ】** を選択します。
2. トリガを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【イベント】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルの **【イベント】** リストから、次のいずれかのイベントを選択します。

イベント名	説明
CreateBE	ユーザーがレコードを作成すると発生します。
UpdateBE	ユーザーがレコードを更新すると発生します。
MatchedBE	MDM Hub が 2 つのレコードを一致として特定すると発生します。
MergeBE	ユーザーがレコードをマージすると発生します。
UnMergeBE	ユーザーがレコードをマージ解除すると発生します。
ModifyHierarchy	ユーザーが階層を変更すると発生します。

5. **【適用】** をクリックします。
6. 他のイベントについて、手順 [3](#) から [5](#) を繰り返します。

手順 3.ワークフロートリガのロールの設定

イベントに適用されるトリガは、トリガするアクションを実行するユーザーのロールによって異なります。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【トリガ】** を選択します。
2. トリガを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで、**【ロール】** リストから MDM Hub ロールを選択します。
5. **【適用】** をクリックします。
6. 必要に応じて、追加のロールを設定します。

タスクタイプの設定

タスクタイプを作成して、タスクを引き受けることができる、つまりタスクの割り当て対象となるユーザーロールを設定できます。タスクタイプごとに、タスクアクション設定を作成できます。タスクアクション設定では、タスクアクションを実行する際に、コメントの追加、ファイルの添付、またはタスクの再割り当てを行う

必要があるかどうかを制御します。また、タスクアクションがトリガされたときに表示される、タスクアクションのカスタムメッセージを設定することもできます。

タスクのタイプを設定するには、以下のアクションを実行します。

1. タスクのタイプを作成し、タスクの詳細の編集時、ユーザーがファイルを添付可能かどうかを設定します。
2. タスクを引き受けることができる、つまりタスクの割り当て対象となるユーザーロールを設定します。
3. タスクアクション設定を作成して、タスクアクションのコメント、添付ファイル、再割り当て設定、およびカスタムメッセージを構成します。

手順 1.タスクの作成タイプ

タスクのタイプを作成し、タスクの詳細の編集時、ユーザーが添付ファイルを追加可能かどうかを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【タスクタイプ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで、**【名前】** フィールドに ActiveVOS タスクの名前を入力します。

この名前は、.bpel ワークフローファイル内のユーザーアクティビティの前にあるセットアップスクリプトの、mdmavxsd:taskType 式で定義された mdmavxsd:name 値と同じである必要があります。
次の表に、デフォルトのビジネスエンティティワークフローのタスク名を示します。

タスク名 (mdmavxsd:name)	ユーザーアクティビティの説明	関連付けられたワークフロー
AVOSBeMerge	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージするか、アクションをキャンセルします。	マージ
AVOSBeUnMerge	データスチュワードは候補を確認し、レコードをマージ解除するか、アクションをキャンセルします。	マージ解除
AVOSBeNotification	承認された場合、レコードには昇格のフラグが立ち、データスチュワードは通知を受け取ります。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認
AVOSBeReviewNoApprove	マネージャは更新を確認し、それを却下するか、最終確認のために送信します。	承認を伴う更新 ツーステップ承認
AVOSBeFinalReview	シニアマネージャは更新を確認し、それを却下または承認します。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認
AVOSBeUpdate	データスチュワードは更新を確認し、更新をキャンセルするか、二段階承認をとおして送信します。	承認を伴う更新 ワンステップ承認 ツーステップ承認
HierarchyFinalReview	シニアマネージャは更新を確認し、それを却下または承認します。	階層ワンステップ承認

4. 必要に応じて、**【ラベル】** フィールドにタスクのタイプのラベルを入力します。
5. タスクの詳細を編集するときに添付ファイルをサポートするには、**【タスクの詳細でファイル添付を有効にする】** チェックボックスをオンにします。

6. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルに **【ロール】** と **【タスクアクション設定】** フォルダが表示されます。
7. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

手順 2.タスクタイプのロールの設定

タスクのレビューが許可されるユーザーロールとロールがレビュー可能なビジネスエンティティレコードのタイプを設定できます。

ユーザーがタスクを処理するには、ユーザーロールに適切な MDM Hub の特権が必要です。ロールへの特権の付与の詳細については、『*Multidomain MDM のセキュリティガイド*』を参照してください。

注: ロールがマージ解除タスクをトリガするように設定する場合、レビューアと同じユーザーロールを割り当てないでください。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【タスクタイプ】** を選択します。
2. タスクタイプを選択します。
3. タスクを要求または割り当て可能なロールを選択します。
 - a. [ツリービュー] パネルで **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. [プロパティ] パネルで、**【ロール】** リストから MDM Hub ユーザーロールを選択します。
 - c. **【適用】** をクリックします。
[ツリービュー] パネルにロールが表示されます。
 - d. 必要に応じて、追加のロールを作成します。
4. ロールがアクセス可能なビジネスエンティティレコードのタイプを設定します。
 - a. [ツリービュー] パネルでロールを選択します。
 - b. **【ビジネスエンティティ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - c. [プロパティ] パネルで、**【ビジネスエンティティ】** リストからビジネスエンティティを選択します。
 - d. **【適用】** をクリックします。
ロールフォルダにビジネスエンティティが表示されます。
 - e. 必要に応じて、ロールに追加のビジネスエンティティを設定します。
5. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

手順 3.タスクタイプのタスクアクション設定の作成

タスクアクションを実行する際に、コメントの追加、ファイルの添付、またはタスクの再割り当てを行う必要があるかどうかを設定できます。各設定に異なるコメント、添付ファイル、および再割り当て設定を指定して、複数のタスクアクション設定を作成できます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【タスクタイプ】** を選択します。
2. タスクタイプを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【タスクアクション設定】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
4. タスクアクション設定に名前を指定し、ユーザーにコメントまたは添付ファイルの入力を促すかどうかを設定します。
 - a. **【プロパティ】** パネルで、**【名前】** フィールドにタスクアクション設定の名前を入力します。
例えば、引き受け解除アクションのタスクアクション設定を設計する場合、「Disclaim」と入力します。
 - b. ユーザーによるファイル添付を必須にするのか、ユーザーに促すのかを制御するには、**【添付】** フィールドから以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
無効 - ユーザーに促さない（デフォルト）	ユーザーにファイル添付を促しません。添付ファイルは無効になります。
オプション - ユーザーに促す	ユーザーに添付ファイルを促しますが、添付するかどうかを選択できます。
必須 - ユーザーに促す	ユーザーに添付ファイルを促し、添付は必須です。

- c. ユーザーによるコメント追加を必須にするのか、ユーザーに促すのかを制御するには、**【コメント】** フィールドから以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
オプション - ユーザーに促さない（デフォルト）	ユーザーにコメント入力を促しません。コメントを追加するには、ユーザーは 【タスクの詳細】 ダイアログボックスを開きます。
オプション - ユーザーに促す	ユーザーにコメント入力を促しますが、入力するかどうかを選択できます。
必須 - ユーザーに促す	ユーザーにコメント入力を促し、入力は必須です。

- d. **【適用】** をクリックします。
タスクアクション設定のサブフォルダが **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
5. 必要に応じて、タスクアクションを設定します。

注: タスクアクションを設定しないと、タスクアクション設定がすべてのタスクアクションに適用されます。

 - a. **【ツリービュー】** パネルで、タスクアクション設定のサブフォルダを選択します。
【ビジネスエンティティ】、**【ロール】**、および **【タスクアクション】** ノードが表示されます。

- b. **【タスクアクション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
- c. **【プロパティ】** パネルで、**【タスクアクション】** フィールドにタスクアクションの名前を入力します。この名前は ActiveVOS ワークフローで定義したタスクアクション名と一致する必要があります。例えば、引き受け解除アクションをタスクアクション設定に関連付ける場合、「Disclaim」と入力します。

以下の表では、デフォルトのタスクタイプのタスクアクションについて説明します。

タスクアクション	説明	タスクタイプ
承認	ユーザーは、提案された変更に同意します。	AVOSBeFinalReview
キャンセル	ユーザーは、提案された変更に同意しません。	AVOSBeMerge AVOSBeUpdate AVOSBeUnMerge
引き受け解除	ユーザーは、このタスクで作業できなくなります。	AVOSBeFinalReview AVOSBeMerge AVOSBeReviewNoApprove AVOSBeUpdate AVOSBeUnMerge
エスカレーション	ユーザーは、提案された変更に同意し、承認のためにそれらを送信します。	AVOSBeReviewNoApprove
マージ	ユーザーは、マージのプレビューに同意します。	AVOSBeMerge
拒否	ユーザーは、提案された変更に同意しません。	AVOSBeFinalReview AVOSBeReviewNoApprove
承認を得るための送信	ユーザーは、提案された変更に同意し、承認のためにそれらを送信します。	AVOSBeUpdate
マージ解除	ユーザーは、マージ解除のプレビューに同意します。	AVOSBeUnMerge

- d. 必要に応じて、**【アクションメッセージ】** フィールドに、タスクアクションがトリガされたときに表示されるメッセージを入力します。
- メッセージを入力しない場合、タスクアクションがトリガされたときに、タスクアクションに関連付けられたデフォルトメッセージが表示されます。
- デフォルトメッセージの形式は以下のとおりです。
- このタスクを<タスクアクション名>しようとしています。
- 例: このタスクをキャンセルしようとしています。
- e. **【適用】** をクリックします。
- タスクアクションのノードが表示されます。
- f. 必要に応じて、追加のタスクアクションを設定します。

6. 必要に応じて、ビジネスエンティティを選択し、タスクアクションと関連付けます。

注: ビジネスエンティティを選択しないと、タスクアクション設定がすべてのタイプのビジネスエンティティレコードに適用されます。

- a. [ツリービュー] パネルで **【ビジネスエンティティ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
- b. [プロパティ] パネルで、**【ビジネスエンティティ】** リストからビジネスエンティティのタイプを選択します。
- c. 必要に応じて、追加のビジネスエンティティのタイプを選択します。
- d. **【適用】** をクリックします。

ビジネスエンティティのノードが表示されます。

7. 必要に応じて、ユーザーロールを選択し、タスクアクションと関連付けます。

注: ロールを選択しないと、タスクアクション設定がすべてのロールに適用されます。

- a. [ツリービュー] パネルで **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
- b. [プロパティ] パネルで、**【ロール】** リストからロールを選択します。
- c. **【適用】** をクリックします。

ロールのノードが表示されます。

- d. 必要に応じて、追加のロールを作成します。

8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

タスク管理者ロール

Data Director ユーザーは、タスクの割り当て、解放、編集などのタスク管理アクションを実行することにより、複数のタスクを管理できます。すべてのユーザーは自分のユーザーロールで使用可能なタスクを管理できますが、タスク管理者ロールを割り当てられたユーザーはすべてのタスクを管理できます。例えば、ユーザーは割り当てられた自分のタスクを解放でき、タスク管理者は割り当てられたすべてのタスクを解放できます。

タスク管理者は、タスクで作業したり、タスクの詳細を表示したりすることはできません。ユーザーに複数のロールを割り当てると、そのユーザーはタスクの管理、タスクで作業、タスクの詳細の表示を行うことができます。例えば、データスチュワード、abAdmin、および abadmin の MDM Hub ロールをユーザーに割り当てることができます。ユーザーは、データスチュワードで使用可能なタスクでの作業やタスクの管理ができ、タスク管理者としてすべてのタスクを管理できます。MDM Hub ロールの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

タスク管理者ロールを使用するには、ロールを有効にし、タスク管理者ロールにマッピングする MDM Hub ロールを指定します。

次の表に、ユーザーロールで利用できるタスク管理アクションを示します。

ユーザーロール	タスク管理アクション
タスク管理者	ユーザーは、すべてのタスクに対して次のタスク管理アクションを実行できます。 <ul style="list-style-type: none">- 割り当て- 解放- 編集
その他のユーザーロール	ユーザーは、自分のユーザーロールで利用可能なタスクに対して、次のタスク管理アクションを実行できます。 <ul style="list-style-type: none">- クレーム ユーザーは、タスクが割り当てられているかどうかに基づいて、タスクに対して次のタスク管理アクションを実行できます。 <ul style="list-style-type: none">- 解放- 編集- 承認、却下、否認などのタスクアクション 注: 使用可能なタスクアクションは、選択したタスクと ActiveVOS ワークフローによって異なります。

タスク管理者ロールの設定

プロビジョニングツールを使用して、タスク管理者ロールを設定し、タスク管理者ロールにマッピングする MDM Hub ロールを指定できます。

開始する前に、デフォルトの ActiveVOS ワークフローを使用している場合は、MDM Hub で abAdmin と abadminMDM Hub ロールを作成する必要があります。

重要: ユーザーがすべてのワークフローのすべてのタスクでタスク管理アクションを実行できるようにするには、ユーザーに abAdmin および abadmin の両方の MDM Hub ロールを割り当てる必要があります。

1. プロビジョニングツールにログインします。
2. **【データベース】** リストから、設定を関連付けるデータベースを選択します。
3. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックします。
4. **【タスク】** パネルで **【タスク管理者ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
5. **【プロパティ】** パネルで、**【名前】** フィールドに「TaskAdministrator」と入力します。
6. **【タスク管理者ロールの有効化】** チェックボックスを選択します。
7. **【MDM Hub ロール】** リストから、タスク管理者ロールにマッピングする MDM Hub ロールを選択します。
デフォルトの ActiveVOS ワークフローを使用している場合は、**【abAdmin】** を選択します。カスタム ActiveVOS ワークフローを使用している場合は、ActiveVOS でビジネス管理に使用する MDM Hub ロールを選択します。
8. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。
9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。

- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

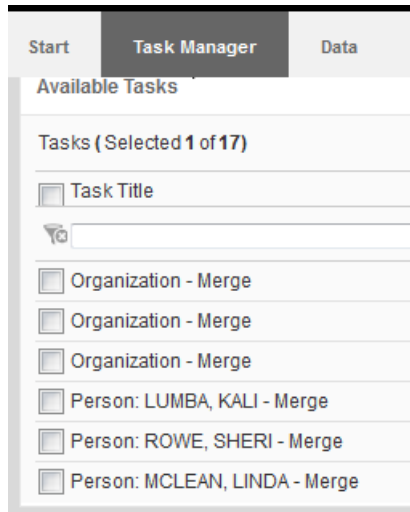
タスク管理者ロールを設定しました。マッピングされた MDM Hub ロールを割り当てられたユーザーは、Data Director のすべてのタスクに対してタスク管理アクションを実行できます。

わかりやすいタスクタイトル

「モデリング」 ページで、各ビジネスエンティティに対してわかりやすいタスクタイトルを設定できます。

例えば、ビジネスエンティティタイプ、ビジネスエンティティレコードの表示名、およびタスクタイプを表示するタスクタイトルを設定できます。タスクにわかりやすいタスクタイトルが付いていれば、データスチュワードやビジネスマネージャは、タスクを区別しやすくなります。

次の図には、Organization ビジネスエンティティの一般的なタスクタイトルと、Person ビジネスエンティティのわかりやすいタスクタイトルが示されています。



わかりやすいタスクタイトルの設定

わかりやすいタスクタイトルを設定するには、[タスク形式] ビジネスエンティティ属性を編集します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
例えば、**【Person】** をクリックします。
3. 「ツリービュー」 パネルで、**【labelFormat】** を展開して、**【LabelFormatType】** をクリックします。
4. 「プロパティ」 パネルで、**【タスク形式】** フィールドに、わかりやすいタスクタイトルを入力します。
例えば、「{label}: {lastName}, {firstName}」と入力します。
5. **【適用】** をクリックします。
変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

デフォルトのタスク設定

プロビジョニングツールでタスク設定を作成しない場合は、デフォルトのタスク設定が生成されます。デフォルトのタスク設定は、ビジネスの要件に応じて変更できます。

デフォルトでは、次のタスク設定が生成されます。

タスクタイプの設定

以下の表では、各タスクのタイプを処理するために割り当てられるデフォルトのコメントと添付ファイル設定およびロールについて説明します。

タスクタイプ	ロール	コメント	添付
AVOSBeUnMerge	DataSteward	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない
AVOSBeMerge	DataSteward	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない
AVOSBeFinalReview	SrManager	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない
AVOSBeNotification	DataSteward	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない
AVOSBeUpdate	DataSteward	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない
AVOSBeReviewNoApprove	Manager	オプション - ユーザーに促さない	無効 - ユーザーに促さない

トリガ設定

以下の表は、デフォルトのトリガを示しています。

トリガ	イベント	ロール	その他の情報
デフォルトの承認	CreateBE および UpdateBE	すべてのロール	-
デフォルトのマージ	MergeBE	すべてのロール	-

トリガ	イベント	ロール	その他の情報
デフォルトのマージ解除	UnMergeBE	すべてのロール	-
一致	UnMergeBE	システム	ワークフロープロセスの開始: BeMergeTask タスクの種類: MERGE タスクテンプレート: MergeTaskGenerator 最初のタスクタイプ: AVOSBeMerge

タスクテンプレートの設定

以下の表は、デフォルトのタスクテンプレートの設定を示しています。

タスクタイプ	タイトル	優先度	期限	コメント	ステータス
DefaultApproval	{taskRecord[0].label}の変更の確認	ノーマル	7D	-	オープン
MergeTaskGenerator	{taskRecord[0].label} - マージ	ノーマル	7D	Hub で自動生成されたマージタスク。	オープン

タスク承認者の変更

タスク承認者のロールを変更する場合、その変更は新しいタスクのみに適用されます。既存のタスクを処理するには、以前の承認者のデフォルトトリガを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【タスク】** をクリックし、**【トリガ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで、**【名前】** フィールドに「DefaultApproval」と入力して、**【適用】** をクリックします。
4. イベントを作成します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで **【イベント】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、イベントを **【イベント】** リストから選択して、**【適用】** をクリックします。
5. 以前のロールを DefaultApproval トリガに関連付けます。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで **【ロール】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、ロールを **【ロール】** リストから選択して、**【適用】** をクリックします。

6. 必要に応じて、トリガを適用するビジネスエンティティを指定します。
 - a. [ツリービュー] パネルで、[ルール] ノードを展開します。
 - b. 以前のロールのノードを展開します。
 - c. [ビジネスエンティティ] を選択し、[作成] をクリックします。
 - d. [プロパティ] パネルで、トリガを適用するビジネスエンティティを [ビジネスエンティティ] フィールドから選択します。
 - e. トリガを適用するビジネスエンティティが他にある場合は、そのビジネスエンティティで手順 [4](#) から [5](#) を繰り返します。
7. [適用] をクリックします。

変更は保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。
8. [パブリッシュ] をクリックします。

第 12 章

ビジネスエンティティのセキュリティとデータフィルタの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [ビジネスエンティティのセキュリティとデータフィルタの概要, 112 ページ](#)
- [エンティティレベルのセキュリティ, 113 ページ](#)
- [フィールドレベルのデータフィルタ, 117 ページ](#)
- [ノードレベルのデータフィルタ, 120 ページ](#)
- [セキュリティと Data Director のユーザーインタフェース, 124 ページ](#)

ビジネスエンティティのセキュリティとデータフィルタの概要

ビジネスエンティティレコードへのアクセスを制御するには、MDM Hub ユーザーロールを実装します。

以下のレベルでレコードへのアクセスを制御できます。

- エンティティレベルのセキュリティ。ユーザーがビジネスエンティティのレコードのレコードにアクセス可能かどうかを制御します。
- フィールドレベルのデータフィルタ。レコードのフィールドに表示される値に基づいて、ユーザーがレコードにアクセス可能かどうかを制御します。
- ノードレベルのデータフィルタ。ノードに子レコードがない場合にユーザーが親レコードにアクセス可能かどうかを制御します。

ヒント: エンティティレベルでロール特権を付与した後に、このアクセスを絞り込むためにフィールドフィルタとノードフィルタを使用します。

ビジネスエンティティビューには、ビジネスエンティティのノードとフィールドのサブセットが含まれます。ビューには、ビジネスエンティティからのデータフィルタが継承されます。一部のフィールドをユーザーに対して非表示にするには、ビジネスエンティティビューの実装を検討します。詳細については、「ビジネスエンティティとビューの変換」の章を参照してください。

Data Director のユーザーインタフェースはユーザーロール特権に従って変化します。例えば、ユーザーロールが Person ビジネスエンティティに基づいてレコードを作成できない場合、レコードの作成時にユーザーはこのビジネスエンティティのタイプを選択できません。

GDPR の例

欧州連合およびその他の国に顧客がいるとします。EU のデータスチュワードのみが欧州連合の市民のレコードにアクセスするように、一般データ保護規則（GDPR）を実装する必要があります。欧州連合の市民以外のレコードにアクセスするその他のデータスチュワードがいます。この例では、カスタマデータに GDPR フィールドが含まれます。

次の表に、GDPR フィールドの値に基づくロールアクセスの要件をまとめます。

データの GDPR 値	DataSteward-EU ロール	DataSteward-NonEU ロール
GDPR="true"	アクセスを許可	アクセスを拒否
GDPR="false"	アクセスを拒否	アクセスを許可

以下の手順に、GDPR の例を実装する方法の概要を示します。

1. Hub コンソールで、ユーザーロール DataSteward-EU と DataSteward-NonEU を作成します。
2. カスタマベースオブジェクトテーブル、子テーブル、ルックアップテーブル、およびクレンジング関数のそれぞれのロールにすべての権限を付与します。
3. プロビジョニングツールで、カスタマビジネスエンティティを開きます。
4. GDPR フィールドにフィールドフィルタを作成します。
5. 拒否ルールを作成し、その値を true に設定して、ロールを DataSteward-NonEU にします。
このルールは、「GDPR が選択されたら、EU 以外のデータスチュワードのレコードアクセスを許可しない」と解釈されます。
6. その他の値のルールでは、ロールを DataSteward-EU に設定します。
このルールは、「GDPR が選択されなかったら、EU のデータスチュワードのレコードアクセスを許可しない」と解釈されます。
7. 変更内容をパブリッシュします。

エンティティレベルのセキュリティ

ビジネスエンティティに基づくすべてのベースオブジェクトテーブルおよびその他のリソースへのユーザーアクセスを許可または拒否できます。例えば、データスチュワードユーザーロールにすべての権限を割り当て、マネージャユーザーロールには読み取りおよび更新権限のみを割り当てます。

特権をユーザーロールに割り当てるには、Hub コンソールでセキュリティアクセスマネージャを使用します。

ビジネスエンティティレコードへのアクセスの管理

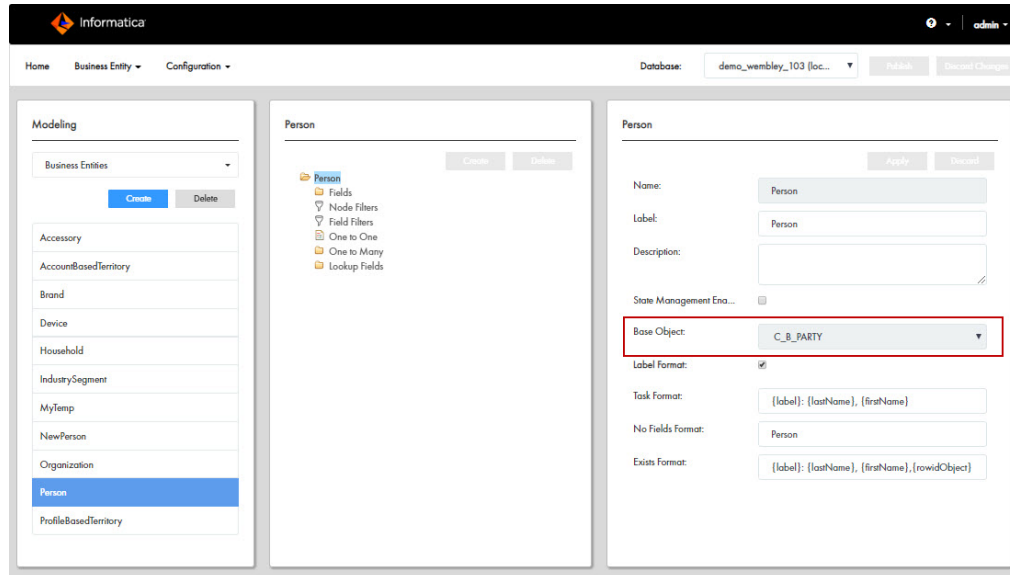
ユーザーロールが、ビジネスエンティティのルートベースオブジェクトおよび関連リソースに対する権限を持っていることを確認します。プロビジョニングツールで、ルートベースオブジェクトおよびルックアップテーブルなどその他のリソースを検索します。Hub コンソールで、ルートベースオブジェクトとリソースに対するユーザーロールの権限を確認します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。

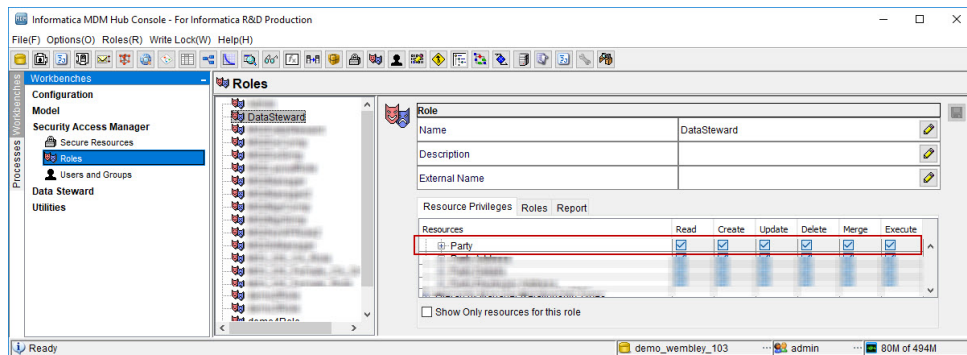
ビジネスエンティティが開きます。[ツリービュー] パネルでは、ツリーのルートが選択されています。

3. [プロパティ] パネルの【ベースオブジェクト】フィールドに表示されるテーブル名を書き留めます。

次の図は、C_B_PARTY テーブルに基づく Person ビジネスエンティティです。



4. Hub コンソールにログインします。
 5. 書き込みロックを取得します。
 6. **【セキュリティアクセスマネージャ】** ワークベンチで、**【ロール】** をクリックします。
 7. ビジネスエンティティへのアクセスが必要なユーザーロールそれぞれについて、ベースオブジェクトおよびその他のリソースに対する適切な権限を設定します。権限の概要については、[「ビジネスエンティティのロール特権」 \(ページ 115\)](#)を参照してください。
 - a. ビジネスエンティティへのアクセスが必要なロールを選択します。
例えば、Data Steward を選択します。
 - b. **【リソース特権】** タブで、プロビジョニングツールで書き留めた名前が付いたベースオブジェクトを検索します。
例えば、Party を検索します。
 - c. ビジネスエンティティの権限を設定するには、このベースオブジェクトに対応する権限を選択します。
例えば、Data Steward ロールにフルアクセスを付与する場合、Party ベースオブジェクトのすべての権限を選択するとします。
- 次の図は、Data Steward ロールが選択され、Party ベースオブジェクトが強調表示された Hub コンソールです。



d. 子レコード、ルックアップテーブル、クレンジング関数などの関連リソースに権限を設定します。

8. **【保存】** をクリックします。

ビジネスエンティティのロール特権

ビジネスエンティティにアクセスするには、ユーザーロールがベースオブジェクトおよびその他のリソースに対する正しいリソース特権を持っている必要があります。

例えば、Person ビジネスエンティティのレコードを作成するには、ユーザーロールはルートベースオブジェクトに対する作成特権と読み取り特権、ルックアップベースオブジェクトに対する読み取り特権、およびクレンジング関数に対する実行特権を持っている必要があります。

次の表に、ORS リソースがレコードを作成するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ルートベースオブジェクト	作成および読み取り
ルックアップベースオブジェクト	読み取り
トランスフォーメーションに使用するクレンジング関数	実行

次の表に、ORS リソースがレコードを読み取るために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ルートベースオブジェクト	読み取り
ルックアップベースオブジェクト	読み取り

次の表に、ORS リソースがレコードを更新するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ルートベースオブジェクト	読み取りおよび更新
ルックアップベースオブジェクト	読み取り
子 (多)	作成、更新、または削除

ORS リソース	リソース特権
子 (1)	更新
トランスフォーメーションに使用するクレンジング関数	実行

次の表に、ORS リソースがレコードを削除するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ルートベースオブジェクト	削除
XREF オブジェクト	削除

次の表に、ORS がレコードを検索するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
1 つ以上の検索可能なフィールド	読み取り

次の表に、ビジネスエンティティに対して実行できるマージおよびマージ解除アクション、および ORS リソースに対して必要な最小限の特権を示します。

ビジネスエンティティのアクション	ORS リソース	リソース特権
レコードのマージ	1 つ以上のノード	更新およびマージ
マージタスクの開始	1 つ以上のノード	読み取りおよび更新
レコードのマージ解除	1 つ以上のノード	マージ
マージ解除タスクの開始	ルートベースオブジェクト	読み取り
マージ解除タスクの開始	1 つ以上のノード	読み取り

注: ワークフローを省略して、ロールによるアクションの実行を許可する場合は、そのロールに一致ワークフロートリガを設定する必要があります。

ビジネスエンティティビューのロール特権

ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティのノードのサブセットです。ビジネスエンティティビューを作成するには、ビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへのトランスフォーメーションを作成します。ビジネスエンティティビューは、ビジネスエンティティからロール特権を継承します。

次の表に、ビジネスエンティティビューに対して実行できるアクション、およびビジネスエンティティのノードに必要な最小限の特権を示します。

ビジネスエンティティビューのアクション	ビジネスエンティティのノードの特権
レコードの作成	ビューに表示されるすべてのノードに作成特権が必要です。
レコードの読み取り	ビューに表示される 1 つ以上のノードに読み取り特権があると、ビュー全体を読み取りできます。
レコードの更新	ビューに表示される 1 つ以上のノードに更新特権があると、ビュー全体を更新できます。
レコードの削除	ビューに表示されるすべてのノードに削除特権が必要です。
レコードのマージ	ビューに表示されるすべてのノードにマージ特権が必要です。
レコードのマージ解除	ビューに表示されるすべてのノードにマージ解除特権が必要です。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティビューのモデル化」](#) (ページ 53)

フィールドレベルのデータフィルタ

フィールドの値に基づいて、レコードへのアクセスを制御できます。例えば、一般データ保護規則（GDPR）に準拠する場合、EU のデータスチュワードのみが欧州連合内の住所を含むレコードにアクセスできるようにします。

ビジネスエンティティにフィールドフィルタを作成できます。フィールドフィルタでは、拒否ルール、許可ルール、両方のルールの混在についてアクセス権限を定義します。ルールは、フィールドの値と適用可能なユーザーロールから構成されます。例えば、GDPR フィールドにフィールドフィルタを作成できます。true の値でフィールドに許可ルールを作成して、DataSteward-EU ロールを選択します。他のすべてのユーザーロールに false を割り当てるには、残りの値ルールを使用します。

ビジネスエンティティのフィールドフィルタは、参照エンティティのフィールドフィルタをオーバーライドします。ユーザーロールは参照エンティティのフィールドフィルタに基づいてルックアップ値のサブセットの表示を許可されますが、ビジネスエンティティのフィールドフィルタがこれらの一部の値へのアクセスを拒否する場合、ユーザーロールはそれらの値を持つレコードを表示できません。

フィールドフィルタルールとユーザーロール

ビジネスエンティティにフィールドフィルタを作成すると、ユーザーが表示できるレコードは、フィールドフィルタのルールと割り当てられたユーザーロールに制約されます。

フィールドフィルタを作成する前に、ルールの管理方法を決定します。アクセスを拒否されたり、許可されたり、またはその両方が実行されるユーザーに関するルールを定義できます。各方法の動作を十分理解して、プラン全体を作成します。メンテナンス目的の場合、1つのタイプのルールのみを使用するのが比較的簡単です。

重要: フィールドフィルタを作成しすぎないようにしてください。フィルタの数が増えると、API 要求の処理に時間がかかるようになります。フィールドフィルタの追加後にパフォーマンスの問題が発生した場合は、フィールドフィルタ数を減らすことを検討します。

拒否ルールのみ

拒否ルールは論理 OR 演算子で結合します。1つ以上の拒否ルールを作成する場合、[拒否] セクションの残りの値ルールにも入力する必要があります。残りの値ルールが空で、レコードに他のルールでカバーされない値が含まれる場合、ユーザーは他の値を持つレコードを表示できます。

1つのフィールドフィルタに拒否ルールのみを定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの拒否ルールにも割り当てられないと、そのユーザーは任意のレコードを表示できません。
- ユーザーロールがすべての拒否ルールに割り当てられると、そのユーザーはどのレコードも表示できません。
- ユーザーロールが1つの拒否ルールに割り当てられ、レコードがルールを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できません。
- ユーザーロールが複数の拒否ルールに割り当てられ、レコードがルールのいずれかを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できません。
- ユーザーロールがどの拒否ルールにも割り当てられず、1つ以上の拒否ルールに【このルールを適用】オプションがオンになっており、レコードがこれらのルールのいずれかを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できません。

許可ルールのみ

許可ルールは論理 AND 演算子で結合します。1つ以上の許可ルールを作成する場合、[許可] セクションの残りの値ルールにも入力する必要があります。残りの値ルールが空で、レコードに他のルールでカバーされない値が含まれる場合、ユーザーは他の値を持つレコードを表示できません。

1つのフィールドフィルタに許可ルールのみを定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの許可ルールにも割り当てられないと、ユーザーはどのレコードも表示できません。
- ユーザーロールがすべての許可ルールに割り当てられると、ユーザーは任意のレコードを表示できます。
- ユーザーロールが1つの許可ルールに割り当てられ、レコードがルールを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できます。
- ユーザーロールが複数の許可ルールに割り当てられ、レコードがルールのすべてを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できます。
- ユーザーロールが複数の許可ルールに割り当てられ、レコードがルールのすべてを満たさないと、ユーザーはそのレコードを表示できません。
- ユーザーロールがどの許可ルールにも割り当てられず、1つ以上の許可ルールに【このルールを適用】オプションがオンになっており、レコードがこれらのルールのすべてを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できます。

拒否ルールと許可ルールの両方

1つのフィールドフィルタに拒否ルールと許可ルールの両方を定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの拒否ルールや許可ルールにも割り当てられないと、ユーザーはどのレコードも表示できません。
- ユーザーロールが1つ以上の拒否ルールと許可ルールに割り当てられ、レコードが拒否ルールのいずれかを満たすと、許可ルールは無視され、ユーザーはそのレコードを表示できません。
- レコードが拒否ルールを満たさない場合、「**許可ルールのみ**」セクションに記述したように許可ルールが処理されます。

同じビジネスエンティティに複数のフィールドフィルタが存在する場合

ユーザーロールが複数のフィールドフィルタに割り当てられる場合、以下の動作が適用されます。

- レコードがフィールドフィルタのいずれかで拒否ルールを満たすと、ユーザーはそのレコードを表示できません。同じユーザーロールに許可ルールが割り当てられていると、許可ルールは無視されます。
- レコードが拒否ルールのいずれも満たさない場合、「**許可ルールのみ**」セクションに記述したように許可ルールが処理されます。

フィールドフィルタの追加

作業を始める前に、ビジネスエンティティを作成します。フィールドの値に基づいてレコードへのアクセスを許可または拒否するには、フィールドフィルタを作成します。

注: フィールドフィルタは大文字と小文字が区別されます。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【フィールドフィルタ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【フィールドフィルタ】 の下に **【新しいフィールドフィルタ】** オプションが表示され、**【プロパティ】** パネルにフォームが開きます。
4. プロパティパネルで、フィルタの名前を入力します。
5. フィールドを選択します。
 - a. **【フィールド】** フィールドの横にある **【参照】** ボタンをクリックします。
ダイアログボックスにフィールドのリストが開きます。
 - b. フィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。
選択したフィールドが **【フィールド】** フィールドに表示されます。
6. データが値に一致したときに、ビジネスエンティティにアクセスできないユーザーに関するフィルタを定義するには、拒否ルールを作成します。
 - a. **【拒否】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【値】** フィールドに、フィールドのデータ型に一致する値を入力します。
注: 日付を入力する場合は、データベース環境で要求される日付形式を使用します。
 - c. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - d. このルールを **【拒否】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【拒否ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** を選択します。
 - e. **【拒否】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックすることで、さらにフィルタルールを追加して設定します。

- f. ユーザーロールを**残りの値**ルールに追加します。
注意: 残りの値ルールが空で、レコードに他のルールでカバーされない値が含まれる場合、ユーザーはそのレコードを表示できます。
7. データが値に一致したときに、ビジネスエンティティにアクセスできるユーザーに関するフィルタを定義するには、許可ルールを作成します。
 - a. **【許可】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【値】** フィールドに、フィールドのデータ型に一致する値を入力します。
注: 日付を入力する場合は、データベース環境で要求される日付形式を使用します。
 - c. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - d. このルールを **【許可】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【許可ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** を選択します。
 - e. **【許可】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックすることで、さらにフィルタルールを追加して設定します。
 - f. ユーザーロールを**残りの値**ルールに追加します。
注意: 残りの値ルールが空で、レコードに他のルールでカバーされない値が含まれる場合、ユーザーはそのレコードを表示できません。
8. **【適用】** をクリックします。
 フィールドフィルタは保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

フィールドフィルタのロール特権

フィールドフィルタに割り当てた各ユーザーロールについて、ベースオブジェクトのカラムに必須の特権を設定します。

次の表に、ビジネスエンティティフィールドに対して実行できるアクション、および ORS リソースに対して必要な最小限の特権を示します。

ビジネスエンティティフィールドのアクション	ORS リソース	リソース特権
値の作成	ベースオブジェクトのカラム	作成
値の読み取り	ベースオブジェクトのカラム	読み取り
値の更新	ベースオブジェクトのカラム	更新

ノードレベルのデータフィルタ

子ノードのフィールドにフィールドフィルタを追加した場合、ノードフィルタを追加できます。子ノードに子レコードがない場合の動作をノードフィルタで定義します。デフォルトでは、子ノードが空でも親レコードへのアクセスに影響はありません。親レコードへのアクセスを制限する場合は、親レコードへのアクセスを拒否または許可するようにノードフィルタを設定します。

ノードフィルタルール

ビジネスエンティティにノードフィルタを作成すると、ノードに子レコードがない場合、親レコードへのアクセスが制限されます。例えば、顧客レコードに住所が関連付けられていないと、DataSteward-Global ロール権限を持つユーザーは親レコードを表示できますが、データスチュワードのその他すべてのロールでは表示できない場合などです。

ノードフィルタを作成する前に、ルールの管理方法を決定します。アクセスを拒否されたり、許可されたり、またはその両方が実行されるユーザーに関するルールを定義できます。各方法の動作を十分理解して、プラン全体を作成します。メンテナンス目的の場合、1つのタイプのルールのみを使用するのが比較的簡単です。

重要: フィルタを作成しすぎないようにしてください。フィルタの数が増えると、検索要求の処理に時間がかかるようになります。フィルタの追加後にパフォーマンスの問題が発生した場合は、フィルタ数を減らすことを検討します。

拒否ルールのみ

拒否ルールは論理 OR で結合します。1つのノードフィルタに拒否ルールのみを定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの拒否ルールにも割り当てられないと、そのユーザーは任意の親レコードを表示できません。
- ユーザーロールがすべての拒否ルールに割り当てられると、そのユーザーはどの親レコードも表示できません。
- ユーザーロールが1つの拒否ルールに割り当てられ、ノードに子レコードがないと、ユーザーはその親レコードを表示できません。
- ユーザーロールが複数の拒否ルールに割り当てられ、ルールを満たす子レコードが1つ以上存在すると、ユーザーはその親レコードを表示できません。
- ユーザーロールがどの拒否ルールにも割り当てられず、1つ以上の拒否ルールに【このルールを適用】オプションがオンになっており、レコードがこれらのルールのいずれかを満たすと、ユーザーはその親レコードを表示できません。

許可ルールのみ

許可ルールは論理 AND で結合します。1つのノードフィルタに許可ルールのみを定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの許可ルールにも割り当てられないと、ユーザーはどの親レコードも表示できません。
- ユーザーロールがすべての許可ルールに割り当てられると、ユーザーは任意の親レコードを表示できます。
- ユーザーロールが1つの許可ルールに割り当てられ、ノードに子レコードがないと、ユーザーはその親レコードを表示できます。
- ユーザーロールが複数の許可ルールに割り当てられ、ルールがすべてを満たされると、ユーザーはその親レコードを表示できます。
- ユーザーロールが複数の許可ルールに割り当てられ、ルールのいずれかが満たされないと、ユーザーはその親レコードを表示できません。
- ユーザーロールがどの許可ルールにも割り当てられず、1つ以上の許可ルールに【このルールを適用】オプションがオンになっており、すべてのルールが満たされると、ユーザーはその親レコードを表示できます。

拒否ルールと許可ルールの両方

1つのノードフィルタに拒否ルールと許可ルールの両方を定義した場合、以下の動作が適用されます。

- ユーザーロールがどの拒否ルールや許可ルールにも割り当てられないと、ユーザーはどの親レコードも表示できません。

- ユーザーロールが1つ以上の拒否ルールと許可ルールに割り当てられ、レコードが拒否ルールのいずれかを満たすと、許可ルールは無視され、ユーザーはその親レコードを表示できません。
- 拒否ルールが満たされない場合、「**許可ルールのみ**」セクションに記述したように許可ルールが処理されます。

同じビジネスエンティティに複数のノードフィルタが存在する場合

ユーザーロールが複数のノードフィルタに割り当てられる場合、以下の動作が適用されます。

- ノードフィルタのいずれかで拒否ルールが満たされると、ユーザーはその親レコードを表示できません。
- ノードフィルタで拒否ルールが満たされない場合、「**許可ルールのみ**」セクションに記述したように許可ルールが処理されます。

ノードフィルタの追加

ノードに子レコードがない場合、親レコードへのアクセスを許可または拒否するには、ノードフィルタを作成します。

ヒント: 設定の理解と管理を容易にするには、許可ルールと拒否ルールを混在させないようにします。両方のタイプのルールを作成し、その結果ユーザーロールで競合が発生する場合、拒否ルールが優先します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【ビジネスエンティティ】** を選択します。
2. ビジネスエンティティを選択します。
3. **【ツリービュー】** パネルで **【ノードフィルタ】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【ノードフィルタ】 の下に **【新しいノードフィルタ】** オプションが表示され、**【プロパティ】** パネルにフォームが開きます。
4. プロパティパネルで、フィルタの名前を入力します。
5. ノードを選択します。
 - a. **【ノード】** フィールドの横にある **【参照】** ボタンをクリックします。
 ダイアログボックスにノードのリストが開きます。
 - b. ノードを選択して、**【選択】** をクリックします。
 選択したノードが **【ノード】** フィールドに表示されます。
6. ノードレコードが空のときに、親レコードにアクセスできないユーザーに関するフィルタを定義するには、拒否ルールを作成します。
 - a. **【<親レコード>へのアクセスを拒否】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - c. このルールを **【拒否】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【拒否ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** をクリックします。
 - d. フィルタルールを追加して設定するには、この手順を繰り返します。
7. ノードレコードが空のときに、親レコードにアクセスできるユーザーに関するフィルタを定義するには、許可ルールを作成します。
 - a. **【<親レコード>へのアクセスを許可】** 見出しの横にある **【追加】** アイコンをクリックします。
 - b. **【ユーザーロール】** リストから、ユーザーロールを選択し、**【追加】** アイコンをクリックします。
 - c. このルールを **【許可】** セクションの未割り当てユーザーロールのデフォルトにするには、**【許可ルールで指定されていないユーザーロールにこのルールを適用する】** をクリックします。
 - d. フィルタルールを追加して設定するには、この手順を繰り返します。

8. **【適用】** をクリックします。

ノードフィルタは保存されますが、MDM Hub にはパブリッシュされません。

ノードフィルタのロール特権

ユーザーロールが、オブジェクトおよびその他のリソースに対して必要な権限を持っていることを確認します。

次の表に、ORS リソースがレコードを作成するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
オブジェクト	更新
ベースオブジェクト	作成
ルックアップベースオブジェクト	読み取り
トランスフォーメーションに使用するクレンジング関数	実行

次の表に、ORS リソースがレコードを読み取るために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ベースオブジェクト	読み取り
ルックアップベースオブジェクト	読み取り

次の表に、ORS リソースがレコードを更新するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
オブジェクト	更新
ベースオブジェクト	更新
ルックアップベースオブジェクト	読み取り
トランスフォーメーションに使用するクレンジング関数	実行

次の表に、ORS リソースがレコードを削除するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
オブジェクト	更新
ベースオブジェクト	削除
XREF オブジェクト	削除

次の表に、ORS リソースがレコードをマージするために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
ベースオブジェクト（マージタスクあり）	更新
ベースオブジェクト（マージタスクなし）	マージ

次の表に、ORS リソースがレコードをマージ解除するために必要な最小限の特権を示します。

ORS リソース	リソース特権
1 つ以上のノード	マージ

セキュリティと Data Director のユーザーインターフェース

セキュリティとデータフィルタは、Data Director のユーザーインターフェースに影響を与えます。

次の表に、アクションを実行する権限がユーザーインターフェースの動作にどのように影響するかをまとめます。

ビジネスエンティティのアクション	Data Director の動作
レコードの作成	【新規】メニューでは、レコードを作成する権限のあるビジネスエンティティのタイプのみ表示できます。
レコードの読み取り	読み取り権限のあるビジネスエンティティのレコードを表示できます。他のレコードにはアクセスできません。
レコードの更新	レコードビューでは、ビジネスエンティティレコードの編集権限がある場合に、【編集】ボタンが有効になります。それ以外の場合、【編集】ボタンは表示されません。
レコードの削除	ビジネスエンティティレコードの削除権限がある場合、【削除】アイコンが有効になります。
レコードの検索	検索を使用してビジネスエンティティを検索する場合、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのタイプのみ表示されます。
レコードのマージおよびマージ解除	レコードのマージおよびマージ解除権限がある場合、【一致したレコード】ビューの各レコードの上部にある【マージ】ボタンとチェックボックスが有効になります。このビューにレコードを追加すると、検索フィルタと検索結果には表示権限があるビジネスエンティティのレコードのみ表示されます。

第 13 章

Data as a Service の統合

この章では、以下の項目について説明します。

- [概要, 125 ページ](#)
- [DaaS サービス用の WSDL ファイル, 125 ページ](#)
- [トランスフォーメーション, 126 ページ](#)
- [SOAP サービス, 127 ページ](#)
- [DaaS プロバイダ, 127 ページ](#)
- [DaaS プロバイダコンポーネント, 128 ページ](#)
- [DaaS プロバイダの統合, 128 ページ](#)

概要

サードパーティデータプロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティデータを充実および拡張できます。Data as a Service (DaaS) プロバイダと統合し、信頼性があり、正確かつ完全なデータにアクセスできます。DaaS プロバイダに、収入、親子または企業リンケージ、詳細な企業プロファイル、D-U-N-S 番号などの関連するビジネスエンティティ情報を要求できます。DaaS プロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティレコードを作成および更新できます。

DaaS プロバイダへのアクセスを有効化または無効化できます。ユーザーロールおよびユーザーが実行する操作に基づいて、DaaS サービスへのアクセスを設定できます。例えば、ユーザーがレコードを作成したときのみ、サービスを有効にできます。DaaS データを使用してエンリッチ化するビジネスエンティティを指定できます。DaaS プロバイダからのデータを入力する、ビジネスエンティティフィールドを選択できます。DaaS プロバイダからのデータを要求し、検索結果を比較して、ビジネスエンティティレコードに変換およびマージするレコードを選択できます。

DaaS サービスと統合するには、最初に DaaS プロバイダに登録する必要があります。プロビジョニングツールで、必要な設定および DaaS コンポーネントを作成し、そのコンポーネントを Data Director レコードビューのレイアウトに追加する必要があります。ビジネスエンティティレコードのレコードビューを開くと、[DaaS] パネルに DaaS プロバイダが表示されます。

DaaS サービス用の WSDL ファイル

DaaS サービスは、クライアントアプリケーションへの要求およびクライアントアプリケーションからの応答に対応する Simple Object Access Protocol (SOAP) プロトコルをサポートする Web サービスです。DaaS サ

ービスを使用するには、サービス用の Web サービス記述言語（WSDL）ファイルをアップロードする必要があります。WSDL ファイルには Web サービスが記述されます。

WSDL ファイルには、次の情報が含まれています。

- 利用可能な Web サービスの XML 記述。
- Web サービスの場所。
- サービスが使用する方法。
- サービスが取得するパラメータ。
- SOAP 要求および応答の形式。

トランスフォーメーション

データのエンリッチ化のために DaaS プロバイダと統合する場合、自分が持っているビジネスエンティティ情報と、DaaS プロバイダから提供される情報を照合する必要があります。ビジネスエンティティに関する最低限必要な情報とともに、要求を DaaS Web サービスに送信します。その情報に基づいて、DaaS プロバイダは、ビジネスエンティティデータのエンリッチ化に使用できる応答を送信します。

要求と応答に、SOAP プロトコルを使用します。DaaS サービスへの要求と DaaS サービスからの応答は、XML 構造になっています。ビジネスエンティティサービスは、ビジネスエンティティデータを入力として受け取り、それを XML ドキュメント内のフィールドにマッピングします。また、この情報を持つ DaaS Web サービスを呼び出し、XML ドキュメントの形式で応答を受け取ります。このサービスは、XML ドキュメントをビジネスエンティティフィールドに変換し、情報をビジネスエンティティデータとして保存します。トランスフォーメーションを設定し、ビジネスエンティティフィールドから XML 要求フィールドへのマッピング、および XML 応答フィールドからビジネスエンティティフィールドへのマッピングを行う必要があります。

次の DaaS のトランスフォーメーションを設定します。

- **ビジネスエンティティから XML。** 要求を DaaS サービスに送信するために必要なマッピング。
- **XML からビジネスエンティティ。** DaaS サービスからの応答を読み取り、変換するために必要なマッピング。

ビジネスエンティティから XML へのトランスフォーメーション

ビジネスエンティティの XML 形式へのトランスフォーメーションを設定できます。DaaS サービスに要求を送信するときは、XML 形式で送信する必要があります。ビジネスエンティティのデータを XML ドキュメントに変換します。DaaS サービスが要求で使用する XML フィールドに、ビジネスエンティティのフィールドをマッピングする必要があります。

注: トランスフォーメーションを設定する前に、使用を予定している DaaS サービスの WSDL を必ずアップロードしてください。WSDL ファイルには、サービスが要求するパラメータが指定されています。

XML からビジネスエンティティへのトランスフォーメーション

XML ドキュメントからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定できます。DaaS サービスは、XML 形式で応答を送信します。XML 応答を解析し、XML ドキュメントのフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。

注: トランスフォーメーションを設定する前に、使用を予定している DaaS サービスの WSDL を必ずアップロードしてください。

Duns & Bradstreet (D&B) が提供する企業リンケージサービスでは、要求した組織の親エンティティと関連エンティティが返されます。リンケージ情報をインポートする場合は、リンケージサービスを使用できるカスタムアプリケーションを作成する必要があります。

XML ドキュメントからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションを設定し、それをサービスとして公開します。XML ドキュメントからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションをサービスとして公開するときは、DaaS インポートおよび DaaS 更新ビジネスエンティティサービスが作成されます。DaaS インポートおよび DaaS 更新サービスは、ビジネスエンティティデータのインポートや、ビジネスエンティティデータに対する変更の更新のために使用します。

リンケージサービスの使用方法の詳細については、*Multidomain MDM* ビジネスエンティティのサービスガイドの「企業リンケージサービスのサポート」の章を参照してください。

SOAP サービス

データエンリッチ化のための DaaS サービスは、SOAP プロトコルをサポートする一連の Web サービスです。DaaS サービスと統合し、SOAP 呼び出しで情報にアクセスして、ビジネスエンティティデータをエンリッチ化する必要があります。

外部 SOAP サービスを登録する必要があります。サービスが呼び出しに対して認証情報を要求する場合は、SOAP サービスを設定するときに、SOAP ヘッダーに認証情報を指定します。

DaaS プロバイダ

DaaS プロバイダとの通信は、SOAP 要求および応答で行われます。ビジネスエンティティに関する最小限の必須情報で DaaS プロバイダに要求を送信します。DaaS プロバイダは、ビジネスエンティティビューを展開してビジネスエンティティデータをエンリッチ化するために使用できる情報で応答します。

プロビジョニングツールの拡張として DaaS プロバイダを設定する必要があります。DaaS プロバイダ設定では、Web サービスの呼び出しを、ビジネスエンティティから XML 形式へのトランスフォーメーションおよび XML 形式からビジネスエンティティへのトランスフォーメーションと組み合わせます。必須フィールドやサービスのタイプ（READ や SEARCH など）など、メタデータを指定する必要があります。

例えば、組織の名前を指定すると、DaaS サービスはその名前を検索し、一致する名前を持つレコードのリストを返します。D-U-N-S 番号などの一意の値を指定すると、DaaS サービスは直接一致を実行し、組織の詳細を返します。複数の DaaS プロバイダを設定できます。

注: すべての DaaS プロバイダには、1 つ以上の必須フィールドが必要です。必須フィールドは、DaaS プロバイダの設定時に指定します。

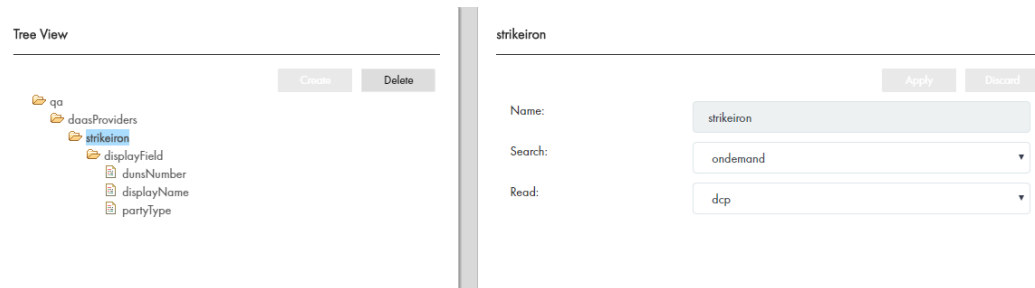
DaaS サービスとの通信は、レコードビューのレイアウトに追加する DaaS コンポーネントを通じて行われます。

DaaS プロバイダコンポーネント

DaaS プロバイダコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるコンポーネントです。コンポーネントには、レコードビューで開くレコード用に設定する DaaS プロバイダが一覧表示されます。

DaaS プロバイダコンポーネントを使用して、DaaS プロバイダにデータを要求できます。レコードを検索し、結果を比較し、ビジネスエンティティレコードに変換してマージするレコードを選択できます。DaaS プロバイダコンポーネントは、プロビジョニングツールのコンポーネントエディタで作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。レイアウトデザイナーを使用して、レコードビューのレイアウトを作成し、そのレイアウトにコンポーネントを追加します。

次の図は、DaaS プロバイダコンポーネントの設定例を示しています。



DaaS プロバイダの統合

DaaS プロバイダを統合するには、必要な設定と DaaS プロバイダコンポーネントを作成します。レコードビューのレイアウトを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加します。

DaaS プロバイダを MDM Hub に統合するには、次のタスクを実行します。

1. DaaS サービスの WSDL をアップロードします。
2. ビジネスエンティティを XML 形式に変換するには、ビジネスエンティティフィールドを SOAP サービス要求の入力にマッピングします。
3. SOAP サービスからの XML 応答を変換して、XML 要素をビジネスエンティティのフィールドにマッピングします。
4. SOAP サービスを登録します。
5. WSDL、SOAP サービス、トランスフォーメーションを 1 つにまとめて DaaS プロバイダを設定し、その設定を MDM Hub にパブリッシュします。
6. DaaS プロバイダの UI コンポーネントを作成します。
7. レコードビューのレイアウトを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加した後、MDM Hub にその設定をパブリッシュします。

WSDL ファイルのアップロード

使用する DaaS Web サービス用の WSDL ファイルをアップロードします。WSDL ファイルは、操作に加えて、要求および応答の形式とデータ型を記述します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【拡張】** をクリックし、**【WSDL】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。

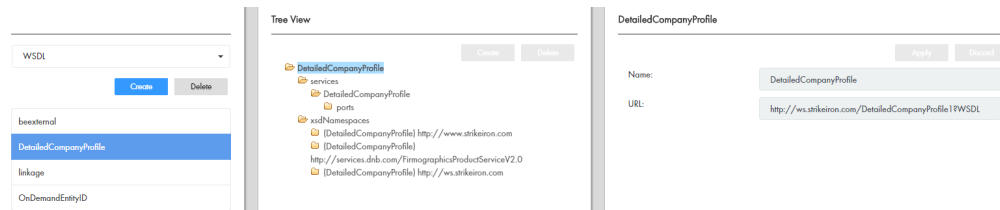
3. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	WSDL ファイルの名前。
URL	Web サービスの WSDL ファイルの URL。例: http://ws.strikeiron.com/OnDemandEntityID?wsdl

4. [適用] をクリックします。

WSDL の詳細が [ツリービュー] パネルに表示されます。

次の図は、DaaS サービスの WSDL ファイルを示しています。



ビジネスエンティティの XML 形式への変換

Web サービスに要求を送信するには、XML 形式の入力が必要です。サービス要求のマッピングを定義する必要があります。ビジネスエンティティを XML 形式に変換するには、ビジネスエンティティフィールドをサービス要求の入力フィールドにマッピングします。

1. [ビジネスエンティティ] > [トランスフォーメーション] をクリックしてから、[ビジネスエンティティから XML] を選択します。
2. [作成] をクリックします。
3. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
URL	SOAP 操作が定義される名前空間を特定します。
ビジネスエンティティ	サービスを要求するビジネスエンティティ。
タイプ	名前空間を選択します。
ターゲット	要求の要素。[参照] ボタンをクリックして、ルート要素を選択します。

4. [適用] をクリックします。
5. ルートノードのトランスフォーメーションを設定するには、[ツリービュー] パネルで [トランスフォーメーション] を選択して、[作成] をクリックします。

6. [プロパティ] パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
ステータスの出力	クレンジング出力パラメータの名前。クレンジングトランスフォーメーションで使用されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
ステータス - 成功	正規表現。クレンジング操作が正常に完了すると、正規表現に一致する値がクレンジング出力パラメータに返されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
タイプ	ビジネスエンティティフィールドから XML フィールドにデータをマッピングするトランスフォーメーションのタイプ。直接トランスフォーメーションでは、データは変更されません。

7. ビジネスエンティティフィールドを要求内のフィールドにマッピングします。

- 【入力フィールド】** カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- マッピングするビジネスエンティティフィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。
- 【出力フィールド】** カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- 要求内のフィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。

注: フィールドを指定した場合、その値は、サービスデータオブジェクト (SDO)、ビジネスエンティティ、または XML データから取得されます。一部の出力フィールドについては定数値を指定できますが、その値を入力フィールドにマッピングする必要はありません。例えば、サービスが返すことができる候補の最大数または国コードを指定できますが、そのような値は入力フィールドにマッピングしません。**【値】** フィールドに値を指定して、出力フィールドにマッピングします。

- 追加情報をマッピングするには、**【追加】** アイコンをクリックし、手順 a から d を実行します。
- 【適用】** をクリックします。

次の図は、ルートエンティティのフィールドのマッピング例を示しています。

root

Apply

Discard

Name:

root

Status output:

Status success:

Type:

direct

Input Fields	Value	Output Fields	
<div></div> ...	10000	maxReturnedCandi... <div></div>	✕
<div></div> ...	us	entityIdRequest.Cou... <div></div>	✕
displayName... <div></div>		entityIdRequest.Org... <div></div>	✕

XML データのビジネスエンティティへの変換

DaaS サービスを使用するには、サービスが返す応答に対してマッピングを定義する必要があります。応答のフィールドをビジネスエンティティフィールドにマッピングします。ビジネスエンティティに格納するサービスの XML 出力のフィールドを指定します。

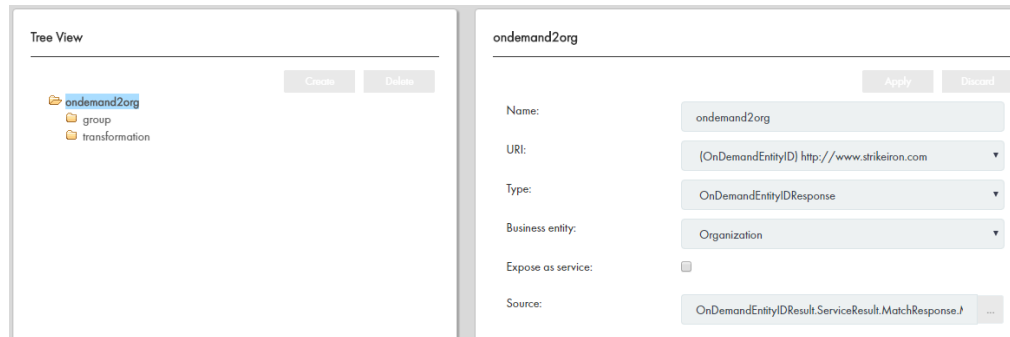
1. **【ビジネスエンティティ】** > **【トランスフォーメーション】** をクリックしてから、**【XML からビジネスエンティティ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。
URL	SOAP 操作が定義される名前空間を特定します。
タイプ	名前空間を選択します。
ビジネスエンティティ	変換するビジネスエンティティ。

プロパティ	説明
サービスとして公開	true に設定した場合、トランスフォーメーションは、インポートおよび更新という 2 つのビジネスエンティティサービスとして公開されます。これらのサービスは、XML データを受け入れてビジネスエンティティデータに変換し、ビジネスエンティティレコードとして保存します。
ソース	応答オブジェクトの要素。【参照】 ボタンをクリックして、要素を検索します。

4. 【適用】 をクリックします。

次の図は、XML データからビジネスエンティティへのトランスフォーメーションの例を示しています。



5. ルートノードのトランスフォーメーションを設定するには、【ツリービュー】 パネルで【トランスフォーメーション】を選択して、【作成】をクリックします。
6. 【プロパティ】 パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	トランスフォーメーションの名前。例えば、ルートのトランスフォーメーション。
ステータスの出力	クレンジング出力パラメータの名前。クレンジングトランスフォーメーションで使用されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
ステータス - 成功	正規表現。クレンジング操作が正常に完了すると、正規表現に一致する値がクレンジング出力パラメータに返されます。DaaS のトランスフォーメーションでは使用できません。
タイプ	ビジネスエンティティフィールドから XML にデータを直接マッピングするトランスフォーメーションのタイプ。直接トランスフォーメーションでは、データは変更されません。

7. サービス応答の XML 要素をビジネスエンティティフィールドにマッピングします。
- 【入力フィールド】 カラムの【参照】 ボタンをクリックします。
 - フィールドを選択して、【選択】 をクリックします。
 - 【出力フィールド】 カラムの【参照】 ボタンをクリックします。
 - マッピング先のビジネスエンティティフィールドを選択して、【選択】 をクリックします。
 - 追加情報をマッピングするには、【追加】 アイコンをクリックし、手順 a から d を実行します。
 - 【適用】 をクリックします。

次の図は、ルートノードのフィールドのマッピング例を示しています。

Tree View

ondemand2.org

group

address

group

transformation

addr

transformation

root

Create

Delete

root

Apply

Discard

Name:

root

Status output:

Status success:

Type:

direct

Input Fields	Value	Output Fields	+
DUNSNumber		dunsNumber	✕
OrganizationPrim		displayName	✕
PrimaryAddress.Pr		Addresses[1].Add	✕
PrimaryAddress.St		Addresses[1].Add	✕
PrimaryAddress.Te		Addresses[1].Add	✕
TelephoneNumbe		TelephoneNumbe	✕
PrimaryAddress.Pi		Addresses[1].Add	✕
OrganizationIdent		partyType	✕

8. ビジネスエンティティの子ノードのトランスフォーメーションを設定するには、ノードをグループに追加してからトランスフォーメーションを設定します。

- グループフォルダを選択し、**【作成】** をクリックします。
- 【プロパティ】 パネルで、group フォルダで表示するノードの名前を入力します。
- 【ソース】 フィールドでフィールドを選択し、**【ターゲット】** フィールドでビジネスエンティティ内の子ノードを選択します。それぞれの子ノードについて繰り返します。
- 【適用】** をクリックします。
- 子ノードを展開して、**【トランスフォーメーション】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
- 【プロパティ】 パネルで、トランスフォーメーションの名前を入力します。
- 【タイプ】 リストで、**【直接】** を選択します。
- 【入力フィールド】 カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- フィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。
- 【出力フィールド】 カラムの **【参照】** ボタンをクリックします。
- マッピング先のビジネスエンティティフィールドを選択して、**【選択】** をクリックします。

注: サービスデータオブジェクト（SDO）の XML パスは、field 属性に直接指定できます。/が含まれている場合、そのフィールドは、SDO の XPath です。クレンジングトランスフォーメーションを使用してから、ビジネスエンティティに XML データを設定する場合は、子ノードのマッピングで親 XML 要素が必要になることがあります。ただし、子ノードのトランスフォーメーションで、親 XML 要素は選択できません。必要な親 XML 要素のパスは、手動で **【フィールド名】** に入力する必要があります。親要素にアクセスするには、サービスデータオブジェクト（SDO）の XPath 式を使用します。ここで/は、ルート要素を表します。例えば、住所子ノードのトランスフォーメーションを設定するときに、dunsNumber 要素と city 要素を連結する場合があります。dunsNumber 要素は親要素であるため、選択できません。dunsNumber 要素にアクセスするには、/OrderCompanyProfileResult[1]/ServiceResult[1]/OrderProductResponseDetail[1]/InquiryDetail[1]/DUNSNumber[1] というパスを使用してください。

- 他のフィールドについて、手順 h から k を繰り返します。
- 【適用】** をクリックします。

9. 子ノードごとに、手順9を繰り返します。

次の図は、子ノードのフィールドのトランスフォーメーションとマッピングの例を示しています。

SOAP サービスの登録

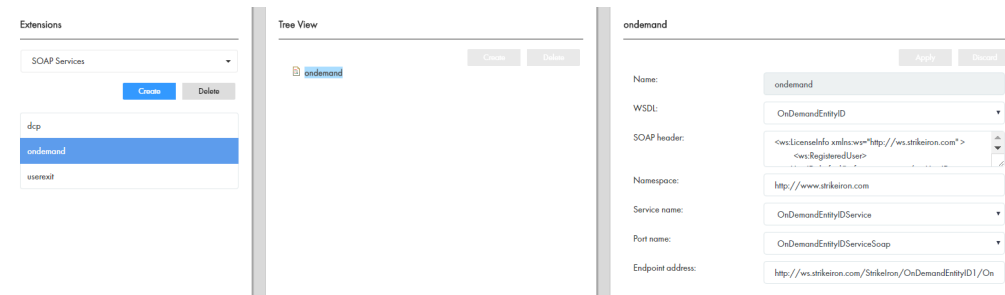
DaaS サービスに対して SOAP 呼び出しを実行するには、最初に、必要な SOAP サービスを登録する必要があります。WSDL ファイルをアップロードした後、WSDL ファイルで記述する SOAP サービスおよび操作を登録します。

1. **【ビジネスエンティティ】 > 【拡張】** をクリックし、**【SOAP サービス】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	SOAP サービスの名前。
WSDL	SOAP サービスの WSDL ファイルの URL。
SOAP ヘッダー	認証など、追加のアプリケーション固有の情報。例えば、サービスで操作を呼び出すたびに、SOAP ヘッダー内に有効なユーザー名とパスワードが必要な場合があります。
名前空間	SOAP サービスに関連付けられた名前空間。
サービス	サービスの名前。
ポート	クライアントアプリケーションが SOAP サービスにアクセスできるポート名。
エンドポイント	クライアントアプリケーションが SOAP サービスにアクセスできる URL またはアドレス。

4. **【適用】** をクリックします。

次の図は、SOAP サービスの設定例を示しています。



DaaS プロバイダの設定

サービスの呼び出しを実行してビジネスエンティティデータをエンリッチ化するため DaaS プロバイダを設定します。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【拡張】** をクリックし、**【DaaS プロバイダ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	DaaS プロバイダの名前。
タイプ	プロバイダが使用するサービスのタイプで、 【読み取り】 または 【検索】 のいずれかです。
BE から XML	ビジネスエンティティから、使用する XML トランスフォーメーション。
XML から BE	XML から、使用するビジネスエンティティトランスフォーメーション。
SOAP サービス	使用する SOAP サービス。
SOAP 操作	実行する SOAP 操作。
ビジネスエンティティ	DaaS プロバイダのデータを要求するビジネスエンティティ。
スコアフィールド	検索結果の各行の追加情報。受信 XML データのフィールドをこのフィールドにマップします。
ラベル形式	検索結果に表示される形式。DaaS には適用されません。
ソースシステム	営業支援システム（SFA: Sales Force Automation）などのソースシステム名。

4. **【適用】** をクリックします。
5. **【ツリービュー】** パネルで **【必須フィールド】** を選択し、**【作成】** をクリックします。

注: 各 DaaS プロバイダには、1 つ以上の必須フィールドが必要です。1 つ以上の必須フィールドを指定しない場合は、Data Director レコードビューの **【DaaS プロバイダ】** コンポーネントで、DaaS プロバイダが無効になります。

6. **【プロパティ】** パネルで、必須フィールドを選択します。

サービス呼び出しを行うと、DaaS プロバイダは、必須フィールドの値に基づいて検索を実行します。

7. **【適用】** をクリックします。

次の図は、DaaS プロバイダの設定例を示しています。

The screenshot displays the configuration interface for a DaaS Provider. On the left, a 'Tree View' shows a folder named 'ondemand' which contains two sub-items: 'requiredField' and 'displayName'. Above the tree are 'Create' and 'Delete' buttons. On the right, the configuration details for the 'ondemand' provider are shown. The fields are as follows:

Field	Value
Name	ondemand
Type	SEARCH
Business entity to XML	org2ondemand
XML to Business entity	ondemand2org
SOAP service	ondemand
SOAP operation	OnDemandEntityID
Business entity	Organization
Score field	
Label format	{dunsNumber}-{displayName}
System name	SFA

At the top right of the configuration pane are 'Apply' and 'Discard' buttons.

DaaS プロバイダコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで DaaS プロバイダコンポーネントを作成します。DaaS プロバイダのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックし、**【DaaS プロバイダ】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルにコンポーネントの名前を入力し、**【適用】** をクリックします。
作成した DaaS プロバイダのコンポーネントが **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
4. DaaS プロバイダのコンポーネントツリーで **daasProviders** をクリックし、**【作成】** をクリックします。
DaaS プロバイダのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
5. **【名前】** フィールドに DaaS プロバイダの名前を入力します。
6. **【検索】** リストから、検索操作作用に設定した DaaS プロバイダを選択します。
7. **【読み取り】** リストから、読み取り操作作用に設定した DaaS プロバイダを選択します。
8. **【適用】** をクリックします。

次の図は、DaaS プロバイダの設定例を示しています。



DaaS のレコードビューのレイアウトの設計

DaaS プロバイダでレコードを表示するには、レコードビューのレイアウトを設計します。レイアウトデザイナーでレコードビューを設計して、DaaS プロバイダコンポーネントを追加できます。レコードビューで開いているレコードのデータを DaaS プロバイダに要求できます。

関連項目：

- [「ビジネスエンティティビューのレイアウトの設計」 \(ページ 185\)](#)

トランスフォーメーションの削除

トランスフォーメーションを削除できます。コンポーネントまたは拡張のベースとなるトランスフォーメーションを削除すると、そのコンポーネントおよび拡張が削除されます。

WSDL ファイル、SOAP サービス、および DaaS プロバイダの削除

WSDL ファイル、SOAP サービス、DaaS プロバイダなどの拡張を削除できます。

コンポーネントまたは拡張のベースとなる拡張を削除すると、そのコンポーネントおよび拡張が削除されます。

第 14 章

外部呼び出しの設定

この章では、以下の項目について説明します。

- [概要, 138 ページ](#)
- [外部呼び出しの設定, 139 ページ](#)

概要

ビジネスエンティティデータをクレンジング、分析、および変換するための Web サービスは、外部プロバイダによって提供されます。外部 Web サービスを使用して、カスタム検証を実行できます。例えば、ビジネスエンティティの追加時に住所フィールドが空かどうかを検査できます。また、外部 Web サービスを使用して、ビジネスエンティティデータの変換時にカスタムロジックを適用できます。例えば、2つのビジネスエンティティレコードをマージするときに、住所はマージ可能にし、電話番号はマージ不可にすることができます。

ビジネスエンティティ実行ロジックの特定のステップで外部 Web サービスを呼び出すように設定できます。外部サービス呼び出すビジネスエンティティとイベントを設定する必要があります。外部呼び出しは、ビジネスエンティティサービスの拡張として設定する必要があります。要求タイプおよび応答タイプを取得するには、外部 Web サービス用の XML スキーマ定義 (XSD) を使用します。外部 Web サービスの操作では、入力要素および出力要素として、要求タイプおよび応答タイプを使用する必要があります。要求は、実装したロジックに基づいて外部サービスに送信され、各サービスでビジネスエンティティデータの分析や変換が実行されます。

XSD ファイルは、<MDM Hub installation directory>\hub\ server\lib\mdm-spi.jar にあります。

外部のサービス、操作、メソッドや、サービスメソッドが交換するデータ型を理解するには、リソースキットに含まれているサンプルの WSDL ファイルを使用してください。外部 Web サービスのサンプルの custom-logic-service.wsdl ファイルは、<MDM Hub installation directory>\hub\resourcekit\samples\BESEExternalCall\source\resources\webapp\WEB-INF\wsdl\にあります。

外部 Web サービスは、ご自分で開発してデプロイする必要があります。<MDM Hub installation directory>\hub\resourcekit\samples\BESEExternalCall\フォルダ内にある Ant のビルドファイル、build.xml を使用して、bes-external-call.ear ファイルを作成します。アプリケーションサーバーに EAR ファイルをデプロイした後、プロビジョニングツールを使用して、Web サービスの呼び出しを設定します。

外部呼び出しの設定

ビジネスエンティティデータのカスタムロジックおよびカスタム検証用の外部サービス呼び出しを設定します。

外部呼び出しを設定するには、次のタスクを実行します。

1. XML スキーマ定義 (XSD) を使用して、外部呼び出しの要求タイプと応答タイプを取得します。この要求タイプおよび応答タイプを入力要素および出力要素として使用して、外部 Web サービスを操作します。
mdm-spi.jar ファイル内の bes-external-call.xsd ファイルを参照してください。
2. 外部 Web サービスを開発してデプロイします。
3. Web サービスの WSDL ファイルをアップロードします。
4. SOAP サービスを登録します。
5. 外部呼び出しを設定し、WSDL、SOAP サービス、および SOAP 操作をバインドします。設定を MDM Hub にパブリッシュします。

Web サービスの WSDL ファイルと SOAP 呼び出しの詳細については、「Data as a Service の統合」の章を参照してください。

外部 Web サービスが使用可能なビジネスエンティティサービスの手順の詳細については、『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。

WSDL ファイルのアップロード

使用する Web サービスの WSDL ファイルをアップロードできます。

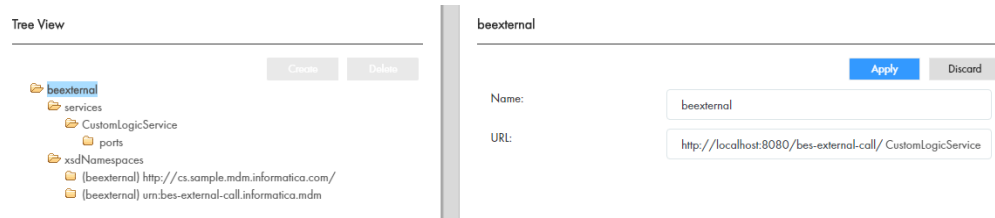
1. **【ビジネスエンティティ】** > **【拡張】** をクリックし、**【WSDL】** を選択します。
2. **【作成】** をクリックします。
3. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	WSDL ファイルの名前。
URL	Web サービスの WSDL ファイルの URL。例: <code>http://ws.strikeiron.com/OnDemandEntityID1?wsdl</code>

4. **【適用】** をクリックします。

WSDL の詳細が **【ツリービュー】** パネルに表示されます。

次の図は、アップロードされた WSDL ファイルを示しています。



SOAP サービスの登録

SOAP サービスを登録して、外部プロバイダに SOAP 呼び出しを行い、カスタム検証およびロジック用の Web サービスにアクセスして、ビジネスエンティティデータを処理します。

次の図は、SOAP サービスの設定例を示しています。

Tree View

userexit

CreateDelete

userexit

ApplyDiscard

Name:

userexit

WSDL:

beexternal

SOAP header:

Namespace:

http://cs.sample.mdm.informatica.com/

Service name:

CustomLogicService

Port name:

CustomLogicServicePort

Endpoint address:

http://localhost:8080/bes-external-call/customLogicService

関連項目：

- 「SOAP サービスの登録」 (ページ 134)

外部呼び出しの設定

外部呼び出しは、ビジネスエンティティサービスの拡張機能です。WSDL、SOAP サービス、SOAP 操作をバインドして、外部呼び出しを設定できます。

- 【ビジネスエンティティ】 > 【拡張】をクリックし、【外部呼び出し】を選択します。
- 【作成】をクリックします。
- 【プロパティ】パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	外部呼び出しの名前。
SOAP サービス	使用する SOAP サービス。
SOAP 操作	実行する SOAP 操作。

- 【適用】をクリックします。
- 変更をパブリッシュします。

次の図は、外部呼び出しの設定例を示しています。

Extensions

External Calls

CreateDelete

validateperson

Tree View

validateperson

businessEntity

Account

servicePhase

WriteCO.BeforeValidate

CreateDelete

validateperson

ApplyDiscard

Name:

validateperson

SOAP service:

custom

SOAP operation:

validate

第 15 章

Data Director のユーザーインタフェースの設計

この章では、以下の項目について説明します。

- [Data Director のユーザーインタフェースの設計の概要, 141 ページ](#)
- [ユーザーインタフェース設計例, 142 ページ](#)
- [ユーザーインタフェース設計の前提条件, 142 ページ](#)
- [ユーザーインタフェースのレイアウト, 142 ページ](#)
- [プライマリユーザーインタフェースコンポーネント, 150 ページ](#)
- [セカンダリユーザーインタフェースコンポーネント, 157 ページ](#)
- [カスタムユーザーインタフェースコンポーネント, 168 ページ](#)
- [Data Director のユーザーインタフェースの設計方法, 170 ページ](#)

Data Director のユーザーインタフェースの設計の概要

レコードを追加、編集、管理し、タスクを管理するには、Data Director のユーザーインタフェースを設計します。ユーザーインタフェースを設計するには、アプリケーションおよびユーザーインタフェースコンポーネントを作成して、これらのコンポーネントを構成してレイアウトにします。

Data Director のユーザーインタフェースを設計する場合、**【ホーム】** ページ、追加ページ、およびレコードビューのレイアウトを設計します。ユーザーインタフェースの要件が変わった場合は、作成したレイアウトを更新できます。

ユーザーインタフェースを設計するには、プロビジョニングツールのアプリケーションエディタ、コンポーネントエディタ、およびレイアウトデザイナーを使用します。ユーザーインタフェースには、プライマリコンポーネント、セカンダリコンポーネントおよびカスタムコンポーネントを追加できます。カスタムコンポーネントはコンポーネントエディタで作成できます。カスタムコンポーネントを作成したら、レイアウトデザイナーを使用してレイアウトテンプレートを選択し、そのレイアウトで使用するコンポーネントをドラッグして編成します。

ユーザーインタフェース設計例

【ホーム】 ページ、外部 Web アプリケーションにリンクする追加ページ、およびアカウントマネージャ用のカスタムレコードビューを設計する要求があります。

【ホーム】 ページ、追加ページ、およびレコードビュー用のレイアウトを設計するには、以下の手順を実行します。

1. ユーザー要件を収集します。
2. 視覚的な設計をします。
3. コンポーネントを作成します。
4. レイアウトを選択します。
5. コンポーネントをレイアウトに追加します。
6. ページまたはビューをパブリッシュします。
7. ユーザーからのフィードバックを収集し、必要に応じてページまたはビューを調整します。

ユーザーインタフェース設計の前提条件

Data Director のユーザーインタフェースを設計する前に、次の前提条件となるタスクを実行します。

1. MDM Hub の設定。
2. ユーザーインタフェースレイアウトへのアクセスに必要なユーザーロールを作成します。MDM Hub コンソールでユーザーロールを作成します。
3. アプリケーションを関連付けるソースシステムを作成します。MDM Hub コンソールでソースシステムを作成します。
4. Data Director アプリケーションを作成します。
5. ビジネスエンティティモデルを定義します。
6. ユーザーインタフェースを使用してビジネスエンティティのリレーションを管理する場合は、管理するリレーションのタイプを作成します。
7. ビジネスエンティティのビューを表示するユーザーインタフェースを設計する場合は、ビジネスエンティティビューを作成します。

ユーザーインタフェースのレイアウト

Data Director のユーザーインタフェースには、【ホーム】 ページ、追加ページ、およびレコードビューが含まれています。エンドユーザーのニーズを満たす【ホーム】 ページおよび追加ページを設計します。レコードビューについては、デフォルトのレコードビューを有効にするか、カスタムレコードビューを設計できます。

ユーザーが Data Director アプリケーションにアクセスすると、【ホーム】 ページが表示されます。【ホーム】 ページには、タスクインボックス、グラフ、およびレポートを表示できます。また、ユーザーは、ナビゲーションバーから自分用に作成された追加ページを選択できます。追加ページには、外部リンクなどのプライマリコンポーネント、セカンダリコンポーネント、カスタムコンポーネントを含めることができます。

レコードビューでユーザーはレコードを追加、表示、管理でき、タスクを確認できます。デフォルトのレコードビューには、単一のパネルで構成される設定済みレイアウトを使用します。カスタムレコードビューは、プライマリ、セカンダリ、およびカスタムコンポーネントを使用して、複数のパネルから構成できます。

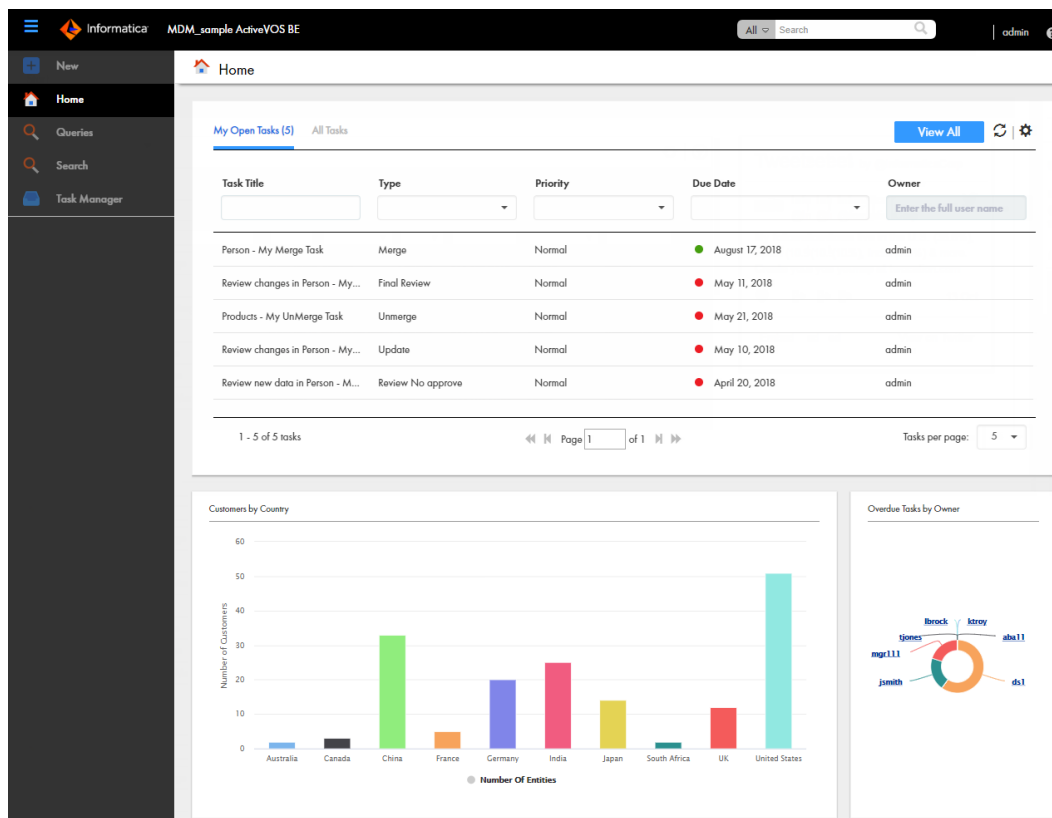
注: 10.2 より前のバージョンからアップグレードした場合は、プロビジョニングツールにレイアウトが正しく表示されないことがあります。アプリケーションにレイアウトが正しく表示されることを確認してください。必要な場合は、プロビジョニングツールでレイアウトを編集できます。

ホームページレイアウト

複数の【ホーム】ページのレイアウトを設計できます。複数のユーザーロールに適用されるレイアウトか、一意のユーザーロールに適用されるレイアウトを作成できます。【ホーム】ページは、Data Director にログインするときに表示されます。タスクインボックスやグラフ、ソーシャルメディアフィードなどのカスタムリソースを含めるように、【ホーム】ページのレイアウトを設計できます。

【ホーム】ページを設計する場合は、必要なコンポーネントを表示できるテンプレートを選択します。例えば、【ホーム】ページにタスクインボックスとチャートを表示する場合、テンプレートにはコンポーネントを表示できる大きさのパネルが必要です。

次の図は、チャートコンポーネントとタスクインボックスコンポーネントを含む Data Director の【ホーム】ページを示しています。



関連項目：

- [「ホームページのレイアウトの設計」 \(ページ 182\)](#)

追加ページのレイアウト

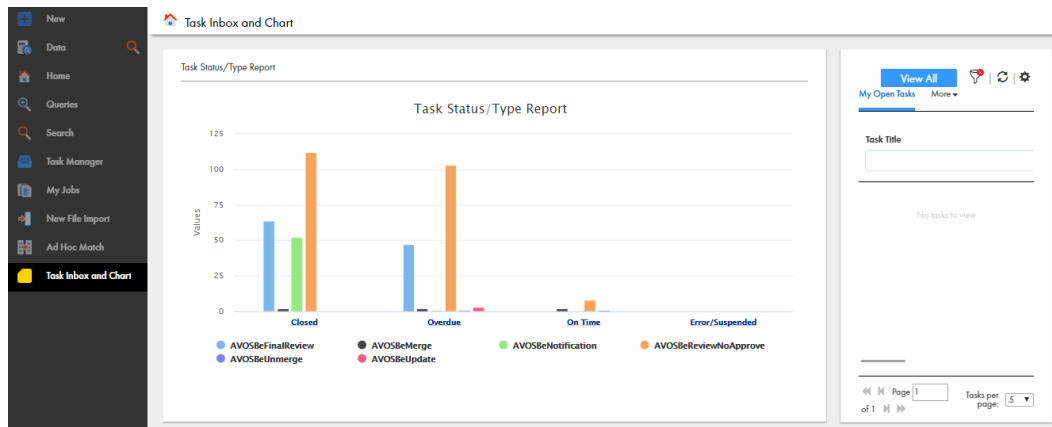
追加ページでは、【ホーム】ページに加えて、ユーザーが必要とする情報へのアクセスを提供できます。複数のユーザーロールに適用できる、または一意のユーザーロールに適用できる複数の追加ページレイアウトを設計できます。

追加ページレイアウトには、プライマリコンポーネント、セカンダリコンポーネント、カスタムコンポーネントを含めることができます。例えば、Informatica Data Quality ダッシュボードなどの外部 Web アプリケーションに接続するコンポーネントを使用して、追加ページレイアウトを設計できます。

追加ページレイアウトを設計する場合は、必要なコンポーネントを完全に表示できるテンプレートを選択します。例えば、チャートコンポーネントを表示する場合、テンプレートにはチャートを完全に表示できる大きさのパネルが必要です。

追加ページレイアウトを設計すると、プロビジョニングツールによって、追加ページレイアウトが関連付けられたカスタムタブが作成されます。Data Director では、ユーザーはナビゲーションバーのカスタムタブをクリックして追加ページにアクセスします。

次の図は、チャートコンポーネントとタスクインボックスコンポーネントを含む Data Director の追加ページを示しています。



レコードビューのレイアウト

レコードビューは、ユーザーがレコードを作成または管理するとき、またはタスクマネージャでタスクを管理するときにエンティティタブに表示されます。複数のレコードビューのレイアウトを設計できます。レコードを管理するには、プライマリコンポーネントをレイアウトに追加します。一致レコードやソーシャルメディアフィードなど、レコードに関連する情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

レコードビューを使用してユーザーが実行できる、レコードの作成、タスクの確認などのアクションを設定できます。

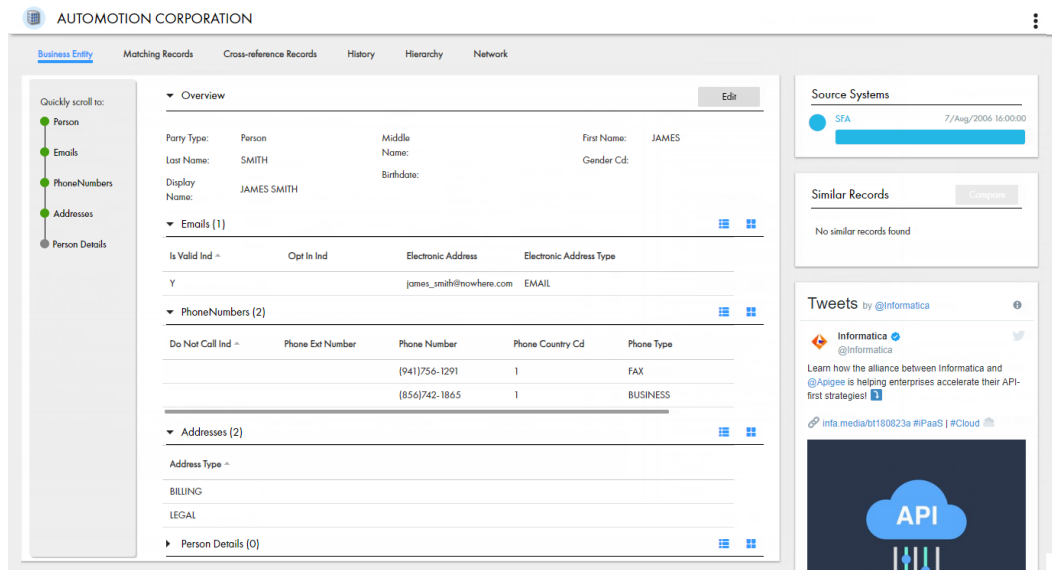
レコードビューと確認タスク、マージタスク、マージ解除タスクのレイアウトを設計できます。レイアウトタイプを選択すると、レイアウトに追加できるプライマリコンポーネントとユーザーが実行できるアクションが決まります。例えば、マージ解除タスクのレイアウトを設計する場合、ユーザーがレコードのマージ解除をするためのプライマリコンポーネントのみが使用できます。

レコードビューを設計するときは、デフォルトのレコードビューを有効にします。カスタムレコードビューの設計中は、デフォルトのレコードビューを使用してレコードを管理できます。有効にすると、デフォルトのレ

コードビューの名前がタブとして表示されます。カスタムレコードビューの設計後に、デフォルトのレコードビューを非表示にできます。

レコードビューを設計する場合は、必要なコンポーネントを表示できるテンプレートを選択します。例えば、レコードにデータを表示する場合、テンプレートにはレコードの詳細を表示できる大きさのパネルが必要です。ユーザーが Data Director にログインすると、そのユーザーロールに適用されるレイアウトがアプリケーションに表示されます。

次の図は、メインパネルにレコードの詳細コンポーネントがあり、サイドバーに関連情報を表示するセカンダリコンポーネントがあるレコードビューです。



ヒント: レコードビューのレイアウトの設計が必要ない場合は、デフォルトのレコードビューを有効にします。デフォルトのレコードビューには、プライマリコンポーネントはありますが、セカンダリコンポーネントやカスタムコンポーネントはありません。

レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプ

レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプは、設計できるレコードビューのレイアウトのなかで最も柔軟性のあるタイプです。同じレイアウトを使用してレコードとタスクの両方を管理できます。または、レコードと確認タスクに個別のレイアウトを作成できます。

レコードビューのレイアウトタイプ

カスタムレコードビューを設計して、レコードを作成または表示できます。ビューを設計して、重複レコードのマージ、マージされたレコードのマージ解除、レコード履歴の表示、レコード間の階層リレーションの表示もできます。

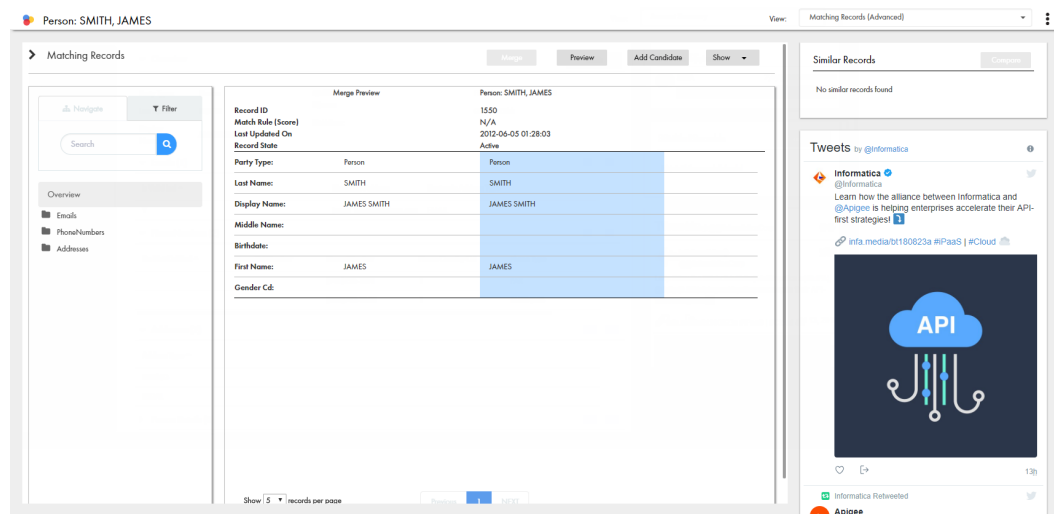
デフォルトのレコードビューを置き換えるカスタムレコードビューを設計するには、デフォルトのレコードビューと同じ目的を選択して、同じプライマリコンポーネントを使用します。次に必要なセカンダリコンポーネントとカスタムコンポーネントを追加します。

次の表は、デフォルトのレコードビューと、[目的] ページと [デザイン] ページで選択する項目です。

デフォルトのレコードビュー	[目的] ページ	[デザイン] ページ
[ビジネスエンティティ] ビュー	レコードの作成 レコードの表示または編集	レコードの詳細コンポーネント
[一致したレコード] ビュー	レコードの表示または編集	一致したレコード（詳細）または一致したレコードコンポーネント
[相互参照レコード] ビュー	レコードの表示または編集	[相互参照レコード] コンポーネント
[履歴] ビュー	レコードの表示または編集	履歴コンポーネント
[階層] ビュー	レコードの表示または編集	階層マネージャコンポーネント

ヒント: ビジネスエンティティビューと確認タスクに同じレイアウトを使用するには、レイアウトデザイナーの [目的] ページですべてのオプションを選択します。

次の図は、カスタム一致したレコードビューのレイアウトの例です。



確認タスクのレイアウトタイプ

新しいレコードや編集したレコードの確認など、タスクマネージャで確認タスクを管理するには、レコードビューのレイアウトを設計できます。一般的な確認タスクのレイアウトには、レコードの詳細コンポーネントと、必要に応じてセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントが含まれています。

次の図は、カスタム確認タスクのレイアウトの例です。

Review changes in Person - My Update Task (Task ID: um:b4p2:18967)

Submitted by ds1 on July 26, 2018 [Task Details](#)

● Due date: May 11, 2018

[Approve](#) [Reject](#) [More Actions](#) [Edit](#) [Open](#)

Record Details [Comments](#)

Quickly scroll to:

- Person
- Emails
- PhoneNumbers
- Addresses
- Person Details

Overview

Party Type: Person Middle Name: Michelle First Name: BLANCA

Last Name: JOSEPH Birthdate: Gender: Cd:

Display Name: BLANCAJOSEPH

Emails (1)

Is Valid Ind ^	Opt In Ind	Electronic Address	Electronic Address Type
Y		blanca_joseph@nowhere.ci	EMAIL

PhoneNumbers (2)

Do Not Call Ind ^	Phone Ext Number	Phone Number	Phone Country Cd	Phone Type
		(310)837-5570	1	BUSINES
		(909)349-1020	1	FAX

Addresses (2)

Address Type ^
BILLING
LEGAL


Source Systems

SFA 7/26/2018 16:00:00

Similar Records [Compare](#)


No similar records found

Tweets by @Informatica

 Informatica @Informatica

Learn how the alliance between Informatica and @Apigee is helping enterprises accelerate their API-first strategies! [1](#)

[info.media/bt180623a #IPaaS | #Cloud](#)



関連項目：

- [「ビジネスエンティティビューのレイアウトの設計」 \(ページ 185\)](#)
- [「相互参照レコードビューのレイアウトの設計」 \(ページ 191\)](#)
- [「一致したレコードビューのレイアウトの設計」 \(ページ 189\)](#)
- [「履歴ビューのレイアウトの設計」 \(ページ 193\)](#)
- [「確認タスクのレイアウトの設計」 \(ページ 195\)](#)

マージタスクのレイアウトタイプ

マージタスクのレイアウトタイプを使用してレコードビューのレイアウトを設計できます。タスクマネージャでマージタスクのレイアウトを使用してマージタスクを管理します。一般的なマージタスクのレイアウトには、

一致したレコード（詳細）コンポーネントまたは一致したレコードコンポーネントと、必要に応じてセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントが含まれています。

次の図は、タスクマネージャに表示したマージタスクのレイアウトの例です。

Person - My Merge Task (Task ID: urn:b4p2:19956)

Submitted by on August 10, 2018 [Task Details](#)

Due date: August 17, 2018

Merge Cancel More Actions Toggle View Open

Record Details Comments

> Matching Records Update Preview Add Candidate Show

Navigation Filter

Search

Overview

- Emails
- PhoneNumbers
- Addresses

Merge Preview		Person: JOSHI, ALOK	<input checked="" type="checkbox"/> Person: JOSHI, ALOK
Record ID		1193	1807
Match Rule (Score)		N/A	PUT
Last Updated On		2018-05-14 11:36:31	2018-05-14 11:32:38
Record State		Active	Active
Party Type:	Person	Person	Person
Last Name:	JOSHI	JOSHI	JOSHI
Display Name:	ALOKJOSHI	ALOKJOSHI	ALOKJOSHI
Middle Name:	Michael	Michael	M
Birthdate:			
First Name:	ALOK	ALOK	ALOK
Gender Cd:			

関連項目：

- [「マージタスクのレイアウトの設計」 \(ページ 197\)](#)

マージ解除タスクのレイアウトタイプ

マージ解除タスクのレイアウトタイプを使用してレコードビューのレイアウトを設計できます。タスクマネージャでマージ解除タスクのレイアウトを使用してマージ解除タスクを管理します。一般的なマージ解除タスク

のレイアウトには、相互参照レコードコンポーネントと、必要に応じてセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントが含まれています。

次の図は、タスクマネージャに表示したマージ解除タスクのレイアウトの例です。

Products - My UnMerge Task (Task ID: urn:b4p2:12703)

Submitted by on May 14, 2018 [Task Details](#)

Due date: May 21, 2018

Unmerge Discard More Actions Toggle View Open

Record Details Comments

> Cross-reference Records

Save Cancel Unmerge Show

🔍 Navigate Filter

Search 🔍

Overview

ProductAttributes

Master Record		Product	Product
Source primary key	967684-0403	920-000223	920-000223
Last updated on	2018-05-14 12:51:03	2018-05-14 12:51:03	2018-05-14 12:51:03
Record state	Active	Active	Active
Product Type:	Product	Product	Product
Number:	920-000223	967684-0403	920-000223
Name:	Alto Cordless	Alto	Alto Cordless
Inception Date:	2017-01-01 00:00:00		
Description:	Take your notebook PC to new heights of ...	Take your notebook to new heights.	Take your notebook PC
Product Type Cd:	Keyboard Mice	Keyboard	Keyboard

関連項目：

- [「マージ解除タスクのレイアウトの設計」 \(ページ 199\)](#)

デフォルトのレコードビュー

デフォルトのレコードビューでは、プライマリコンポーネントを含み、セカンダリコンポーネントやカスタムコンポーネントを含まない設定済みレイアウトが使用されます。デフォルトのレコードビューは、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。

ユーザーがレコードの表示や管理ができるようにレイアウトの設計を始める場合は、デフォルトのレコードビューを使用できます。カスタムレコードビューを設計した後は、デフォルトのレコードビューを非表示にして、エンドユーザーの混乱を避けることができます。

以下のデフォルトのレコードビューセットはグループとして非表示または表示ができます。

【ビジネスエンティティ】ビュー

レコードの詳細をフォームレイアウトに表示します。エンドユーザーは、自身のユーザーロール権限に基づいてレコードを表示または編集できます。このレコードビューレイアウトには、レコードの詳細コンポーネントが含まれます。

【相互参照レコード】ビュー

マスタレコードおよびマージ解除レコードに関与したソースデータを表示します。このレコードビューレイアウトには、相互参照レコードコンポーネントが含まれます。

【履歴】ビュー

レコードの変更履歴を表示します。このレコードビューレイアウトには、履歴コンポーネントが含まれます。

【一致したレコード】ビュー

マージ比較パネルを表示して、重複の可能性があるレコードを検索して追加し、オーバーライドまたは昇格する値を選択し、マージプレビューを表示して、開いているレコードと重複レコードをマージします。このレコードビューレイアウトには、一致したレコード（詳細）コンポーネントが含まれます。

関連項目：

- [「デフォルトのレコードビューの非表示」](#)（ページ 208）

プライマリユーザーインタフェースコンポーネント

プライマリコンポーネントをレイアウトに追加できます。プライマリコンポーネントを使用するとユーザーによるレコードの管理が容易になります。

以下の表では、レイアウトデザイナーで【ホーム】ページのレイアウトを設計する場合に表示されるプライマリコンポーネントについて説明します。

プライマリコンポーネント	説明
タスクインボックス	確認プロセスが生成するタスク通知を表示します。
ダッシュボードレポート	Jaspersoft レポートを表示します。Data Director のサブジェクト領域にすでに Jaspersoft レポートを設定している場合は、このコンポーネントを使用します。

以下の表では、レイアウトデザイナーでレコードビューのレイアウトを設計する場合に表示されるプライマリコンポーネントについて説明します。

プライマリコンポーネント	説明
レコードの詳細	レコードのデータを表示します。レコードを作成、表示、編集するためにこのコンポーネントを使用します。
一致したレコード（詳細）	最新のルックアンドフィールの詳細マージ比較パネルを表示します。このコンポーネントを使用して、重複したレコードを検索し、開いているレコードと重複レコードをマージします。マージされたレコードをオーバーライドまたは昇格し、プレビューするには、レコードのルートまたは子の値を選択します。
一致したレコード	マージ比較パネルを表示します。このコンポーネントを使用して、重複したレコードを検索し、開いているレコードと重複レコードをマージします。マージされたレコードをオーバーライドまたは昇格し、プレビューするには、レコードのルート値を選択します。
相互参照レコード	マスタレコードに関与したソースデータを表示します。このコンポーネントを使用して、マージされたレコードをマージ解除します。
履歴	レコードの変更履歴を表示します。このコンポーネントを使用して、データの変更内容を表示します。

注: レコードビューのレイアウトを設計する場合、レイアウトタイプを選択すると、使用できるプライマリコンポーネントが決まります。

関連項目：

- [「タスクインボックスのコンポーネントの設定」 \(ページ 171\)](#)

タスクインボックス

タスクインボックスコンポーネントは、設定後に【ホーム】ページのレイアウトに追加できるプライマリコンポーネントです。コンポーネントは、確認プロセスが生成するタスク通知を表示します。タスクインボックスを使用して、タスクの整理、引き受け、解決を行うことができます。

次の図は、【ホーム】ページのタスクインボックスの例です。

My Open Tasks	My Closed Tasks	All Tasks (8)	All Unclaimed Tasks	All Closed Tasks	All Claimed Tasks	View All	Refresh	Settings
Task Title	Type	Priority	Due Date	Owner				
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>				
Review changes in SHARMA, PREM	Review No approve	High	● July 24, 2018	mgr1				
Review changes in RAY, ADITYA	Review No approve	High	● July 24, 2018	mgr1				
Review changes in RAO, DEEPTHI	Review No approve	High	● July 24, 2018	mgr1				
Review changes in Organization	Review No approve	High	● July 24, 2018	Unclaimed				
Review changes in AKBAR, SARA	Review No approve	High	● July 24, 2018	Unclaimed				
1 - 5 of 8 tasks					Page 1 of 2			
					Tasks per page: 5			

タスクインボックスコンポーネントでユーザーに表示するフィールドとフィルタを設定できます。

以下の表に、タスクインボックスコンポーネントにカラムとして表示可能なフィールドを示します。

フィールド	説明
タスクのタイトル	確認タスクの簡単な説明を表示するリンク。レコードを確認して、タスクにアクションを実行するには、タスクのタイトルをクリックします。タスクマネージャでタスクが開き、関連するレコードが確認パネルに表示されます。ロールに権限がある場合は、タスクにアクションを実行する前に、このビューからレコードを編集できます。
タイプ	プロセス内のユーザーアクティビティの名前。
優先度	タスクの優先度。タスクの優先度を低、ノーマル、高のいずれかに設定できます。タスクの生成中に、確認プロセスによって同じタイプのすべてのタスクに同じ優先度が割り当てられます。
期限	タスクの期限となっている日付。確認プロセスで、タスクの作成日に定義済みの期間を加算してデフォルトの期限が計算されます。 それぞれのタスクの期限の先頭には、次に示す色付きのドットのいずれかが付いています。 <ul style="list-style-type: none">- 緑。タスクの期限が過ぎていないことを示します。- 赤。タスクの期限が過ぎていることを示します。- オレンジ。タスクが 24 時間以内に期限切れになることを示します。
所有者	サインインしたユーザーの名前。
ID	タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。
ステータス	タスクのステータスは「オープン」または「終了」のいずれかになります。タスクのステータスがオープンの場合、タスクに関連付けられているレコードを表示できます。

フィールド	説明
作成者	タスクを作成したユーザーの名前。
作成日	ユーザーがタスクを作成した日付。

以下の表に、タスクインボックスに表示可能なフィールドを示します。

フィルタ	説明
開いているタスク	開いているタスクを表示します。
終了したタスク	終了したタスクを表示します。
すべてのタスク	ユーザーグループに割り当てられた、終了したタスク、引き受け処理したタスク、引き受け解除したタスクをすべて表示します。
すべての引き受け解除したタスク	ユーザーグループに割り当てられた、引き受け解除したタスクをすべて表示します。
すべての終了したタスク	ユーザーグループ内のユーザーが終了したすべてのタスクを表示します。
すべての引き受け処理したタスク	ユーザーグループ内のユーザーが引き受け処理したすべてのタスクを表示します。

ダッシュボードレポート

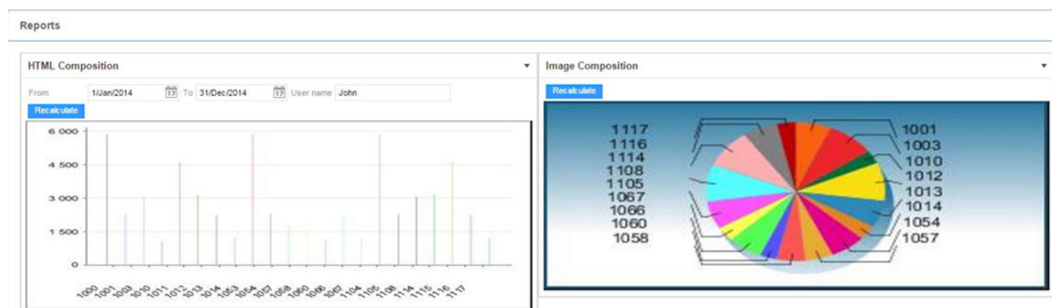
ダッシュボードレポートコンポーネントは、【ホーム】ページのレイアウトに追加できるプライマリコンポーネントです。ビジネスインテリジェンスツール Jaspersoft を使用して、レポートを開発および分析する場合、このコンポーネントを使用して、Jaspersoft レポートをレイアウトに追加します。

注: このコンポーネントは、Jaspersoft レポート専用です。Highcharts フレームワークを使用してチャートを表示するには、チャートコンポーネントを作成します。その他のビジネスインテリジェンスツールからのチャートを表示するには、カスタムコンポーネントを作成します。

Data Director のサブジェクト領域にすでに Jaspersoft レポートを設定している場合は、ダッシュボードレポートコンポーネントを使用します。コンポーネントは、IDD 構成ファイル内で設定されているすべてのレポートのインラインフレームとして機能します。

注: ダッシュボードレポートコンポーネントを【ホーム】ページに表示する場合は、テンプレート 1 を使用して【ホーム】ページレイアウトを設計します。

次の図は、【ホーム】ページでのダッシュボードレポートコンポーネントの例です。



レコードの詳細

レコードの詳細コンポーネントは、ビジネスエンティティレコードのデータを表示するプライマリコンポーネントです。レコードの詳細コンポーネントをカスタムビジネスエンティティビューのレイアウトまたは確認タスクのレイアウトに追加します。

レコードの詳細コンポーネントは、[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルが作成された後に、レイアウトデザイナーに表示されます。レイアウトを設計するときは、電話番号、電子メール、住所などの必要な情報を表示するように、レコードの詳細コンポーネントを設定できます。大量の情報が格納されている複数の子レコードを表示する場合、ビジネスエンティティメニューを有効にして、ユーザーが子レコード間を移動しやすいようにできます。

次の図は、Data Director のビジネスエンティティメニューが表示されたレコードの詳細コンポーネントの例です。

Quickly scroll to:

- Person
- Emails
- PhoneNumbers
- Addresses
- Person Details

Overview

Party Type: Person Middle Name: First Name: JAMES
Last Name: SMITH Birthdate: Gender Cd:
Display Name: JAMES SMITH

Emails (1)

Is Valid Ind ~	Opt In Ind	Electronic Address	Electronic Address Type
Y		james_smith@nowhere.com	EMAIL

PhoneNumbers (2)

Do Not Call Ind ~	Phone Ext Number	Phone Number	Phone Country Cd	Phone Type
		(941)756-1291	1	FAX
		(856)742-1865	1	BUSINESS

Addresses (2)

Address Type ~

BILLING
LEGAL

Person Details (0)

[クイックビュー] タブのレコード詳細コンポーネント

[ネットワーク] ビューまたは[階層] ビューの[クイックビュー] タブに表示されるレコード詳細コンポーネントを作成できます。[クイックビュー] タブに表示されるレコード詳細コンポーネントは、レコードの詳細のサマリを表示します。

レコードビューのレイアウトを設計するときに、[ネットワーク] ビューまたは[階層] ビューの[クイックビュー] タブを設計するかどうかを選択します。

次の図は、[ネットワーク] ビューの[クイックビュー] タブの例を示します。

LEWIS,Alice.132

Active (5) Inactive (0) [Quick View](#)

▼ Test

First Name:

Alice

Middle Name:

Last Name:

LEWIS

Gender Cd:

FEMALE

▼ Org (1)

Rowid Rel Type ^	Rowid Hierarchy	Rel Name	Rel Desc
customer	Customer		

▼ Bill address (1)

Eff Start Date ^	Eff End Date	Opt In Ind	Preferred Ind
2002-04-08 00:00:00	2999-12-31 23:59:00		

▶ Email (0)

一致したレコード（詳細）

高度な機能を備えた一致したレコードコンポーネントは、マージ比較パネルを表示するプライマリコンポーネントです。一致したレコード（詳細）コンポーネントをカスタム一致したレコードビューのレイアウトまたはマージタスクのレイアウトに追加します。

Data Director ユーザーは、一致したレコード（詳細）コンポーネントを使用して、重複する可能性のあるレコードを追加するか、マスタレコードに関与するデータをオーバーライドまたは昇格します。次にマスタレコードをプレビューして、開いているレコードを重複レコードとマージします。

高度な機能を使用すると、ユーザーはレコードのルートレベルおよび子レベルで値を表示、オーバーライド、昇格できます。ルートレベルでユーザーに値の昇格のみを許可するには、一致したレコードコンポーネントを使用します。

次の図は、Data Director の一致したレコード（詳細）コンポーネントの例です。

Matching Records

Merge Preview Person: SMITH, JAMES Person: SMITH, JOHN

Record ID	1550	1842
Match Rule (Score)	N/A	N/A
Last Updated On	2012-06-05 01:28:03	2012-06-05 01:28:03
Record State	Active	Active
Party Type:	Person	Person
Last Name:	SMITH	SMITH
Display Name:	JAMES SMITH	JAMES SMITH
Middle Name:		MICHAEL
Birthdate:		
First Name:	JAMES	JOHN
Gender Cd:		

Show 5 records per page Previous 1 NEXT

一致したレコード

一致したレコードコンポーネントは、マージ比較パネルを表示するプライマリコンポーネントです。一致したレコードコンポーネントをカスタム一致したレコードビューのレイアウトまたはマージタスクのレイアウトに追加します。

Data Director ユーザーは、一致したレコードコンポーネントを使用して、重複レコードを追加し、マスターレコードに關与するデータをオーバーライドまたは昇格します。次にマスターレコードをプレビューして、開いているレコードを重複レコードとマージします。

Data Director ユーザーは、このコンポーネントを使用して、レコードのルートレベルで値をオーバーライドおよび昇格します。子レベルで値を表示、オーバーライド、昇格することをユーザーに許可するには、一致したレコード（詳細）コンポーネントを使用します。

次の図は、Data Director の一致したレコードコンポーネントの例です。

Matching Records (0)

Merge Add Candidate View

	JAMES SMITH	JOHN SMITH	Merge Preview
Record Type	Target Record	Manually Added	0 Candidates
Party Type	Person	Person	Person
Last Name	SMITH	SMITH	SMITH
Display Name	JAMES SMITH	JAMES SMITH	JAMES SMITH
Middle Name		MICHAEL	
Birthdate			
First Name	JAMES	JOHN	JAMES
Gender Cd			
▶ Emails	1	0	1
▶ PhoneNumbers	2	0	2
▶ Addresses	2	2	2
▶ Person Details	0	0	0

相互参照レコード

相互参照レコードコンポーネントは、マスタレコードに關与するソースデータを表示するプライマリコンポーネントです。このコンポーネントをカスタム相互参照レコードビューレイアウトまたはマージ解除タスクレイアウトに追加します。Data Director ユーザーは、このコンポーネントを使用してデータの統合を調整し、マージされたレコードを解除します。

次の図は、レコードビューでの相互参照レコードコンポーネントの例です。

Party Type	Last Name	Display Name	Middle Name	First Name
Person	JOSHI	ALOKJOSHI	Michael	ALOK
Person	JOSHI	ALOKJOSHI	M	ALOK

履歴

履歴コンポーネントは、レコードへの変更履歴を表示するプライマリコンポーネントです。履歴コンポーネントをカスタム履歴ビューに追加します。

次の図は、レコードビューでの履歴コンポーネントの例です。

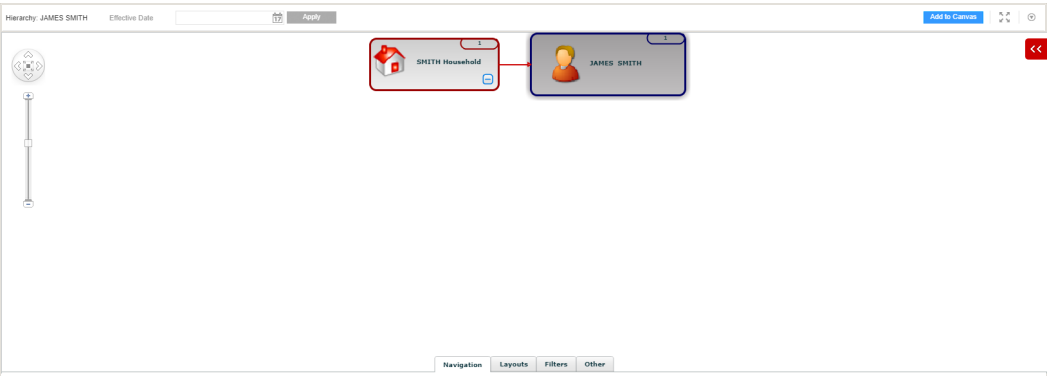
PhoneNumbers	Jun 5, 2012	Event
Phone Type:	BUSINESS	
Phone Country Cd:	1	
Phone Number:	(856)742-1865	

階層マネージャ

階層マネージャコンポーネントは、レコードと他のレコードとの関係を示す図を表示するプライマリコンポーネントです。階層マネージャコンポーネントをカスタム階層ビューに追加します。

関連レコードを表示するには、レコードビューのレイアウトのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、リレーションを定義します。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義します。

次の図は、レコードビューでの階層マネージャコンポーネントの例です。



セカンダリユーザーインタフェースコンポーネント

セカンダリコンポーネントをレイアウトに追加できます。セカンダリコンポーネントには、レイアウトデザイナーで使用するための設定が必要な場合があります。セカンダリコンポーネントを設定するには、コンポーネントエディタを使用します。

以下の表は、レイアウトデザイナーに表示されるセカンダリコンポーネントを示します。

セカンダリコンポーネント	説明	設定が必要か
チャート	レコード、タスク、またはマスタデータに関して収集したその他の種類の情報に関するデータを表示します。 作成した集計済み ActiveVOS データ、ビジネスエンティティデータ、またはカスタムデータを含むデータマートテーブルからチャートを作成します。	はい
一致レコード	選択したレコードに一致したレコードを表示します。	いいえ
ソースシステム	選択したレコードに関与するソースシステムを表示します。	いいえ

セカンダリコンポーネント	説明	設定が必要か
関連レコード	選択したレコードに関連するレコードを表示します。設定に基づいて、Data Director ユーザーは、コンポーネントを使用して、リレーションを追加、編集、または削除できます。	はい
関連タスク	選択したレコードに関連するすべてのタスクを表示します。BE-AVOS アダプタで作成されたタスクのみが表示されます。	いいえ
類似するレコード	ユーザーは、レコード作成前に類似するレコードを検索できます。作成するレコードに類似するレコードを表示します。	はい

チャート

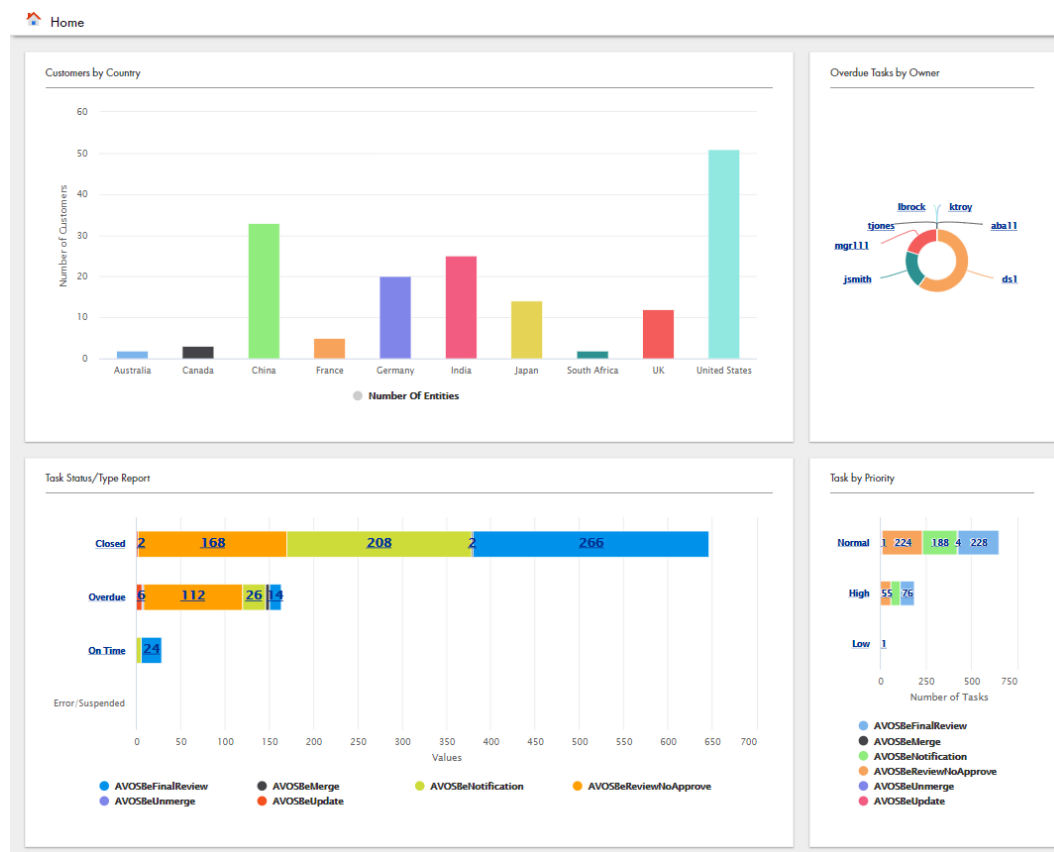
チャートコンポーネントは、**【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。このコンポーネントは、レポートデータを棒グラフや円グラフなどのチャートで表示します。

レポートから収集したデータをチャートに入力します。チャートで使用するレポートデータをフィルタリングおよびグループ化できます。チャートの外観をカスタマイズすることもできます。

チャートコンポーネントは、データの単一のレイヤを表示します。別のデータ粒度のレイヤを表示するには、チャートのデータをドリルダウンチャートにリンクします。参照されているレコードまたはタスクを表示するには、チャートのデータを Data Director のインタフェースにリンクします。**【クエリ】** タブ、**【検索】** タブ、またはタスクマネージャにリンクできます。

チャートコンポーネントを **【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

次の図は、チャートコンポーネントを含む Data Director の **【ホーム】** ページを示しています。



注: チャートにレポートデータを入力するには、データの収集に使用するレポートを登録する必要があります。詳細については、『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。

ソースデータ

チャートで使用するソースデータを選択します。ソースデータは、マスターデータに関する情報を収集するレポートから取得されます。チャートで使用するソースデータをフィルタリングまたはグループ化することもできます。

注: レポートを生成したりチャートを追加するには、先にデータマートデータベース接続を設定する必要があります。次に、データマートにレポートデータを入力できます。詳細については、『*Multidomain MDM のリソースキットガイド*』を参照してください。

レポート

追加設定なしで使用できるレポートを使用して、レコードとタスクに関する情報を収集できます。追加設定なしで使用できるレポートはデフォルトで使用でき、事前定義された条件に関する情報を収集します。マスターデータに関する他のタイプの情報を収集する必要がある場合は、カスタムレポートを作成できます。

例えば、レポートを使用して、各ユーザーに割り当てられたタスクの数に関する情報を収集できます。または、レポートを使用して、ビジネスエンティティタイプごとに追加されたレコードの数に関する情報を収集することもできます。

注: 追加設定なしで使用できるレポートと使用するカスタムレポートを登録する必要があります。詳細については、『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。

次の表に、追加設定なしで使用できるレポートを示します。

レポート ID	レポート	説明
MDM.RPT.1	ステータス別のタスクの概要	タスクの総数を表示し、ステータス別にタスクを分類します。各タスクステータスに割り当てられたユーザーにドリルダウンできます。
MDM.RPT.2	優先度別のタスクの概要	タスクの総数を表示し、優先度別にタスクを分類します。各タスク優先度に割り当てられたユーザーにドリルダウンできます。
MDM.RPT.4	年別の追加されたビジネスエンティティ	ビジネスエンティティタイプごとに追加されたレコードの数を表示し、年別にレコードを分類します。
MDM.RPT.5	顧客のオンボーディング時間	レコードの修飾にかかった時間を表示します。
MDM.RPT.6	ソースシステム別のビジネスエンティティ	各ソースシステムからの各ビジネスエンティティタイプのレコードの総数を表示します。詳細レポートは、ビジネスエンティティタイプとソースシステムの各ペアのレコードを年別に分類します。
MDM.RPT.7	ユーザー別の割り当てられたタスク	各ユーザーに割り当てられたタスクの総数を表示します。
MDM.RPT.8	ユーザーロール別の開いているタスク	ユーザーロール別の開いているタスクの総数を表示します。
MDM.RPT.10	ユーザー別の終了したタスク	ユーザー別の終了したタスクの総数を表示します。

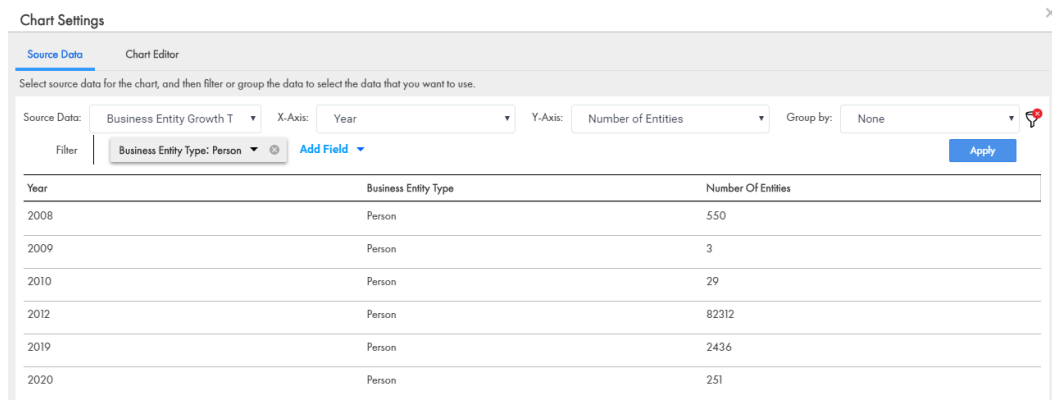
フィルタ

チャートのフォーカスを絞り込むために、チャートで使用されているソースデータをフィルタリングできます。レポートで収集されたデータディメンションでソースデータをフィルタリングできます。

例えば、追加設定なしで使用できる Business Entities Added レポートによって収集されたデータをチャートに入力できます。このレポートではビジネスエンティティタイプごとの追加されたレコードの数に関する情報を収集し、年別にレコードを分類します。このチャートは、すべてのビジネスエンティティタイプについてのビジネスエンティティの成長トレンドを示しています。ソースデータをフィルタリングして、Person ビジネスエンティティタイプ用に作成されたレコードのみを含めることができます。そうすると、このチャートは、Person ビジネスエンティティタイプについてのビジネスエンティティの成長トレンドを示します。

フィルタを使用して、新しいデータがチャートに含まれるようにすることもできます。例えば、Business Entities Added レポートで収集されたデータをチャートに入力し、データをフィルタリングして、Person ビジネスエンティティタイプ用に作成されたレコードのみを含めることができます。次に、ユーザーが Person ビジネスエンティティタイプの新しいレコードを作成すると、チャートに新しいデータが表示されます。

次の図は、Person ビジネスエンティティタイプ用に作成されたレコードの数を表示し、レコードを年ごとに分類したチャートを示しています。

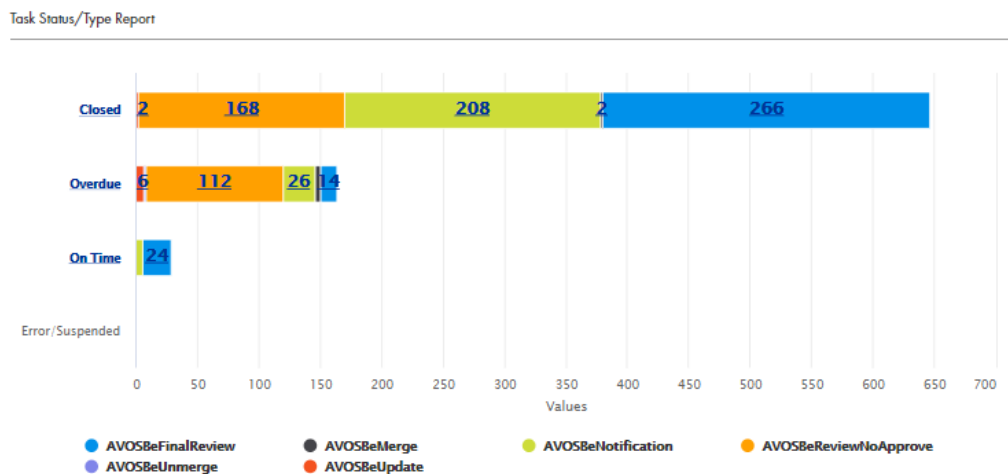


グループ化

データ系列のデータをグループに分割するには、基になるデータの条件によってチャートに表示されるソースデータをグループ化できます。グループ化されたデータは、横並びまたは積み重ねて表示されます。棒グラフにグループ化条件を使用することもできます。

例えば、ステータス別にタスクを表示し、タスクタイプ別にグループ化したチャートを作成できます。チャートにはタスクがステータス別に表示され、各ステータスに関するデータはタスクタイプごとにグループ化されます。

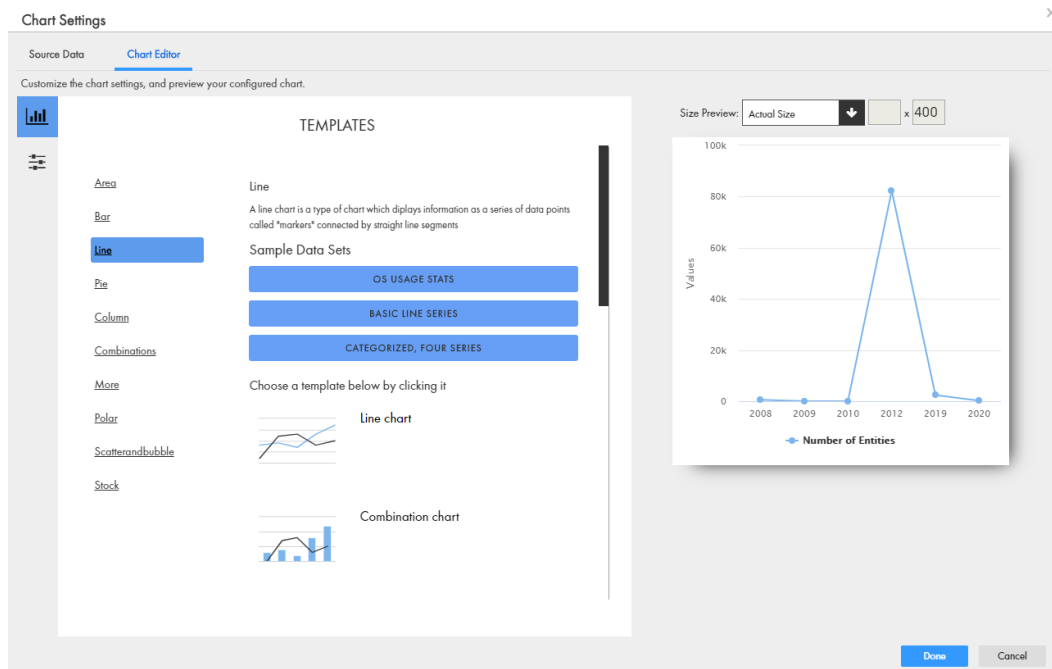
次の図は、データがグループ化されたチャートを示しています。



チャートエディタ

チャートのルックアンドフィールをカスタマイズできます。チャートのテンプレート、色、タイトルを選択できます。チャートをプレビューして、設定に基づいてソースデータがどのように表示されるかを確認することもできます。

次の図は、[チャートの設定] ダイアログボックスの [チャートエディタ] タブを示しています。



リンクされたチャート

チャートコンポーネントを設定するときに、ルートチャートを作成します。ルートチャートは、データの単一のレイヤを示します。ルートチャートのデータをドリルダウンチャートにリンクして、データの粒度の別のレイヤを表示できます。または、チャートのデータを、**【クエリ】** タブ、**【検索】** タブ、タスクマネージャなどの Data Director の別のインタフェースにリンクできます。

ルートチャートのデータをドリルダウンチャートにリンクすると、続けてドリルダウンチャートを他のドリルダウンチャートにリンクできます。または、ドリルダウンチャートを別のインタフェースにリンクできます。ルートチャートまたはドリルダウンチャートをインタフェースにリンクする場合、別のチャートまたは別のインタフェースへのリンクを作成することはできません。

ユーザーがドリルダウンチャートにリンクされているチャートのデータを選択すると、選択したデータに関する詳細情報を提供するドリルダウンチャートにドリルダウンします。ユーザーがインタフェースにリンクされているチャートのデータを選択すると、**【クエリ】** タブ、**【検索】** タブ、タスクマネージャなどのリンクされたインタフェースに移動します。設定済みのインタフェースが開き、事前定義された検索条件またはフィルタが表示されます。例えば、タスクマネージャは、Person ビジネスエンティティタイプの開いているタスクを表示する事前定義済みフィルタで開く場合があります。

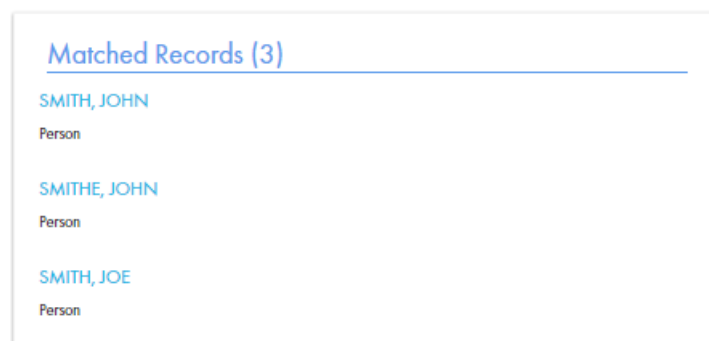
次の表は、チャートをリンクできるチャートとインタフェースを示します。

リンク先	説明	例
ドリルダウンチャート	選択されたデータに関する別のデータ粒度のレイヤを提供します。	開いているタスクをタスクタイプ別に表示するチャートがあるとして、ユーザーが自動マージタスクのデータセグメントを選択すると、ドリルダウンして、各ユーザーに割り当てられた自動マージタスクの総数をドリルダウンチャートで確認できます。
【クエリ】タブ	事前定義されたクエリパラメータで【クエリ】タブを開き、関連するレコードを表示します。	追加されたビジネスエンティティを表示するチャートがあるとして、ユーザーが Person ビジネスエンティティタイプのデータセグメントを選択すると、【クエリ】タブに移動します。【クエリ】タブには、Person ビジネスエンティティタイプのレコードが表示されます。
【検索】タブ	事前定義された検索条件で【検索】タブを開き、関連するレコードを表示します。	追加されたビジネスエンティティを表示するチャートがあるとして、ユーザーが 2019 に追加された Household ビジネスエンティティタイプのデータセグメントを選択すると、【検索】タブに移動します。【検索】タブには、Household ビジネスエンティティタイプの 2019 に追加されたレコードが表示されます。
タスクマネージャ	事前定義されたクイックフィルタタブとフィルタ条件でタスクマネージャを開き、関連するタスクを表示します。	割り当てられたタスクを優先度別に表示するチャートがあるとして、ユーザーが高優先度タスクのデータセグメントを選択すると、タスクマネージャに移動します。タスクマネージャに、割り当てられた高優先度タスクが表示されます。

一致レコード

一致レコードコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。このコンポーネントは、レコードビューで開かれるレコードの一致候補となるレコードの一覧を表示します。コンポーネント内の各一致レコードは、レコードビューで開くことができるリンクになっています。

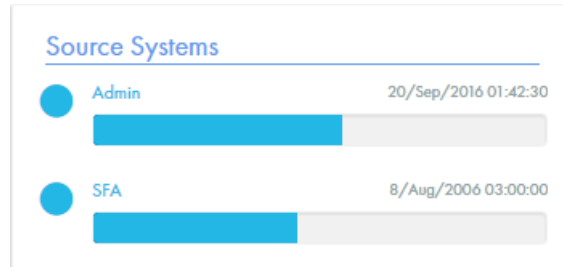
次の図は、レコードビューに表示される、John E. Smith の一致レコードコンポーネントの例です。



ソースシステム

ソースシステムコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。このコンポーネントは、レコードに関与したソースシステムを水平棒グラフで表示します。ソースシステムは、相互参照レコードの最大コントリビュータから最小コントリビュータの順に表示されます。

次の図は、レコードビューに表示されるソースシステムコンポーネントの例です。



関連レコード

関連レコードコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。このコンポーネントは、レコードビューで開かれるレコードと直接関連するレコードの一覧を表示します。コンポーネント内の各関連レコードは、レコードビューで開くことができるリンクになっています。

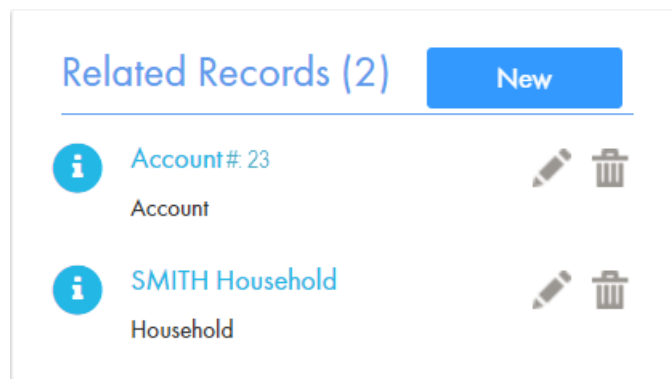
注: 関連レコードコンポーネントには、ユーザーが表示権限を持つレコードのみが表示されます。ユーザーがリレーションを追加、編集、削除するには、関連付ける必要のあるビジネスエンティティのタイプに対応したこれらの権限を持っている必要があります。権限を設定するには、MDM コンソールでセキュリティアクセスマネージャを使用します。詳細については、『*Multidomain MDM の設定ガイド*』を参照してください。

関連レコードコンポーネントは、表示モードまたは編集モードで使用できます。表示モードでは、ユーザーはレコードの表示のみを行えます。編集モードでは、ユーザーは、関連レコードコンポーネントに表示されるレコードのリレーションを追加、編集、および削除できます。

関連レコードコンポーネントをレコードビューのレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

関連レコードを表示するには、レコードビューのベースにするビジネスエンティティモデルに対して、リレーションを定義します。[モデリング] ページでビジネスエンティティモデルを作成し、ビジネスエンティティ間のリレーションを定義できます。

次の図は、レコードビューに個人レコードに関連するレコードを表示する、編集モードの関連レコードコンポーネントの例です。



関連タスク

関連タスクコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。このコンポーネントは、レコードビューで開かれるレコードに関連するすべてのタスクの一覧を表示します。コンポーネント内の各タスクは、タスクの詳細を表示するために開くことができるリンクになっています。

次の図は、レコードビューに表示される関連タスクコンポーネントの例です。

Related Tasks (3)		
	Task Title	Status
▼	SMITH, JOHN - Merge	Open
▼	SMITHE, JOE - Unmerge	Open
▼	SMITH, JOHN - Edit	Closed

類似するレコード

類似するレコードコンポーネントは、レコードビューのレイアウトに追加できるセカンダリコンポーネントです。レコードを作成すると、コンポーネントは作成するレコードに類似するレコードを表示します。コンポーネントに表示されるレコードを確認すると、作成するレコードが重複していないことを確認できます。

類似するレコードコンポーネントでは、レコードは情報アイコン付きのリンクとして表示されます。レコードをプレビューするには、情報アイコンをクリックします。レコードを開くには、レコードリンクをクリックします。

類似するレコードコンポーネントをレコードビューのレイアウトに追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

類似するレコードコンポーネントを設定して、以下の検索オプションのいずれかを使用できます。

検索

検索を使用して、類似するレコードを検索して表示します。検索は MDM Hub 環境で設定します。また、検索可能として識別されたビジネスエンティティフィールドのみを含むように、検索を設定する必要があります。検索の設定の詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。検索可能フィールドの詳細については、*Multidomain MDM のプロビジョニングツールガイド*を参照してください。

クエリ

クエリを使用して、類似するレコードを検索して表示します。クエリは一致ルールに基づきます。類似するレコードのクエリに使用する一致ルールセットが、MDM Hub 環境で設定されていることを確認します。クエリと一致ルールセットの詳細については、*Multidomain MDM の設定ガイド*を参照してください。

類似するレコードコンポーネントは、ビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューに設定できます。

類似するレコードコンポーネントをビジネスエンティティビューに設定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- ビジネスエンティティビューに含まれるフィールドを、検索の基準とします。

- 変換されて親レコードフィールドとして表示される、住所や電子メールなどの子レコードフィールドを検索の基準としないでください。

次の表で、類似するレコードコンポーネントの設定に使用できる XML 要素について説明します。

要素	説明
searchableFields	検索の基準となるフィールドを 1 つ以上指定します。searchableFields 要素は、field name 要素の一部です。
field name	類似するレコードの検索の基準となるフィールドの名前を指定します。field name 要素は searchableFields 要素の子です。複数の field name 要素を設定できます。
searchType	実行する検索のタイプを指定します。 searchType 要素には、次の子要素を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> smartSearch searchMatch
smartSearch	検索を使用して類似するレコードを検索することを指定します。
searchMatch	クエリを使用して類似するレコードを検索することを指定します。 searchMatch 要素には、次の子要素を含めることができます。 <ul style="list-style-type: none"> fuzzy matchRuleSet
fuzzy	あいまい検索を実行するかどうかを指定します。あいまい検索を実行するには、true に設定します。 fuzzy 要素は searchMatch 要素の子です。この要素を追加しないと、完全一致検索が実行されます。
matchRuleSet	類似するレコードの検索に使用する一致ルールセットの名前を指定します。 matchRuleSet 要素は searchMatch 要素の子です。
label	検索フィールドの値のラベル形式を指定します。ラベル形式を設定するには、existsFormat 属性を使用します。
column	ラベル形式で使用する単一の列を指定します。ラベルの列を設定するには、columnId 属性を使用します。これは、列の一意の ID です。column 要素は label 要素の子です。ラベルには、複数の列を指定できます。

次の図は、John Smith のレコードと類似する 3 つのレコードを持つ、類似するレコードコンポーネントを示しています。



関連項目：

- [「類似するレコードのコンポーネントの作成」 \(ページ 175\)](#)

検索を使用する類似するレコードの例

検索を使用する類似するレコードコンポーネントを設定する場合があります。検索可能なフィールドの姓名を、類似するレコードの検索の基準にするとします。smartSearch を searchType として指定します。

検索を使用する類似するレコードコンポーネントを設定するには、次のコードを使用します。

```
<config>
  <searchableFields>
    <field name="firstName"/>
    <field name="lastName"/>
  </searchableFields>

  <searchType>
    <smartSearch>
    </smartSearch>
  </searchType>

  <label existsFormat="{1} {2} {3}">
    <column columnUid="firstName" />
    <column columnUid="middleName" />
    <column columnUid="lastName" />
  </label>
</config>
```

クエリを使用する類似するレコードの例

クエリを使用する類似のレコードコンポーネントを設定する場合があります。検索可能なフィールドの姓名を、類似するレコードの検索の基準にするとします。searchMatch を searchType として指定します。

クエリを使用する類似するレコードコンポーネントを設定するには、次のコードを使用します。

```
<config>
  <searchableFields>
    <field name="firstName"/>
    <field name="lastName"/>
  </searchableFields>

  <searchType>
    <searchMatch>
      <fuzzy>true</fuzzy>
      <matchRuleSet>WS</matchRuleSet>
    </searchMatch>
  </searchType>

  <label existsFormat="{1} {2} {3}">
    <column columnUid="firstName" />
    <column columnUid="middleName" />
    <column columnUid="lastName" />
  </label>
</config>
```

例では、あいまい検索が設定されます。完全一致検索を設定する場合は、次の要素をコードから削除します：

```
<fuzzy>true</fuzzy>
```

カスタムユーザーインタフェースコンポーネント

グラフやソーシャルメディアフィードなどのカスタムコンポーネントをレイアウトに追加できます。必要なカスタムコンポーネントはコンポーネントエディタで設定できます。カスタムコンポーネントを設定したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

以下の表では、【ホーム】 ページ、追加ページ、またはレコードビューを設計するときに、レイアウトデザイナーに表示できるカスタムコンポーネントについて説明します。

カスタムコンポーネント	説明
外部リンク	Twitter フィードや Web ページなどのカスタム外部リソースを表示します。

重要: 設定したコンポーネント名が、どのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認します。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、どのカスタムコンポーネントにも Person という名前を付けないでください。

外部リンク

外部リンクコンポーネントは、【ホーム】 ページのレイアウト、追加ページのレイアウト、およびレコードビューのレイアウトに追加できるカスタムコンポーネントです。複数の外部リンクコンポーネントを作成できます。このコンポーネントは、外部 Web ページと RSS フィードを表示できます。

レコードに関連する Bing 検索ページや Twitter フィードなどの外部リソースを表示できます。ビジネスインテリジェンスツールの Jaspersoft を使用してレポートを作成および分析する場合は、外部リソースとして、それらのレポートを表示できます。

レイアウトに外部リンクコンポーネントを追加する前に、コンポーネントエディタでコンポーネントを作成します。外部リンクコンポーネントを作成するときは、外部 Web ページを埋め込むインラインフレームを使用するか、HTML コードと Javascript を使用します。コンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

関連項目：

- [「外部リンクコンポーネントの作成」 \(ページ 176\)](#)

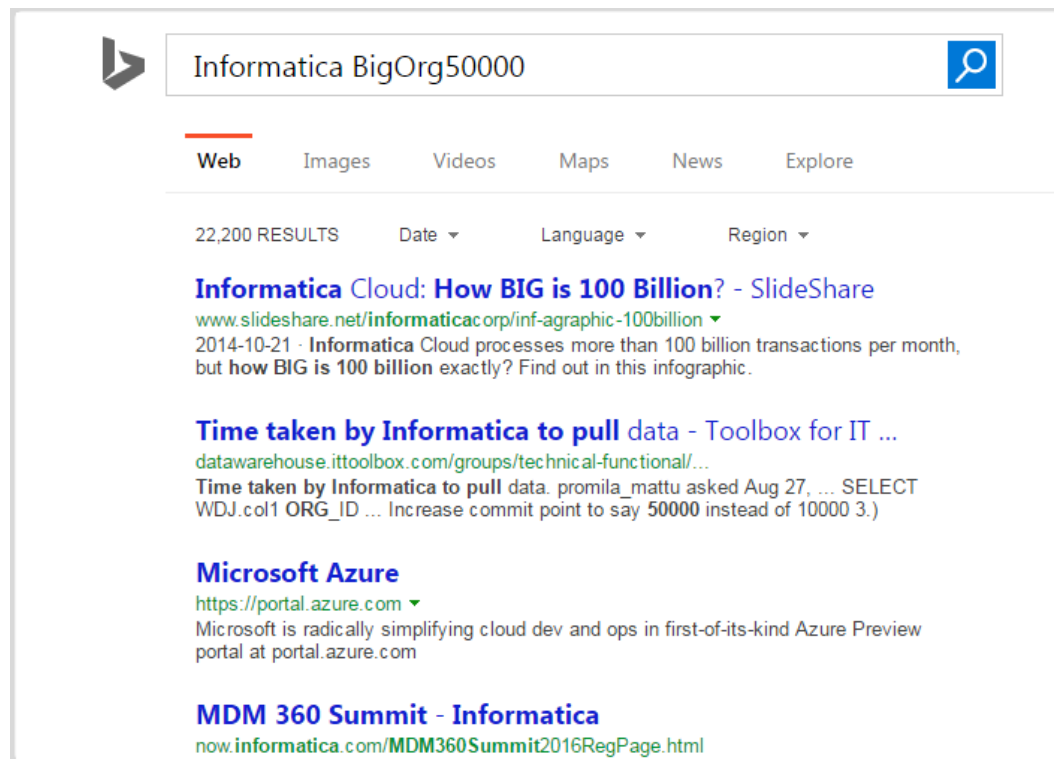
Web ページの埋め込み例

Bing 検索ページを表示してビジネスエンティティの表示名が読み込まれるように、インラインフレームを設定するとします。

次のサンプルコードは、Bing 検索ページをエンティティビューに表示させるために必要な、インラインフレーム設定を示しています。

```
<style>
  #box {
    height: 500px;
    overflow: auto;
  }
</style>
<div id="box">
  <iframe src="http://www.bing.com/search?q=Informatica+{{displayName}}"
    allowtransparency="true" frameborder="0" scrolling="no"
    style="border:none;overflow:auto;height:100%;width:100%" >
  </iframe>
</div>
```


次の図は、エンティティビューに表示される Bing 検索ページを示しています。



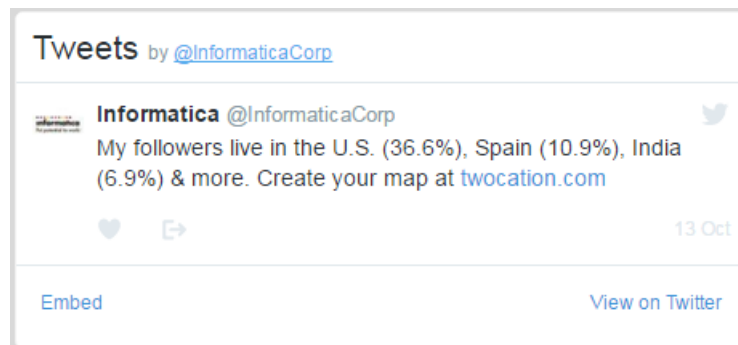
RSS フィードの設定例

ビジネスエンティティに属する Twitter フィードを表示するとします。HTML および Javascript を使用して、Twitter フィードがどのように表示されるかを設定します。

次のサンプルコードは、Twitter フィードをエンティティビューに表示させるために必要な HTML と Javascript コードを示しています。

```
<div>
  <a target='_blank' class="twitter-timeline" href="https://twitter.com/{{taxID}}"
    data-screen-name="{{taxID}}" data-tweet-limit="5" data-show-replies="false"
    data-widget-id="47318108875222208">Tweets by {{displayName}}
  </a>
  <script>!function(d,s,id){
    var widgetElem = d.getElementById(id);
    if (widgetElem) {
      var widgetParent = widgetElem.parentNode;
      widgetParent.removeChild(widgetElem);
    }
    var js,
    fjs=d.getElementsByTagName(s)[0],
    p=/^http/.test(d.location)?'http':'https';
    js=d.createElement(s);
    js.id=id;
    js.src=p+"://platform.twitter.com/widgets.js";
    fjs.parentNode.insertBefore(js,fjs);
  }(document,"script","twitter-wjs");
  </script>
</div>
```

次の図は、エンティティビューに表示される Twitter フィードを示しています。



例の Twitter API コードの詳細については、埋め込みタイムラインに関する Twitter のドキュメントを参照してください。

Data Director のユーザーインターフェースの設計方法

【ホーム】 ページ、追加ページ、およびレコードビューの Data Director ユーザーインターフェースレイアウトを設計し、更新します。

レイアウトを設計および更新するには、次のタスクを実行します。

1. レコードに関連するデータを表示するカスタムコンポーネントが必要な場合は、カスタムコンポーネントを作成します。
2. レイアウトを設計し、コンポーネントをそのレイアウトに追加して、変更をパブリッシュします。
3. 要件を満たすために、さらにレイアウトを変更する必要がある場合は、レイアウトを更新して、その変更をパブリッシュできます。

Data Director アプリケーションの作成

設計するユーザーインターフェースレイアウトを Data Director アプリケーションに関連付ける必要があります。Data Director アプリケーションを作成するには、アプリケーションエディタを使用します。

1. **【データベース】** リストから、設定に関連付けるデータベースを選択します。
2. **【設定】** > **【アプリケーションエディタ】** をクリックします。
【アプリケーション】 ページが表示されます。
3. **【作成】** をクリックします。
4. **【プロパティ】** パネルで以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[アプリケーション] パネルに表示されるアプリケーションの名前。
表示名	Data Director に表示されるアプリケーションの名前。

プロパティ	説明
ソースシステム	アプリケーションを関連付けるソースシステム。
セッションタイムアウト（分）	アイドル状態の Data Director セッションがタイムアウトするまでに待機する分単位の時間。
デフォルトのレコードビューを表示	Data Director でデフォルトのレコードビューを有効にします。デフォルトのレコードビューは、開いているレコードのタブとして表示されます。
スマート検索	Data Director のナビゲーションバーで 【検索】 メニューオプションを有効にします。
クエリ	Data Director のナビゲーションバーで 【クエリ】 メニューオプションを有効にします。
アプリケーションでのクエリダイアログ	<p>【スマート検索】 および 【クエリ】 オプションの両方を有効にした場合は、このオプションが表示されます。</p> <p>【一致したレコード】 などのレコードビュー内のレコードを検索する場合や 【関連レコード】 などのコンポーネントを使用する場合に、クエリの使用を許可するには、【アプリケーションでのクエリダイアログ】 オプションを有効にします。</p> <p>注: 【クエリ】 と 【検索】 メニューオプションの両方が Data Director のナビゲーションバーに表示されます。</p>

5. **【適用】** をクリックします。
作成したアプリケーションが **【ツリービュー】** パネルと **【アプリケーション】** パネルに表示されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

タスクインボックスのコンポーネントの設定

タスクインボックスのコンポーネントをコンポーネントエディタで作成します。タスクインボックスのコンポーネントを作成すると、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。タスクインボックスにカラムと定義済みフィルタとして表示するフィールドを設定できます。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【タスクインボックス】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【プロパティ】 パネルには、**【基本】** および **【詳細】** タブが表示されます。ユーザーインターフェースでタスクインボックスを設定するには、**【基本】** タブを使用します。XML コードでタスクインボックスを設定するには、**【詳細】** タブを使用します。[「タスクインボックスを設定する XML コード」](#)（ページ 173）を参照してください。
3. **【基本】** タブで、タスクインボックスコンポーネントの名前を入力します。

4. タスクインボックスコンポーネントのフィールドを設定するには、**【表示フィールド】** フィールドで **【編集】** をクリックします。

【テーブル設定】 ダイアログボックスが表示されます。

- フィールドを追加または削除するには、フィールドを選択し、必要なセクションにドラッグします。
- フィールドの順序を設定するには、フィールドを上下に移動します。

5. **【OK】** をクリックします。

6. タスクインボックスコンポーネントのフィルタを設定するには、**【表示フィルタ】** フィールドで **【編集】** をクリックします。

【テーブル設定】 ダイアログボックスが表示されます。

- フィルタを追加または削除するには、フィルタを選択し、必要なセクションにドラッグします。
- フィルタの順序を設定するには、フィルタを上下に移動します。

7. **【OK】** をクリックします。

8. **【適用】** をクリックします。

9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

作成してパブリッシュしたタスクインボックスコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルに表示されます。

関連項目：

- [「プライマリユーザーインタフェースコンポーネント」 \(ページ 150\)](#)

タスクインボックスを設定する XML コード

タスクインボックス設定ページの【詳細】タブで、XML コードを使用してタスクインボックスを設定します。

次の表に、タスクインボックスを設定するために XML コードで使用する要素をリストします。

要素	説明
displayFields	タスクインボックスに表示するフィールドの名前。 次のいずれかのフィールドを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- TASK_TITLE。確認タスクの簡単な説明。- TYPE。プロセス内のユーザーアクティビティの名前。- PRIORITY。タスクの優先度。- DUE_DATE。タスクの期限となっている日付。- OWNER。サインインしたユーザーの名前。- TASK_ID。タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。- STATUS。タスクのステータス。- CREATOR。タスクを作成したユーザーの名前。- CREATION_DATE。ユーザーがタスクを作成した日付。
displayFilters	タスクインボックスに表示するフィルタ。 次のフィルタのいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- MY_OPEN_TASKS。開いているタスクを表示します。- MY_CLOSED_TASKS。終了したタスクを表示します。- ALL_TASKS。ユーザーグループに割り当てられた、終了したタスク、引き受け処理したタスク、引き受け解除したタスクをすべて表示します。- ALL_UNCLAIMED_TASKS。ユーザーグループに割り当てられた、引き受け解除したタスクをすべて表示します。- ALL_CLOSED_TASKS。ユーザーグループ内のユーザーが終了したすべてのタスクを表示します。- ALL_CLAIMED_TASKS。ユーザーグループ内のユーザーが引き受け処理したすべてのタスクを表示します。
excludeTaskTypes	タスクインボックスに表示しないタスクタイプ。

次のサンプル XML コードには、タスクインボックス内のすべてのフィールドとフィルタが含まれ、ドラフトおよびマージタスクが除外されています。

```
<dataViewLayout xmlns="http://www.informatica.com/mdm/TaskInbox">
  <taskInboxConfig>
    <displayFields>TASK_TITLE</displayFields>
    <displayFields>TYPE</displayFields>
    <displayFields>PRIORITY</displayFields>
    <displayFields>DUE_DATE</displayFields>
    <displayFields>OWNER</displayFields>
    <displayFields>TASK_ID</displayFields>
    <displayFields>STATUS</displayFields>
    <displayFields>CREATOR</displayFields>
    <displayFields>CREATION_DATE</displayFields>
    <displayFilters>MY_OPEN_TASKS</displayFilters>
    <displayFilters>MY_CLOSED_TASKS</displayFilters>
    <displayFilters>ALL_TASKS</displayFilters>
    <displayFilters>ALL_UNCLAIMED_TASKS</displayFilters>
    <displayFilters>ALL_CLOSED_TASKS</displayFilters>
    <displayFilters>ALL_CLAIMED_TASKS</displayFilters>
    <excludeTaskTypes>AVOSBeDraftState</excludeTaskTypes>
    <excludeTaskTypes>AVOSBeMerge</excludeTaskTypes>
  </taskInboxConfig>
</dataViewLayout>
```

関連レコードのコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで関連レコードのコンポーネントを作成します。関連レコードのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. **【設定】 > 【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. 関連レコードのコンポーネントを作成します。
 - a. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【関連レコード】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
 - b. **【プロパティ】** パネルで、以下の関連レコードのコンポーネントのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	【コンポーネントエディタ】 パネルに表示される関連レコードのコンポーネントの名前。
ラベル	レイアウトデザイナーのワークスペースでコンポーネントのコンポーネントリストに表示される関連レコードコンポーネントのラベル。
オーナーディレクション	関連レコードコンポーネントで、レコード間のリレーションの方向が認められるかどうかを指定します。 有効にすると、コンポーネントは選択したレコードの子である関連レコードを表示します。
読み取り専用	関連レコードコンポーネントの関連するレコードを、ユーザーが編集できるかどうかを指定します。コンポーネントを編集不可コンポーネントとして設定するには、プロパティを有効にします。

- c. **【適用】** をクリックします。
作成した関連レコードコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
3. 関連レコードのコンポーネントに表示されるビジネスエンティティのフィルタを作成します。
 - a. **【ツリービュー】** パネルで **【フィルタ】** をクリックし、**【作成】** をクリックします。
フィルタのプロパティが **【プロパティ】** パネルに表示されます。
 - b. **【名前】** フィールドに、フィルタの名前を入力します。
 - c. **【オブジェクトタイプ】** リストから以下のいずれかのフィルタタイプを選択します。

フィルタタイプ	説明
リレーション	リレーションタイプに基づいてフィルタリングする。
ビジネスエンティティ	ビジネスエンティティに基づいてフィルタリングする。

【リレーション】 を選択すると、リレーション名が **【オブジェクト】** リストに表示されます。**【ビジネスエンティティ】** を選択すると、ビジネスエンティティ名が **【オブジェクト】** リストに表示されます。

- d. **【値】** リストから項目を選択し、**【適用】** をクリックします。
関連レコードのコンポーネントでビジネスエンティティについて複数のフィルタを作成できます。

4. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

作成してパブリッシュした関連レコードコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルに表示されます。

類似するレコードのコンポーネントの作成

類似するレコードのコンポーネントをコンポーネントエディタで作成します。類似するレコードのコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【類似するレコード】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【プロパティ】 パネルにプロパティフィールドが表示されます。
3. 類似するレコードコンポーネントの名前を入力します。
4. **【XML】** フィールドに、類似するレコードを検索するフィールドのリストが含まれる以下の XML 設定を入力します。

```
<config>
  <searchableFields>
    <field name="<field name 1>" />
    <field name="<field name 2>" />
    ...
    <field name="<field name n>" />
  </searchableFields>

  <searchType>
    ...
  </searchType>

  <label existsFormat="{1} {2} {3}">
    <column columnUid="<field name 1>" />
    <column columnUid="<field name 2>" />
    <column columnUid="<field name 3>" />
  </label>
</config>
```

ここで、<field name>は類似するレコードの検索の基準となるフィールドの名前です。ビジネスエンティティモデル内の検索可能に設定されているフィールド名に基づいて、類似するレコードを検索できます。また検索フィールド値の表示形式を指定する必要があります。

5. **【適用】** をクリックします。
作成した類似するレコードのコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルと **【ツリービュー】** パネルに表示されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

関連項目：

- [「類似するレコード」 \(ページ 165\)](#)

外部リンクコンポーネントの作成

コンポーネントエディタで外部リンクコンポーネントを作成します。外部リンクコンポーネントを作成すると、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. [コンポーネント] タイプのリストから **【外部リンク】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
[プロパティ] パネルにプロパティフィールドが表示されます。
3. 以下のコンポーネントのプロパティを指定します。

プロパティ	説明
名前	[コンポーネントエディタ] パネルに表示される外部リンクコンポーネントの名前。
コード	外部リソースを表示するためのコード。外部 Web ページを埋め込むインラインフレームを使用したり、HTML コードと Javascript を使用したりできます。 注: コンポーネントを作成する外部リソースで高さが事前定義されていない場合、コードでコンポーネントの高さを指定します。

4. **【適用】** をクリックします。
作成した外部リンクコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルと [ツリービュー] パネルに表示されます。
5. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

関連項目：

- [「外部リンク」 \(ページ 168\)](#)

チャートコンポーネントの作成

チャートコンポーネントをコンポーネントエディタで作成します。チャートで使用するソースデータとチャートの外観を設定できます。チャートコンポーネントを作成したら、そのコンポーネントがレイアウトデザイナーに表示されます。

開始する前に、チャートで使用するレポートを登録します。詳細については、『*Multidomain MDM* ビジネスエンティティのサービスガイド』を参照してください。

1. **【設定】 > 【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. **【コンポーネント】** タイプのリストから **【チャート】** を選択し、**【作成】** をクリックします。
【ツリービュー】 パネルにチャートノードが表示されます。
3. **【プロパティ】** パネルの **【チャート名】** フィールドにチャートの名前を入力します。
4. **【表示名】** フィールドに、チャートの表示名を入力します。
5. チャートを設定するには、**【ソースデータ】** フィールドで **【選択】** を選択します。
【チャートの設定】 ダイアログボックスが表示されます。
6. 使用するソースデータを設定します。
 - a. **【ソースデータ】** リストから、チャートで使用するデータを含むレポートを選択します。
注: 登録したレポートが **【ソースデータ】** リストに表示されます。レポートの登録の詳細については、*Multidomain MDM* ビジネスエンティティのサービスガイドを参照してください。
【X 軸】 と **【Y 軸】** のリストに、レポートに定義された軸が表示されます。
 - b. チャートで使用するレポートデータをフィルタリングするには、**【フィルタ】** アイコンをクリックし、フィルタを追加します。
テーブルは、選択したフィルタに基づいてレポートデータをフィルタリングします。
 - c. 基になるデータの条件によってレポートデータをグループ化するには、**【グループ化】** リストで条件を選択します。
テーブルは、選択したグループ化条件に基づいてレポートデータをグループ化します。

次の図は、フィルタリングされたレポートデータを含む **【ソースデータ】** タブを示しています。

Chart Settings

Source Data | Chart Editor

Select source data for the chart, and then filter or group the data to select the data that you want to use.

Source Data: Task Status/Type Report X-Axis: Task Status Y-Axis: Number of tasks Group by: None

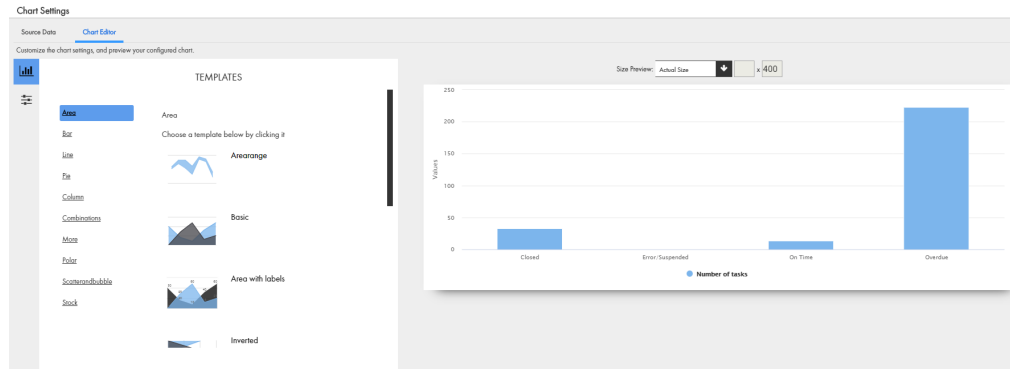
Filter: Task Type: FinalReview Add Field Apply

Task Status	Task Type	Number Of Tasks
Overdue	FinalReview	0
On Time	FinalReview	2
Error/Suspended	FinalReview	0
Closed	FinalReview	11

【ソースデータ】 タブに、チャートで使用するレポートデータが表示されます。

7. チャートテンプレートを設定し、チャートをカスタマイズします。
 - a. **【チャートエディタ】** をクリックします。
 - b. 使用するチャートテンプレートを選択します。
 - c. **【チャートのカスタマイズ】** タブをクリックして、チャートをカスタマイズします。
例えば、チャートのタイトルと外観を設定できます。
 - d. チャートをプレビューして、想定どおりに表示されることを確認します。

次の図は、チャートのプレビューが表示された **【チャートエディタ】** タブを示しています。



【チャートエディタ】 タブに、チャートのプレビューが表示されます。

8. **【完了】** をクリックします。
【プロパティ】パネルで、フィールドに選択内容が表示されます。
9. **【適用】** をクリックします。
10. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

作成してパブリッシュしたチャートコンポーネントが **【コンポーネントエディタ】** パネルに表示されます。チャートコンポーネントを **【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できます。

チャートをドリルダウンチャートまたは Data Director の別のインタフェースにリンクできます。

【クエリ】 タブへのリンクの詳細については、[「チャートから【クエリ】タブへのリンク」](#) (ページ 180) を参照してください。

【検索】 タブへのリンクの詳細については、[「チャートから【検索】タブへのリンク」](#) (ページ 181) を参照してください。

【タスクマネージャ】 へのリンクの詳細については、[「チャートからタスクマネージャへのリンク」](#) (ページ 182) を参照してください。

チャートからドリルダウンチャートへのリンク

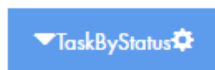
チャートをドリルダウンチャートへリンクします。Data Director ユーザーがチャートのデータを選択すると、ドリルダウンして別のデータ粒度のレイヤをドリルダウンチャートに表示します。

開始する前に、**【チャート】** コンポーネントを作成します。詳細については、『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. コンポーネントタイプリストから **【チャート】** を選択してから、設定するチャートコンポーネントを選択します。
[ツリービュー] パネルに **【チャート】** ノードが表示されます。
3. チャートをドリルダウンチャートにリンクしてから、ドリルダウンチャートを設定します。
 - a. [ツリービュー] パネルで、**【追加】** アイコンをクリックし、チャートとリンクするドリルダウンチャートを選択します。
注: 使用可能なドリルダウンチャートは、レポート設定によって異なります。詳細については、『*Multidomain MDM ビジネスエンティティのサービスガイド*』を参照してください。
[ツリービュー] パネルにドリルダウンチャートノードが表示されます。
 - b. 必要に応じて、使用するソースデータを設定します。**【ソースデータ】** フィールドで、ソースデータリンクをクリックし、ソースデータを設定します。
例えば、軸、グループ化条件、フィルタを設定できます。
 - c. 必要に応じて、チャートをカスタマイズします。**【チャートエディタ】** をクリックして、チャートをカスタマイズします。
例えば、チャートテンプレートやチャートの外観を設定できます。
 - d. **【完了】** をクリックします。

次の図は、ドリルダウンチャートにリンクされたチャートの例を示しています。

TaskByStatus



▼Task's Owner per Task Status and Task Type

[ツリービュー] パネルにドリルダウンチャートノードが表示されます。

4. 必要に応じて、設定したドリルダウンチャートをドリルダウンチャートにリンクするには、手順 [3](#) を繰り返します。
[ツリービュー] パネルにドリルダウンチャートノードが表示されます。
5. **【適用】** をクリックします。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

チャートコンポーネントを更新し、チャートをドリルダウンチャートにリンクしました。チャートコンポーネントを **【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できます。

チャートをドリルダウンチャートまたは Data Director の別のインタフェースにリンクできます。

【クエリ】 タブへのリンクの詳細については、[「チャートから【クエリ】タブへのリンク」](#) (ページ 180)を参照してください。

【検索】 タブへのリンクの詳細については、[「チャートから【検索】タブへのリンク」](#) (ページ 181)を参照してください。

【タスクマネージャ】 へのリンクの詳細については、[「チャートからタスクマネージャへのリンク」](#) (ページ 182)を参照してください。

チャートから **【クエリ】** タブへのリンク

チャートを **【クエリ】** タブにリンクし、クエリの検索条件を設定します。Data Director ユーザーがチャートでデータを選択すると、**【クエリ】** タブに移動します。**【クエリ】** タブに、検索条件に基づくクエリ結果が表示されます。

開始する前に、チャートコンポーネントを作成します。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. コンポーネントタイプリストから **【チャート】** を選択してから、設定するチャートコンポーネントを選択します。
[ツリービュー] パネルに **【チャート】** ノードが表示されます。
3. [ツリービュー] パネルで、**【追加】** アイコンをクリックし、**【クエリ】** を選択します。
[ツリービュー] パネルにクエリノードが表示されます。
4. [プロパティ] パネルで、**【追加】** アイコンをクリックします。
【新しいクエリ】 ダイアログボックスが表示されます。
5. クエリの検索条件を設定します。
 - a. **【ビジネスエンティティ】** リストから、検索を実行するビジネスエンティティを選択します。
 - b. クエリタイプを選択します。

クエリタイプ	説明
基本	クエリ値を含むレコードを見つけるには簡単なテキスト比較を使用します。
拡張	クエリ値を含むレコードを見つけるには一致する論理と一致が有効な属性を使用します。

- c. 拡張クエリタイプを選択した場合は、**【一致ルールセット】** リストから一致するルールセットを選択します。
- d. クエリの検索条件として含めるフィールドを選択します。
- e. **【選択したフィールド】** セクションで、フィールドをドラッグして並び順を再調整します。
- f. クエリで大文字と小文字を区別するには、**【大文字小文字の区別】** オプションを有効にします。
- g. 検索結果をソートするには、**【ソート基準】** リストから、検索結果のソート基準にするフィールド名を選択します。

- h. クエリのソート順を、昇順または降順になるように選択します。
 - i. **【ビジネスエンティティ】** リストから、検索を実行するビジネスエンティティを選択します。
 - j. **【OK】** をクリックします。
6. **【適用】** をクリックします。
7. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

チャートコンポーネントを更新し、チャートを **【クエリ】** タブにリンクしました。チャートコンポーネントを **【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できます。

チャートから **【検索】** タブへのリンク

チャートを **【検索】** タブにリンクし、検索条件を設定します。Data Director ユーザーがチャートでデータを選択すると、**【検索】** タブに移動します。**【検索】** タブに、検索条件に基づく検索結果が表示されます。

開始する前に、チャートコンポーネントを作成します。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. コンポーネントタイプリストから **【チャート】** を選択してから、設定するチャートコンポーネントを選択します。
[ツリービュー] パネルに [チャート] ノードが表示されます。
3. [ツリービュー] パネルで、**【追加】** アイコンをクリックし、**【検索】** を選択します。
[ツリービュー] パネルに検索ノードが表示されます。
4. 検索条件を設定します。
 - a. **【ビジネスエンティティ】** フィールドで、検索条件として使用するビジネスエンティティのタイプを選択します。
 - b. **【検索入力】** フィールドで、検索条件として使用するレポート内の基になるデータを選択します。
例えば、都市別の顧客分布のレポートがある場合、顧客のビジネスエンティティと都市名の検索入力を選択できます。
5. **【適用】** をクリックします。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

チャートコンポーネントを更新し、チャートを **【検索】** タブにリンクしました。チャートコンポーネントを **【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できます。

チャートからタスクマネージャへのリンク

チャートをタスクマネージャにリンクし、フィルタ条件を設定します。Data Director ユーザーがチャートでデータを選択すると、**【タスクマネージャ】** タブに移動します。**【タスクマネージャ】** タブには、設定されたフィルタ条件に基づいてタスクが表示されます。

開始する前に、チャートコンポーネントを作成します。

1. **【設定】** > **【コンポーネントエディタ】** をクリックします。
コンポーネントエディタが表示されます。
2. コンポーネントタイプリストから**【チャート】** を選択してから、設定するチャートコンポーネントを選択します。
[ツリービュー] パネルに**【チャート】** ノードが表示されます。
3. [ツリービュー] パネルで、**【追加】** アイコンをクリックし、**【タスクマネージャ】** を選択します。
[ツリービュー] パネルにタスクマネージャノードが表示されます。
4. タスクマネージャのフィルタ条件を設定します。
 - a. **【タスクマネージャタブ】** フィールドで、タスクマネージャで開くクイックフィルタタブを選択します。
 - b. 必要に応じて、検索語句を使用してタスクをフィルタリングするには、**【検索条件】** フィールドに検索語句を入力します。
 - c. 必要に応じて、カスタムフィルタを使用してタスクをフィルタリングするには、**【フィルタ】** セクションで**【追加】** アイコンをクリックし、フィルタを設定します。
例えば、**【すべてのタスク】** タブを選択し、検索チームとして「John」と入力して、タスクタイプフィルタを追加します。
5. **【適用】** をクリックします。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

チャートコンポーネントを更新し、チャートをタスクマネージャにリンクしました。チャートコンポーネントを**【ホーム】** ページレイアウトまたは追加ページレイアウトに追加できます。

ホームページのレイアウトの設計

Data Director に複数の**【ホーム】** ページを設計できます。**【ホーム】** ページにアクセスできるロールを設定できます。例えば、タスクインボックスとチャートを表示する**【ホーム】** ページのレイアウトをアカウントマネージャに設計します。

注: ホームページを設計しない場合、Data Director アプリケーションは従来のスタートページを表示します。

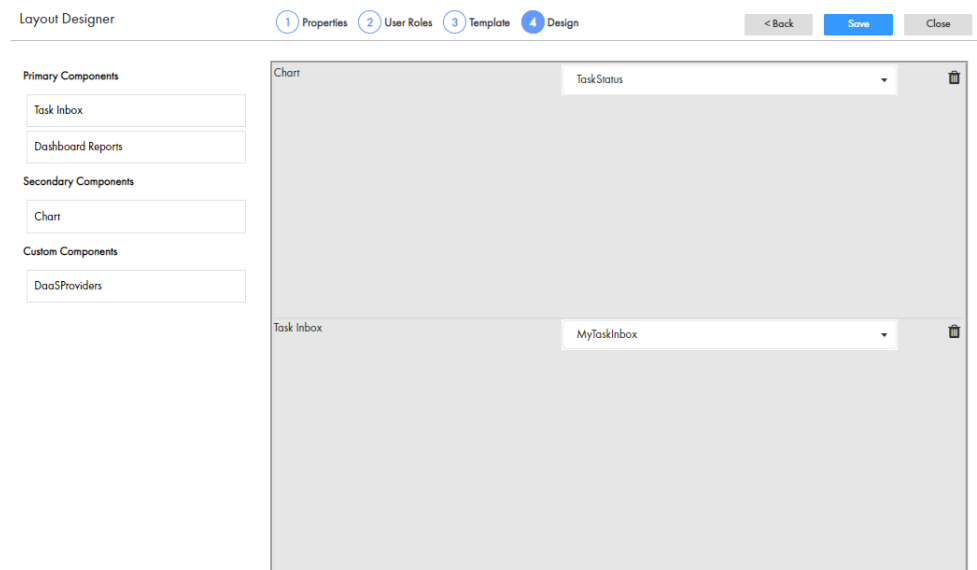
1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】** > **【ホームページのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。

3. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、レイアウト名が【 レイアウトカテゴリ 】パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。

4. 【次へ】をクリックします。
【ユーザーロール】ページが表示されます。
5. 【ホーム】ページにアクセスできるユーザーロールを選択します。
【ユーザーロール】ページに表示されるユーザーロールは、MDM Hub で設定します。
6. 【次へ】をクリックします。
【テンプレート】ページが表示されます。
7. 【ホーム】ページに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、【次へ】をクリックします。
【デザイン】ページが表示されます。
8. 【ホーム】ページのレイアウトに必要なコンポーネントをワークスペース内にドラッグします。
例えば、【タスクインボックス】コンポーネントと【チャート】コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに【タスクインボックス】コンポーネントと【チャート】コンポーネントがある【デザイン】ページです。



9. 【保存】をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

10. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーが Data Director にログインすると、そのユーザーロール用に設計された **【ホーム】** ページが表示されます。

関連項目：

- [「ホームページレイアウト」](#) (ページ 143)

追加ページのレイアウトの設計

レイアウトデザイナーで Data Director の複数のページを設計できます。追加ページにアクセスできるロールを設定できます。例えば、タスクインボックスと外部検索を表示する顧客用の追加ページのレイアウトを設計できます。

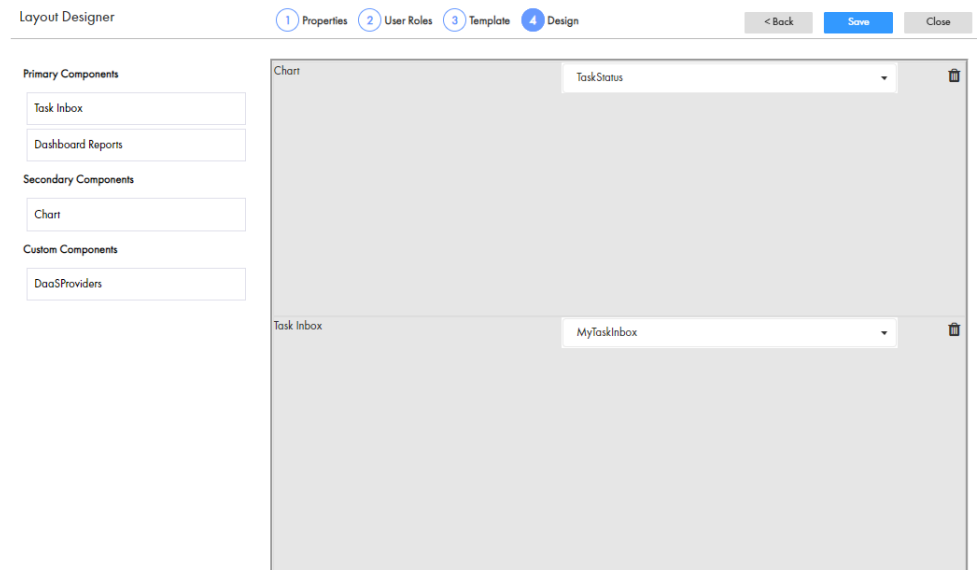
1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】** > **【追加ページのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
タブ名	作成して追加ページに関連付けるページタブのラベル。Data Director では、カスタムタブがナビゲーションバーに表示されます。ユーザーはカスタムタブをクリックして、関連付けられた追加ページを表示します。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、レイアウト名が 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。

4. レイアウトに関連付ける Data Director アプリケーションを選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
6. 追加ページにアクセスできるユーザーロールを選択します。
【ユーザーロール】 ページに表示されるユーザーロールは、MDM Hub で設定します。
7. **【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。

8. 追加ページに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
9. 追加ページのレイアウトに必要なコンポーネントをワークスペース内にドラッグします。
例えば、**【タスクインボックス】** コンポーネントと **【チャート】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに **【タスクインボックス】** コンポーネントと **【チャート】** コンポーネントがある **【デザイン】** ページです。



10. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。Data Director で、ナビゲーションバーの関連するカスタムタブに追加ページが表示されます。

ビジネスエンティティビューのレイアウトの設計

デフォルトのビジネスエンティティビューを置き換えるには、カスタムレコードビューレイアウトを設計します。レコードの詳細コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】** > **【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。

【プロパティ】 ページが表示されます。

3. 【レイアウトタイプ】 リストから【レコードビューと確認タスク】を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの【レイアウトカテゴリ】パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の【ビュー】リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューを選択します。
例えば、【Person】を選択します。

5. 【次へ】をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、【次へ】をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
7. ユーザーがこのレコードビューレイアウトを使用して実行できるアクションを選択します。
 - レコードを作成するには、【レコードの作成】を選択します。
 - レコードを表示または編集するには、【レコードの表示または編集】を選択します。
 - レコードを作成、表示、編集するには、【レコードの作成】および【レコードの表示または編集】を選択します。**ヒント:** ビジネスエンティティビューと確認タスクに同じレイアウトを使用するには、レイアウトデザイナーの【目的】 ページですべてのオプションを選択します。
8. 【次へ】をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
9. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、【次へ】をクリックします。
ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。
【デザイン】 ページが表示されます。

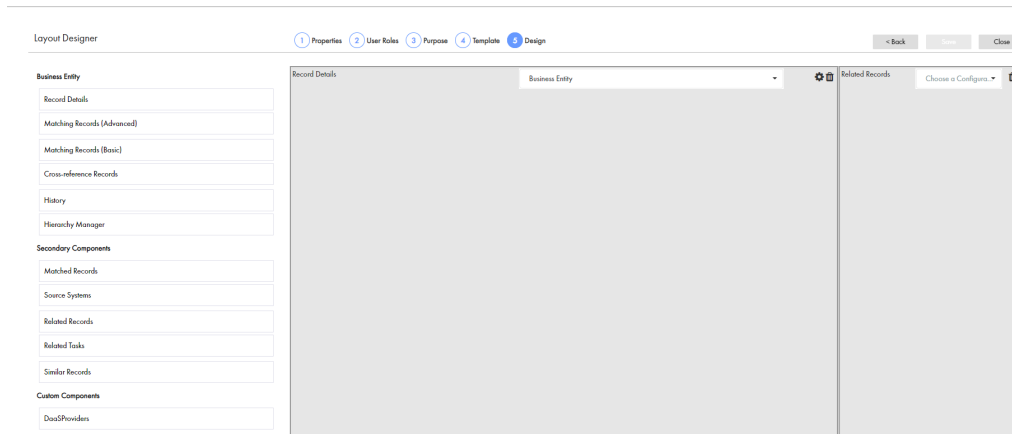
10. コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

a. **【レコードの詳細】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

b. 関連情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに **【レコードの詳細】** コンポーネントと **【関連レコード】** コンポーネントがある **【デザイン】** ページです。



11. **【レコードの詳細】** コンポーネントの選択したフィールドをレコードビューに表示するには、コンポーネントを設定します。

a. コンポーネントの設定リストから、設定を選択します。

デフォルト設定を選択することも、カスタム設定を選択することもできます。
使用可能なデフォルト設定を次に示します。

- デフォルト-完全: ルートノードとすべての子ノードを含むビジネスエンティティの設定。
- デフォルト-ルート: ビジネスエンティティのルートノードの設定。

b. ワークスペースでコンポーネントの **【設定】** アイコンをクリックします。

【Record Details Component Designer】 が表示されます。

c. **【設定名】** フィールドに設定名を入力します。

重要: 設定名がどのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認してください。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、設定の名前を Person にしないでください。

d. 属性を追加できるセクションの数を設定する場合は、**【セクション】** リストで数値を選択します。

注: レイアウトに複数のセクションが含まれている場合、レコードの詳細の一部のフィールド値が表示されない場合があります。

e. 垂直メニューを使用してビジネスエンティティの詳細にアクセスする場合は、**【ナビゲーションビル】** を有効にします。

f. **【属性】** セクションから、レコードビューで表示するビジネスエンティティ属性を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。

例えば、[名]、[ミドルネーム]、[姓]、[生年月日]、[税金 ID] を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。

g. **【子ノード】** セクションから、レコードビューで表示する子ビジネスエンティティを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。

例えば、請求先住所、配送先住所、電話番号、電子メールを【子ノードのレイアウト】セクションにドラッグします。

次の図は、属性と子ノードのレイアウトが定義された【Record Details Component Designer】を示しています。

- h. 子ビジネスエンティティの選択したフィールドをレコードビューに表示するには、子エンティティの横にある【設定】アイコンをクリックします。

【Record Details Component Designer】が表示され、子エンティティを設計できます。

- i. 【完了】をクリックします。

【デザイン】ページが表示されます。

12. 【保存】をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

13. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. 【パブリッシュ】をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、【パブリッシュ】をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、【変更の確認】をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーが Data Director にレコードを作成したまたは開いた場合、このユーザーロールように設計されたレコードビューのレイアウトはレコードのタブに表示されます。

関連項目：

- [「レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 145\)](#)

一致したレコードビューのレイアウトの設計

デフォルトの一致したレコードビューを置き換えるには、レコードビューのレイアウトを設計します。[一致したレコード (詳細)] コンポーネントまたは [一致したレコード] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから **【レコードビューと確認タスク】** を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. **【レコードの表示または編集】** オプションを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
 8. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

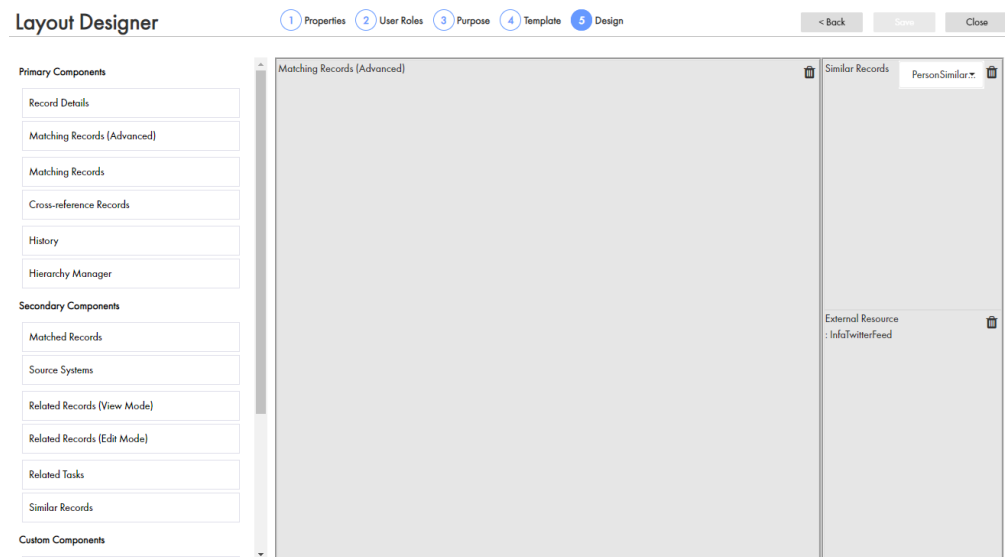
【デザイン】 ページが表示されます。

9. 1つのプライマリコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- マージ比較パネルの高度な機能を使用してレコードをマージするには、[一致したレコード (詳細)] コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
[一致したレコード (詳細)] コンポーネントを使用して、レコードのルートおよび子の値をオーバーライドおよび昇格します。
- マージ比較パネルを使用してレコードをマージするには、[一致したレコード] コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
[一致したレコード] コンポーネントを使用して、レコードのルートの値をオーバーライドします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

次の図は、ワークスペースに [一致したレコード (詳細)] コンポーネント、[類似するレコード] コンポーネント、[Twitter フィード] コンポーネントがある **【デザイン】** ページです。



10. 必要に応じて、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。
11. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
12. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーが Data Director にレコードを開いた場合、このユーザーロールのレコードビューのレイアウトはレコードのタブに表示されます。

関連項目：

- [「レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 145\)](#)

相互参照レコードビューのレイアウトの設計

相互参照レコードビューを置き換えるには、レコードビューのレイアウトを設計します。[相互参照レコード] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから **【レコードビューと確認タスク】** を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. **【レコードの表示または編集】** オプションを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
 8. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

【デザイン】 ページが表示されます。

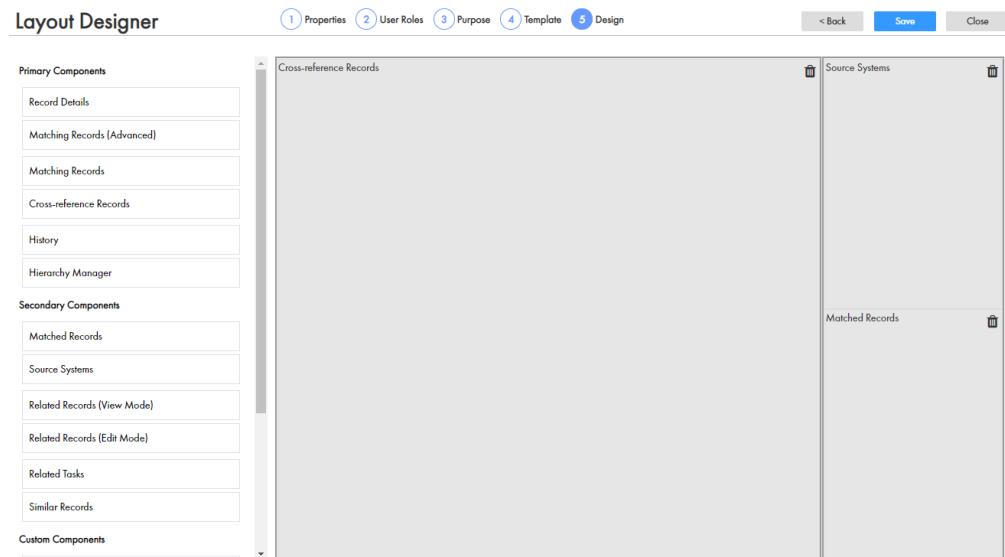
9. コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- a. **【相互参照レコード】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

- b. 関連情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに**【相互参照レコード】** コンポーネント、**【ソースシステム】** コンポーネント、**【一致レコード】** コンポーネントがある**【デザイン】** ページです。



10. **【保存】** をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーが Data Director にレコードを開いた場合、このユーザーロールのレコードビューのレイアウトはレコードのタブに表示されます。

関連項目：

- [「レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 145\)](#)

履歴ビューのレイアウトの設計

履歴ビューを置き換えるには、カスタムレコードビューのレイアウトを設計します。[履歴] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから **【レコードビューと確認タスク】** を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. **【レコードの表示または編集】** オプションを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
 8. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

【デザイン】 ページが表示されます。

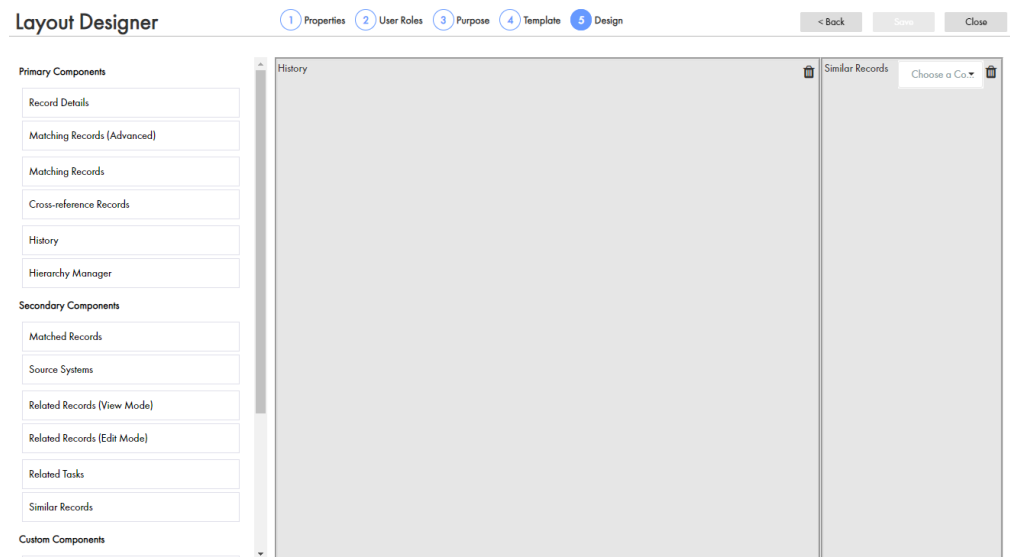
9. コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- a. **【履歴】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

- b. 関連情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに**【履歴】** コンポーネント、**【類似するレコード】** コンポーネントがある**【デザイン】** ページです。



10. **【保存】** をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーが Data Director にレコードを開いた場合、このユーザーロールのレコードビューのレイアウトはレコードのタブに表示されます。

関連項目：

- [「レコードビューと確認タスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 145\)](#)

確認タスクのレイアウトの設計

タスクマネージャで確認タスクを管理するには、カスタムレコードビューのレイアウトを設計します。[レコードの詳細] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから **【レコードビューと確認タスク】** を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. **【レコードの表示または編集】** オプションを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
 8. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

【デザイン】 ページが表示されます。

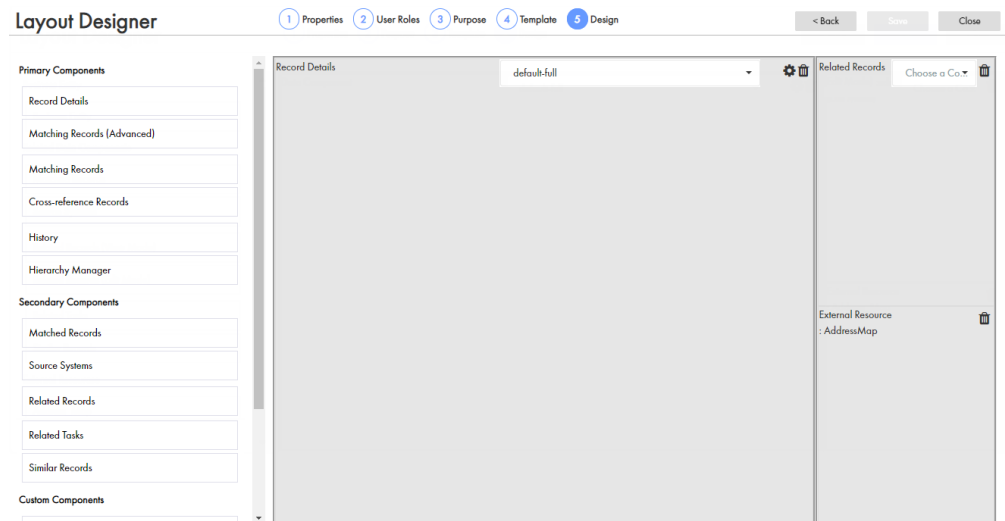
9. コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- a. [レコードの詳細] コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

- b. 関連情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに [レコードの詳細] コンポーネント、[関連レコード] コンポーネント、[アドレスマップ] コンポーネントがある【デザイン】 ページです。



10. 【保存】 をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. 【パブリッシュ】 をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、【パブリッシュ】 をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、【変更の確認】 をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーがタスクマネージャで確認タスクを管理する場合、そのユーザーロール用に設計されたレコードビューのレイアウトが確認パネルに表示されます。

マージタスクのレイアウトの設計

タスクマネージャでマージタスクを管理するには、カスタムレコードビューのレイアウトを設計します。[一致したレコード (詳細)] コンポーネントまたは [一致したレコード] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから、**【マージタスク】** を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティまたはビジネスエンティティビューを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. エンドユーザーがレコードビューを使用して実行できる次のアクションのいずれかを選択します。
ビジネスエンティティのワークフローのマージタスク。
サブジェクト領域のワークフローのマージタスク。
 8. **【次へ】** をクリックします。
 9. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

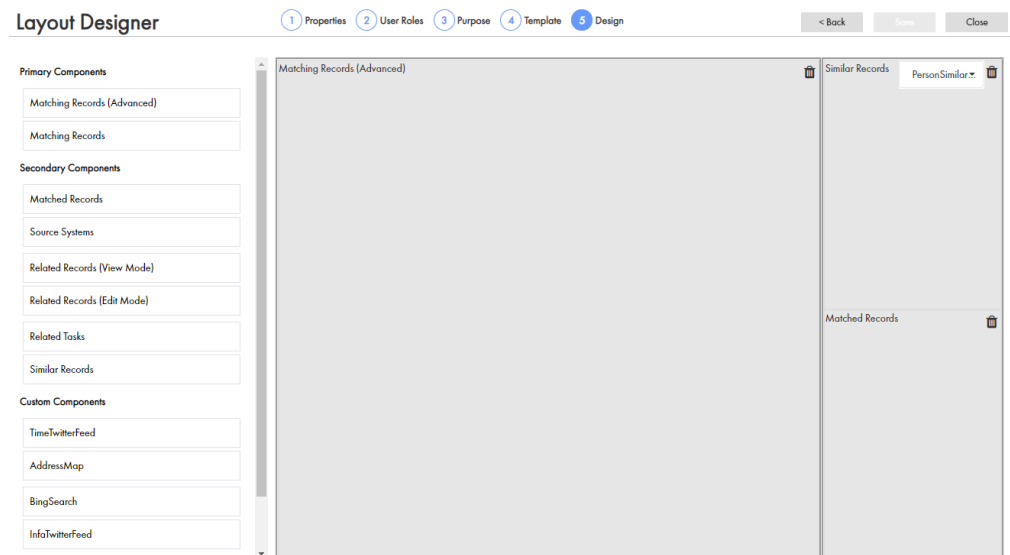
【デザイン】 ページが表示されます。

10. 1つのプライマリコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- マージ比較パネルの高度な機能を使用してマージタスクを管理するには、[一致したレコード (詳細)] コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
[一致したレコード (詳細)] コンポーネントを使用して、レコードのルートおよび子の値をオーバーライドおよび昇格します。
- マージ比較パネルを使用してマージタスクを管理するには、[一致したレコード] コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
[一致したレコード] コンポーネントを使用して、レコードのルートの値をオーバーライドします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

次の図は、ワークスペースに [一致したレコード (詳細)] コンポーネント、[類似するレコード] コンポーネント、[一致したレコード] コンポーネントがある【デザイン】 ページです。



11. 必要に応じて、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

12. 【保存】 をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

13. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. 【パブリッシュ】 をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、【パブリッシュ】 をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、【変更の確認】 をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーがタスクマネージャでマージタスクを管理する場合、そのユーザーロール用に設計されたレコードビューのレイアウトが確認パネルに表示されます。

関連項目：

- [「マージタスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 147\)](#)

マージ解除タスクのレイアウトの設計

タスクマネージャでマージ解除タスクを管理するには、カスタムレコードビューのレイアウトを設計します。
[相互参照レコード] コンポーネントを追加し、必要なセカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントを追加します。

1. **【設定】 > 【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】 > 【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】 > 【マージ解除タスク】** をクリックします。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	このオプションのラベル。ビュー名は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されます。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。
リストオプションアイコン	オプション。このリストオプションのアイコン。リストオプションアイコンが Data Director の 【ビュー】 リストに表示されます。
リスト順	オプション。Data Director で開いているレコードのタブのリストでのビュー名の配置。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティを選択します。
例えば、**【Person】** を選択します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【ユーザーロール】 ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
【目的】 ページが表示されます。
 7. **【レコードの表示または編集】** オプションを選択して、**【次へ】** をクリックします。
【テンプレート】 ページが表示されます。
 8. レコードビューのレイアウトに対するユーザー設定をサポートするテンプレートを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: プライマリコンポーネントは、他のコンポーネントよりも横方向のスペースを必要とします。レコードビューのレイアウトを設計する場合、プライマリコンポーネントを表示できる大きさのパネルを含むテンプレートを選択します。

【デザイン】 ページが表示されます。

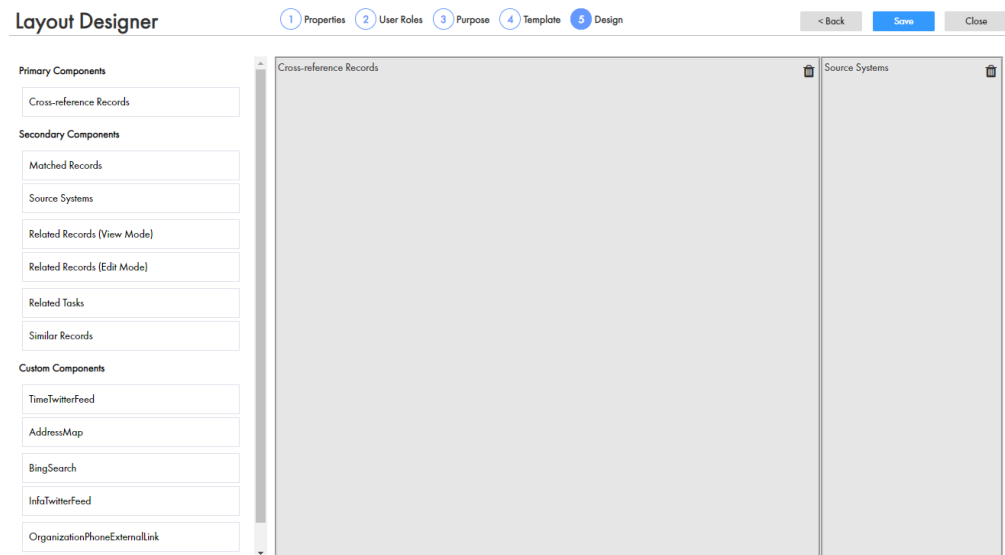
9. コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

- a. **【相互参照レコード】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。

注: ワークスペースにドラッグできるプライマリコンポーネントは1つだけです。

- b. 関連情報を表示するには、セカンダリコンポーネントまたはカスタムコンポーネントをワークスペースにドラッグします。

次の図は、ワークスペースに**【相互参照レコード】**コンポーネントと**【ソースシステム】**コンポーネントがある**【デザイン】**ページです。



10. **【保存】** をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

11. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。

- a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。

- 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
- 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

【レイアウトカテゴリ】 パネルにレイアウトが表示されます。ユーザーがタスクマネージャでマージ解除タスクを管理する場合、そのユーザーロール用に設計されたレコードビューのレイアウトが確認パネルに表示されます。

関連項目：

- [「マージ解除タスクのレイアウトタイプ」 \(ページ 148\)](#)

階層ビューの [クイックビュー] タブの設計

レコードの詳細を表示するには、[クイックビュー] タブを設計します。Data Director では、ユーザーは [階層] ビューで [クイックビュー] タブを表示できます。

1. [設定] > [レイアウトデザイナー] をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. [作成] > [レコードビューのレイアウト] をクリックします。
[プロパティ] ページが表示されます。
3. [レイアウトタイプ] リストから [レコードビューと確認タスク] を選択します。
4. レイアウトのプロパティを定義します。
 - a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	[クイックビュー] のラベル。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの [レイアウトカテゴリ] パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。

- b. レイアウトを設計するビジネスエンティティを選択します。
例えば、[Person] を選択します。
5. [次へ] をクリックします。
[ユーザーロール] ページが表示されます。
 6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、[次へ] をクリックします。
ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。
[目的] ページが表示されます。
 7. [階層ビューのクイックビュータブでレコードを表示] チェックボックスを選択します。
 8. [次へ] をクリックします。
[テンプレート] ページが表示されます。
 9. [テンプレート 1] を選択し、[次へ] をクリックします。
[デザイン] ページが表示されます。
 10. [レコードの詳細] をワークスペースにドラッグして、コンポーネントを設定します。
 - a. コンポーネントの設定リストから、設定を選択します。
デフォルト設定を選択することも、カスタム設定を選択することもできます。

使用可能なデフォルト設定を次に示します。

- デフォルト-完全: ルートノードとすべての子ノードを含むビジネスエンティティの設定。
 - デフォルト-ルート: ビジネスエンティティのルートノードの設定。
- b. ワークスペースでコンポーネントの **【設定】** アイコンをクリックします。
【Record Details Component Designer】 が表示されます。
 - c. **【設定名】** フィールドに設定名を入力します。
重要: 設定名がどのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認してください。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、設定の名前を Person にしないでください。
 - d. **【セクション】** リストから **1** を選択します。
 - e. **【属性】** セクションから、レコードビューで表示するビジネスエンティティ属性を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。
例えば、[名]、[ミドルネーム]、[姓]、[生年月日]、[税金 ID] を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。
 - f. **【子ノード】** セクションから、レコードビューで表示する子ビジネスエンティティを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
例えば、請求先住所、配送先住所、電話番号、電子メールを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
 - g. **【完了】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
11. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
 12. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

ネットワークビューの **【クイックビュー】** タブの設計

レコードの詳細を表示するには、**【クイックビュー】** タブを設計します。Data Director では、ユーザーは **【ネットワーク】** ビューで **【クイックビュー】** タブを表示できます。

1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. **【作成】** > **【レコードビューのレイアウト】** をクリックします。
【プロパティ】 ページが表示されます。
3. **【レイアウトタイプ】** リストから **【レコードビューと確認タスク】** を選択します。

4. レイアウトのプロパティを定義します。

a. 以下のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
ビュー名	[クイックビュー] のラベル。
レイアウト名	設計するレイアウトのラベル。レイアウトを設計してパブリッシュすると、ラベルがレイアウトデザイナーの 【レイアウトカテゴリ】 パネルに表示されます。
レイアウト ID	システム ID を生成するために使用されるラベル。
説明	オプション。レイアウトを識別するためのわかりやすい説明。

b. レイアウトを設計するビジネスエンティティを選択します。

例えば、**【Person】** を選択します。

5. **【次へ】** をクリックします。

【ユーザーロール】 ページが表示されます。

6. レコードビューのレイアウトにアクセスできるユーザーロールを選択して、**【次へ】** をクリックします。

ヒント: ユーザーロールを作成するには、MDM Hub コンソールを使用します。

【目的】 ページが表示されます。

7. **【ネットワークビューのクイックビュータブでレコードを表示】** チェックボックスを選択します。

8. **【次へ】** をクリックします。

【テンプレート】 ページが表示されます。

9. **【テンプレート 1】** を選択し、**【次へ】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

10. **【レコードの詳細】** をワークスペースにドラッグして、コンポーネントを設定します。

a. コンポーネントの設定リストから、設定を選択します。

デフォルト設定を選択することも、カスタム設定を選択することもできます。

使用可能なデフォルト設定を次に示します。

- デフォルト-完全: ルートノードとすべての子ノードを含むビジネスエンティティの設定。
- デフォルト-ルート: ビジネスエンティティのルートノードの設定。

b. ワークスペースでコンポーネントの **【設定】** アイコンをクリックします。

【Record Details Component Designer】 が表示されます。

c. **【設定名】** フィールドに設定名を入力します。

重要: 設定名がどのビジネスエンティティ名とも同じでないことを確認してください。例えば、ご使用の環境に Person ビジネスエンティティがある場合は、設定の名前を Person にしないでください。

d. **【セクション】** リストから **1** を選択します。

e. **【属性】** セクションから、レコードビューで表示するビジネスエンティティ属性を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。

例えば、**【名】**、**【ミドルネーム】**、**【姓】**、**【生年月日】**、**【税金 ID】** を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。

- f. **【子ノード】** セクションから、レコードビューで表示する子ビジネスエンティティを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
例えば、請求先住所、配送先住所、電話番号、電子メールを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
 - g. **【完了】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
11. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
 12. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

ホームページのレイアウトの更新

レイアウトデザイナーで Data Director の **【ホーム】** ページのレイアウトを更新できます。例えば、追加コンポーネントを表示するように **【ホーム】** ページのレイアウトを更新できます。

トラブルシューティングのヒント: レイアウトを更新すると、Data Director のレイアウトタブ名は **【無題のレイアウト】** になります。10.2 より前のバージョンで作成されたレイアウトで、この問題が発生します。**【プロパティ】** ページで名前を変更できます。タブ名を非表示にするには、**【目的】** ページを使用します。

1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。
レイアウトデザイナーが表示されます。
2. 更新するレイアウトを選択するには、**【ホーム】** ページのレイアウトカテゴリを展開して、更新する **【ホーム】** ページのレイアウトを選択します。
3. **【編集】** をクリックします。
【デザイン】 ページが表示されます。
4. **【ホーム】** ページに必要なコンポーネントをワークスペースにドラッグします。
例えば、**【タスクインボックス】** コンポーネントと **【ダッシュボードレポート】** コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
5. コンポーネントを **【ホーム】** ページのレイアウトに追加するには、コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
6. **【ホーム】** ページのレイアウトからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの **【削除】** アイコンをクリックします。
7. レイアウトのプロパティ、目的、またはテンプレートを更新するには、**【戻る】** をクリックして前のページに移動し、変更を行います。
8. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。

9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

追加ページのレイアウトの更新

レイアウトデザイナーで Data Director の追加ページのレイアウトを更新できます。例えば、より多くのコンポーネントを表示するように追加ページのレイアウトを更新できます。

1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。

レイアウトデザイナーが表示されます。
2. レイアウトを更新するには、追加ページのレイアウトカテゴリを展開して、更新する追加ページのレイアウトを選択します。
3. **【編集】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。
4. 含めるコンポーネントをワークスペースにドラッグします。
 - コンポーネントを追加ページのレイアウトに追加するには、コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
 - 追加ページのレイアウトからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの **【削除】** アイコンをクリックします。
 - レイアウトのプロパティ、目的、またはテンプレートを更新するには、**【戻る】** をクリックして前のページに移動し、変更を行います。
5. **【保存】** をクリックします。

変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
6. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

レコードビューのレイアウトの更新

レコードビューのレイアウトはレイアウトデザイナーで更新できます。例えば、追加のコンポーネントを表示したり不要になったコンポーネントを削除したりするためにレコードビューのレイアウトを更新できます。

トラブルシューティングのヒント: レイアウトを更新すると、Data Director のレイアウトタブ名は **【無題のレイアウト】** になります。10.2 より前のバージョンで作成されたレイアウトで、この問題が発生します。**【プロパティ】** ページで名前を変更できます。タブ名を非表示にするには、**【目的】** ページを使用します。

1. **【設定】** > **【レイアウトデザイナー】** をクリックします。

レイアウトデザイナーが表示されます。

2. 更新するレイアウトを選択するには、レコードビューのレイアウトに関連するレイアウトカテゴリを展開して、レコードビューのレイアウトを選択します。
3. **【編集】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

4. レイアウトにレコードの詳細コンポーネントが含まれていて、フィールドを追加または削除する場合は、このコンポーネントを設定します。

- a. ワークスペースでデータコンポーネントの **【設定】** アイコンをクリックします。

【Record Details Component Designer】 が表示されます。

- b. 垂直メニューを使用してビジネスエンティティの詳細にアクセスする場合は、**【ナビゲーションビル】** を有効にします。
- c. 特定のビジネスエンティティ属性をレコードビューのレイアウトに追加するには、**【属性】** セクションから、ビジネスエンティティ属性を **【属性のレイアウト】** セクションにドラッグします。
- d. 特定のビジネスエンティティ属性をレコードビューのレイアウトから削除するには、**【属性のレイアウト】** セクションでビジネスエンティティ属性の **【削除】** アイコンをクリックします。
- e. 子ビジネスエンティティをレコードビューのレイアウトに追加するには、**【子ノード】** セクションから子ビジネスエンティティを **【子ノードのレイアウト】** セクションにドラッグします。
- f. 特定の子エンティティをレコードビューのレイアウトから削除するには、**【子ノードのレイアウト】** セクションで子エンティティの **【削除】** アイコンをクリックします。
- g. 子エンティティの選択したフィールドをレコードビューで表示するには、子エンティティの横にある **【設定】** アイコンをクリックします。

Record Details Component Designer が表示され、子エンティティを設計できます。

- h. **【完了】** をクリックします。

【デザイン】 ページが表示されます。

5. コンポーネントをレコードビューのレイアウトに追加するには、コンポーネントをワークスペースにドラッグします。
6. レコードビューのレイアウトからコンポーネントを削除するには、コンポーネントの **【削除】** アイコンをクリックします。
7. レイアウトのプロパティ、目的、またはテンプレートを更新するには、**【戻る】** をクリックして前のページに移動し、変更を行います。
8. **【保存】** をクリックします。
変更内容は、一時ワークスペースに保存されます。
9. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。

- b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

タスクマネージャの設定

タスクマネージャには、タスクの通知とレビュープロセスがタスクの通知を生成する関連レコードの詳細が表示されます。タスクマネージャの **【タスク】** パネルに表示するフィールドを選択できます。

1. **【設定】** > **【全般設定】** の順にクリックし、**【タスクマネージャの設定】** を選択します。
2. 次のいずれかの手順に従います。
 - はじめてタスクマネージャを設定するには、**【作成】** をクリックします。
注: オペレーショナルリファレンスストアに作成できるタスクマネージャは1つのみです。
 - タスクマネージャ設定を編集するには、**【タスクマネージャの設定】** を選択します。
[プロパティ] パネルには、**【基本】** および **【詳細】** タブが表示されます。ユーザーインターフェースでタスクマネージャを設定するには、**【基本】** タブを使用します。XML コードでタスクマネージャを設定するには、**【詳細】** タブを使用します。[「タスクマネージャを設定する XML コード」 \(ページ 208\)](#) を参照してください。
3. **【基本】** タブの **【表示フィールド】** フィールドで **【編集】** をクリックします。
【テーブル設定】 ダイアログボックスが表示されます。
4. フィールドを追加または削除するには、フィールドを選択し、必要なセクションにドラッグします。
5. フィールドの順序を設定するには、フィールドを上下に移動します。
6. **【OK】** をクリックします。
7. **【適用】** をクリックします。
8. 変更内容を MDM Hub にパブリッシュします。
 - a. **【パブリッシュ】** をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示され、変更内容をパブリッシュまたは確認するように求められます。
 - b. 変更内容を確認するか、確認せずにパブリッシュします。
 - 確認せずにパブリッシュする場合は、**【パブリッシュ】** をクリックします。
 - 確認後にパブリッシュするには、**【変更の確認】** をクリックし、画面に表示される指示に従います。

タスクマネージャを設定する XML コード

タスクマネージャ設定ページの【詳細】タブで、XML コードを使用してタスクマネージャを設定します。

次の表に、タスクマネージャを設定するために XML コードで使用する要素をリストします。

要素	説明
displayFields	タスクマネージャの【タスク】パネルに表示するフィールドの名前。 次のいずれかのフィールドを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- TASK_TITLE。確認タスクの簡単な説明。- TYPE。プロセス内のユーザーアクティビティの名前。- PRIORITY。タスクの優先度。- STATUS_DUEDATE_FILTER。タスクのステータスと、タスクの期限となる日付。- OWNER。サインインしたユーザーの名前。- TASK_ID。タスクを生成した確認プロセスのインスタンス ID。- SUBMITTED_CREATOR_FILTER。タスクを作成したユーザーの名前と、ユーザーがタスクを作成した日付。
excludeTaskTypes	タスクマネージャの【タスク】パネルに表示しないタスクタイプ。

次のサンプル XML コードには、タスクマネージャの【タスク】パネルのすべてのフィールドが含まれ、ドラフトおよびマージタスクが除外されています。

```
<taskManager
  xmlns="http://www.informatica.com/mdm/TaskManager">
  <displayFields>TASK_TITLE</displayFields>
  <displayFields>TYPE</displayFields>
  <displayFields>PRIORITY</displayFields>
  <displayFields>STATUS_DUEDATE_FILTER</displayFields>
  <displayFields>OWNER</displayFields>
  <displayFields>TASK_ID</displayFields>
  <displayFields>SUBMITTED_CREATOR_FILTER</displayFields>
  <excludeTaskTypes>AVOSBeDraftState</excludeTaskTypes>
  <excludeTaskTypes>AVOSBeMerge</excludeTaskTypes>
</taskManager>
```

デフォルトのレコードビューの非表示

カスタムレコードビューを設計した後は、デフォルトのレコードビューを非表示にして、エンドユーザーの混乱を避けることができます。

注: デフォルトのレコードビューは個別に非表示にできません。

1. 【設定】 > 【アプリケーションエディタ】をクリックします。
2. 設定する IDD アプリケーションを選択します。
IDD アプリケーションの詳細は、【ツリービュー】パネルと【プロパティ】パネルに表示されます。
3. 【プロパティ】パネルで、【デフォルトのレコードビューを表示】チェックボックスをクリアします。
4. 【適用】をクリックします。

デフォルトのレコードビューの名前は、Data Director で開いているレコードのタブとして表示されません。

関連項目：

- [「デフォルトのレコードビュー」 \(ページ 149\)](#)

第 16 章

Data Director のローカライズ

この章では、以下の項目について説明します。

- [Data Director のローカライズの概要, 209 ページ](#)
- [メタデータのローカライズ, 209 ページ](#)
- [タスクのアクション、タイプ、およびメッセージのローカライズ, 210 ページ](#)
- [ルックアップテーブルのローカライズ, 211 ページ](#)
- [ラベルとエラーメッセージをローカライズ, 213 ページ](#)

Data Director のローカライズの概要

Data Director のユーザーインターフェースのすべての要素を他の言語で表示できます。ユーザーインターフェースのすべての要素は選択した言語でローカライズされます。ローカライズされる要素は、メニュー、ボタン、ナビゲーションリンク、ラベル、エラーメッセージ、およびメタデータです。

ユーザーが Data Director アプリケーションにログインするときに、優先される言語が選択できます。選択した言語はそのユーザーのデフォルトの言語になります。

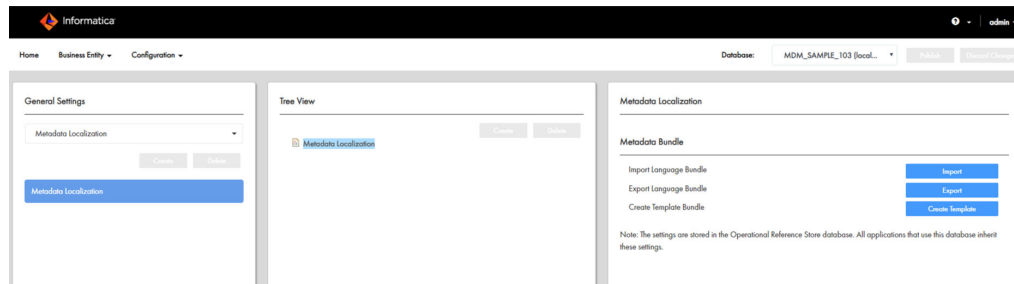
Data Director をローカライズするには、10 の言語のリストから言語を選択します。MDM 管理者はこのリストにない新しい言語を Data Director アプリケーションに追加できます。

メタデータのローカライズ

Data Director ですべてのメタデータをローカライズできます。メタデータには、データに関する追加情報が表示されます。例えば、Person ビジネスエンティティのメタデータには、姓名、生年月日、税金 ID が含まれます。

1. **【設定】 > 【全般設定】** の順にクリックし、**【メタデータローカリゼーション】** を選択します。
2. **【メタデータローカリゼーション】** をクリックします。

【ツリービュー】パネルと【メタデータローカリゼーション】パネルに、ローカリゼーションオプションが表示されます。



3. 【メタデータローカリゼーション】パネルの【メタデータバンドル】で、【テンプレートの作成】をクリックします。

besMetadata.zip ファイルがダウンロードされます。

注: テンプレートバンドルを作成した場合は、【エクスポート】をクリックして besMetadata.zip ファイルをダウンロードし、ファイルを編集して、【インポート】をクリックして言語メタデータバンドルをインポートします。

4. besMetadata.zip ファイルを、ローカルドライブ上の場所に保存します。
5. ローカルドライブに besMetadata.zip ファイルを解凍します。
besMetadata.properties ファイルが表示されます。
6. プロパティファイルのコピーを、使用する言語の言語コードと国コードを付けて保存します。
例えば、フランス語（カナダ）バージョンを作成するには、ファイルを besMetadata_fr_CA.properties として保存します。
7. テキストエディタでローカライズ済みファイルを開きます。各プロパティに、角括弧で囲んだ言語コードを追加し、それに続いて翻訳を追加します。
例えば、次のプロパティは、名前のフランス語の翻訳を示します。
Person.firstName=(fr)prénom
8. このローカライズ済みプロパティファイルを.zip ファイルに圧縮して、ローカライズ済みプロパティファイルと同じ名前を付けます。
例えば、besMetadata_fr_CA.zip を作成します。
9. ローカライズ済み.zip ファイルをインポートします。【メタデータローカリゼーション】パネルの【メタデータバンドル】で、【インポート】をクリックします。

言語メタデータバンドルがインポートされます。

注: タスクアクションをローカライズするには、besMetadata.properties ファイルのタスクアクション名の間に、手動でスペースを追加する必要があります。その際、taskaction.<アクション名>の形式を使用します。例えば、taskaction.CancelTask を taskaction.CancelTask=(br)Cancel Task に変更します。

タスクのアクション、タイプ、およびメッセージのローカライズ

タスクアクション、タスクタイプ、およびタスクアクションのメッセージは、メタデータに含まれます。タスクメタデータは、besMetadata.properties ファイルに定義します。

1. 【設定】>【全般設定】の順にクリックし、【メタデータローカリゼーション】を選択します。
2. 【メタデータローカリゼーション】をクリックします。

3. **【メタデータローカリゼーション】** パネルの **【メタデータバンドル】** で、**【エクスポート】** をクリックします。besMetadata.zip テンプレートファイルがダウンロードされます。
4. ファイルを解凍し、besMetadata.properties ファイルをご使用のエディタで開きます。
5. タスクアクションとタスクアクションメッセージのプロパティを追加します。タスクタイプのプロパティを編集します。

タスクプロパティには次の構文を使用します。

プロパティタイプ	構文	フランス語ローカライズの例
タスクアクション	taskaction.<タスクアクション>=<ローカライズ後のタスクアクション>	taskaction.Cancel_Task=Annuler la tâche 注: タスクアクション名のスペースをアンダースコアに置き換えます。この例で、Cancel Task のスペースは、アンダースコアに置き換えられます (Cancel_Task)。
タスクタイプ	tasktype.<タスクタイプ>=<ローカライズ後のタスクタイプ>	tasktype.AVOSBeMerge=Fusionner 注: 追加するタスク名を知るには、ActiveVOS サーバーにプロセスとしてデプロイされている、事前定義済みの MDM ワークフローを把握している必要があります。
タスクアクションメッセージ	taskactionmessage.<タスクアクション設定>.<タスクアクション>=<ローカライズ後のメッセージ>	taskactionmessage.TypicalConfig.Escalate=Vous êtes sur le point de transmettre la tâche à votre responsable.

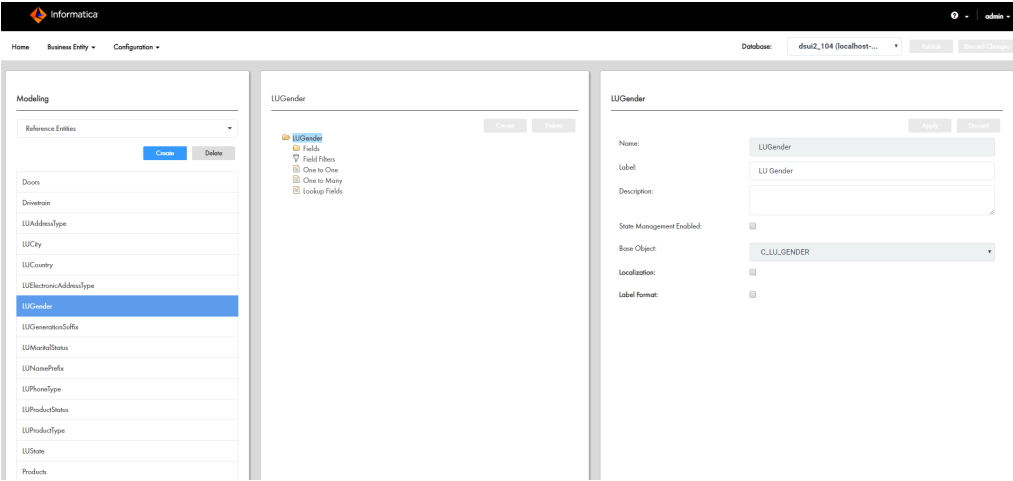
6. 適切な言語コードと国コードのサフィックスをプロパティファイル名に追加して保存します。
例えば、フランス語（カナダ）でメタデータをローカライズする場合、言語コードは fr で、国コードは CA です。besMetadata_fr_CA.properties という名前でファイルを保存します。
7. プロパティファイルを圧縮します。
8. **【メタデータローカリゼーション】** パネルの **【メタデータバンドル】** で、**【インポート】** をクリックします。besMetadata.zip テンプレートファイルがインポートされます。

ルックアップテーブルのローカライズ

すべてのルックアップテーブルでは、ローカリゼーションがサポートされます。ルックアップテーブルをローカライズするには、ルックアップテーブルを対応するルックアップローカリゼーションテーブルにマップする必要があります。例えば、性別コードのリストをローカライズするには、LookupGender ルックアップテーブルを LookupGender ルックアップローカリゼーションテーブルにマップします。

1. **【ビジネスエンティティ】** > **【モデリング】** をクリックしてから、**【参照エンティティ】** を選択します。
2. ローカライズする参照エンティティルックアップを選択します。

例えば、[LUGender] を選択します。



3. [プロパティ] パネルで、[ローカリゼーション] チェックボックスを選択します。
- その他のデータベースプロパティと値が、データベーステーブル設定に基づいて表示されます。以下の表は、C_LU_GENDER_LCL ベースオブジェクトテーブルのカラム名の例です。

プロパティ	値
ベースオブジェクト	C_LU_GENDER_LCL
キーカラム	GENDER_CODE
国カラム	COUNTRY_CODE
言語カラム	LANGUAGE_CODE
値カラム	LOCALIZED_STRING

注: ルックアップテーブルをローカライズする際、同じテーブルカラムをキーカラムと値カラムとして設定しないでください。ルックアップキー値カラムには、ローカライズされた値が表示されます。

4. [適用] をクリックして、LUGender エンティティをローカライズします。
5. [パブリッシュ] をクリックします。
6. 変更内容を確認し、[確認] をクリックします。

ラベルとエラーメッセージをローカライズ

ラベルとエラーメッセージは、Data Director のユーザーインタフェースを構成する静的テキストです。プロビジョニングツールのインタフェースでテキストをローカライズすることはできません。Data Director のローカリゼーションバンドルを編集することで、ラベルとエラーメッセージをローカライズできます。

重要: Informatica は、ローカリゼーションバンドルの変更をサポートする ant スクリプトを提供しています。始める前に、受け取った LocalizationScript ディレクトリを resourceKit ディレクトリにコピーします。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
<MDM Hub installation directory>/hub/server/
```

2. 次のファイルをコピーします。

- entity360view-ear.ear
- provisioning-ear.ear
- uiwebapp-ear.ear

3. 次のディレクトリに移動します。

```
<MDM Hub installation directory>/resourceKit/LocalizationScript
```

4. コピーしたファイルを貼り付けて、ディレクトリに次のファイルとディレクトリが含まれていることを確認します。

- entity360view-ear.ear
- provisioning-ear.ear
- uiwebapp-ear.ear
- build.xml ファイル
- ライブラリディレクトリ
- ant.sh
- ant.bat

5. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
ant generate_all
```

コマンドにより、i18n ディレクトリとローカリゼーションバンドルファイルが生成されます。

6. コマンドラインまたはご使用のエディタでローカリゼーションバンドルファイルを開きます。

7. 必要に応じて、バンドルファイルを編集し、`bundle_<language name>.properties` の形式で保存します。例えば、フランス語ローカリゼーションファイルを更新する場合、`bundle_fr.properties` という名前でファイルを保存します。

8. 次のコマンドを実行して、更新されたバンドルファイルを生成します。

```
ant generate_all
```

9. 次のコマンドを実行して、.ear ファイルを更新します。

```
ant update_all
```

10. 更新された.ear ファイルを<MDM Hub installation directory>/hub/server にコピーします。

11. PostInstallSetup スクリプトを実行して、更新された.ear ファイルをアプリケーションサーバーにデプロイします。

付録 A

プロビジョニングツールに関するよくある質問

- [プロビジョニングツールに関するよくある質問, 214 ページ](#)

プロビジョニングツールに関するよくある質問

以下では、よくある質問に回答することによって、プロビジョニングツールの概要を説明しています。

プロビジョニングツールとは何をするものですか？

プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティモデル、タスク、トランスフォーメーションを定義し、Data Director のユーザーインターフェースを設計できます。

プロビジョニングツールはどこにインストールしますか？

プロビジョニングツールは、Hub サーバーと同じアプリケーションサーバー上で実行する必要があります。

構成ファイルを MDM Hub にパブリッシュするときに、設定は検証されますか？

はい。Repository Manager によって設定が検証され、エラーがあった場合には報告されます。

名前フィールドで特殊文字（' ' など）を使用できますか？

いいえ。プロビジョニングツールでは、名前に特殊文字を使用することはできません。サブジェクト領域の設定からビジネスエンティティスキーマを生成する場合は、最初に、サブジェクト領域の設定で名前から特殊文字を削除しておく必要があります。

複数のユーザーが同時に同じデータベースのビジネスエンティティを設定するとどうなりますか？

データベースのビジネスエンティティ設定に、設定に含まれていない変更がある場合は、プロビジョニングツールによって通知されます。設定をパブリッシュし、MDM Hub にあるすべての設定を上書きすることができます。

注意: あるユーザーが行った変更を別のユーザーが誤って上書きする可能性があるので、Informatica は、プロビジョニングツールを使用する前にユーザー間で調整することを推奨しています。

設定の更新中に MDM Hub でスキーマの設定が変更された場合はどうなりますか？

構成ファイルに対して作業を行っている間、[適用] をクリックすると、変更が一時ワークスペースに保存されます。変更をパブリッシュするまで変更は適用されません。複数のユーザーが ORS のビジネスエンティティ設定を同時に変更する場合、最後にパブリッシュされた設定で MDM Hub が更新されます。

注: [適用] をクリックすると、変更を編集できなくなります。変更を編集するには、変更を破棄するか、またはパブリッシュしてください。

ビジネスエンティティモデルで使用する最大レベル数はどのくらいですか?

最大レベル数が3のサブジェクト領域とは異なり、ビジネスエンティティモデルで使用するレベル数には制限がありません。

ベースオブジェクトはどのようにして作成および設定しますか?

ベースオブジェクトを作成および設定するには、Hub コンソールのスキーマツールを使用します。

ベースオブジェクト間の制約はどのようにして定義しますか?

ベースオブジェクト間の制約を定義するには、Hub コンソールのリレーションツールを使用します。

索引

数字

- 1
ノードの追加 [30](#), [31](#)

D

- DaaS
トランスフォーメーション [126](#)
統合 [128](#)
- DaaS コンポーネント
作成 [136](#)
- DaaS プロバイダ
コンポーネント [128](#)
概要 [127](#)
- DaaS 統合
概要 [125](#)
- Data Director
アプリケーション [16](#)

I

- IDD アプリケーション
作成 [17](#), [170](#)
- Informatica Data Director のユーザーインターフェース
コンポーネント [150](#), [157](#), [168](#)
ホームページ [143](#)
レイアウト [141](#), [142](#)
レコードビュー [144](#)
概要 [141](#)
前提条件 [142](#)
例 [142](#)
- Informatica Data Director のユーザーインターフェースレイアウト
概要 [142](#)
- Informatica Data Director のラベル
概要 [38](#)

S

- SAM
特権 [112](#)
- SOAP サービス
WSDL [126](#)
概要 [127](#)

W

- WSDL
DaaS プロバイダ [126](#)
SOAP サービス [126](#)

あ

- アーキテクチャ
概要 [13](#)
- アナライザ
文字フィルタ
トークナイザ [87](#)
トークンフィルタ [87](#)

い

- インデックスの設定
アナライザ [87](#)

え

- エラスティック検索
インデックスの設定 [87](#)

か

- 外部キー
概要 [27](#)
- カスタムデータ型
概要 [37](#), [45](#)
追加 [38](#), [46](#)

く

- クエリ
チャートのリンク先 [180](#)
設定 [18](#)
- クエリ結果
設定 [18](#)

こ

- コンポーネント
設定例 [167-169](#)
ソースシステム [164](#)
タスクインボックス [151](#)
ダッシュボードレポート [152](#)
チャート [158](#)
レコードの詳細 [153](#)
一致したレコード [155](#)
一致したレコード（詳細） [154](#)
一致レコード [163](#)
階層マネージャ [157](#)
外部リソース [168](#)
関連タスク [165](#)
関連レコード [164](#)

コンポーネント (続く)
相互参照レコード [156](#)
履歴 [156](#)
類似するレコード [165](#)

さ

サインイン
プロビジョニングツール [14](#)
削除
DaaS プロバイダ [137](#)
SOAP サービス [137](#)
WSDL ファイル [137](#)
拡張 [137](#)

せ

制約
概要 [27](#)
セキュリティ
ビジネスエンティティ [113](#)
フィールドフィルタ、定義 [119](#)
フィルタ、定義 [44](#)
セキュリティアクセスマネージャ
特権 [112](#)
セキュリティフィルタ
ノードフィルタ、追加 [122](#)

そ

ソースシステム
コンポーネント [164](#)

た

タスク
承認者の変更 [110](#)
タスクインボックス
コンポーネント [151](#)
コンポーネントの作成 [171](#)
タスクマネージャ
チャートのリンク先 [182](#)
ダッシュボードレポート
コンポーネント [152](#)

ち

チャート
コンポーネント [158](#)
コンポーネントの作成 [177](#)

て

データ
セキュリティとフィルタ [112](#)
デフォルトのレコードビュー
[タイムライン] ビュー [149](#)
[ビジネスエンティティ] ビュー [149](#)
[一致したレコード] ビュー [149](#)
[階層] ビュー [149](#)
[相互参照レコード] ビュー [149](#)
[履歴] ビュー [149](#)

デフォルトのレコードビュー (続く)
デフォルトのレコードビューの非表示 [208](#)

と

トークナイザ
組み込み [88](#)
トークンフィルタ
組み込み [88](#)
トランスフォーメーション
DaaS [126](#)
XML からビジネスエンティティ [126](#)
タイプ [126](#)
ビジネスエンティティから XML [126](#)
ドリルダウンチャート
チャートのリンク先 [179](#)

の

ノードタイプ
概要 [28](#)
ノードのラベル
概要 [38](#)
設定 [39](#)

は

はじめに [10](#)

ひ

ビジネスエンティティ
アプリケーションの設定 [18](#)
コピー [32](#)
削除ストラテジの設定 [24](#)
識別ストラテジの設定 [24](#)
概要 [14](#)
作成 [22](#)
状態管理の設定 [24](#)
定義 [32](#)
ビジネスエンティティ構造
ノードタイプ [28](#)
ビジネスエンティティビュー
コピー [55](#)
定義 [55](#)
ビジネスエンティティモデル
概要 [26](#)

ふ

フィールド
追加 [36](#)
フィールドのプロパティ
概要 [33, 42](#)
フィールドフィルタ
ルールとユーザーロール [118, 121](#)
追加 [119](#)
フィルタ
データ [112](#)
フィールド、ルール [118, 121](#)
プライマリキー
概要 [27](#)

プロビジョニングツール
概要 [12](#)

ほ

ホームページ
コンポーネント [150](#), [168](#)
概要 [143](#)
更新 [204](#)
設計 [182](#)
設定 [182](#), [204](#)

ま

マージタスク
構成 [197](#)
設計 [197](#)
マージ解除タスク
構成 [199](#)
設計 [199](#)

ら

ラベル
エラーメッセージ [213](#)
ローカライズ [213](#)

り

リレーション
外部キー [27](#)
リレーションの設定
概要 [62](#)

る

ルートノード
概要 [14](#), [20](#)

ルートノードのプロパティ
ビジネスエンティティ [21](#)
ルックアップの設定 [46](#)

れ

レイアウト
Informatica Data Director のユーザーインターフェース [142](#)
コンポーネント [150](#), [157](#), [168](#)
ホームページ [143](#)
レコードビュー [144](#)
レイアウトのコンポーネント
カスタム [168](#)
セカンダリ [157](#)
プライマリ [150](#)
レコードの詳細
コンポーネント [153](#)
レコードビュー
コンポーネント [150](#), [157](#), [168](#)
概要 [144](#)
更新 [206](#)
設定 [206](#)
レコードビューのレイアウト
設計 [137](#)
レコードビューのレイアウトタイプ
マージタスク [144](#), [148](#)
マージ解除タスク [144](#), [149](#)
レコードビュー [144](#), [145](#)
確認タスク [144](#), [145](#)

ろ

ローカライズ
ラベルとエラーメッセージ [213](#)
ロール特権
[ビジネスエンティティ] ビュー [117](#)
ビジネスエンティティ [115](#)
ビジネスエンティティのノード [123](#)
ビジネスエンティティのフィールド [120](#)
ログイン
プロビジョニングツール [14](#)